

ISSN 2434-513X

東アジア日本学研究

第 11 号

Japanese Studies in East Asia

No.11

東アジア日本学研究学会

The Society of Japanese Studies in East Asia

2024 年 3 月 20 日発行

日本学研究と他者への眼差し

人間は「生まれつき基本的な共感能力」を備わっているらしい。

最近の神経科学や心理学の研究によると、その共感能力が「他者の体験や感情を内在化することに関わり、他者への関心を持つという生得的な特質の根底を成す」という。つまり、「他者への関心」は人間の「生物学的傾向」なのだ。その関心の対象が身近な者に偏ったり、同類をより好んだり、自らの「歪んだレンズ」で相手を判断したりするなど、幾つかの不安定要素はあるものの、異なる他者に関心を示し、知ろうとする営みは途絶えることなく綿々と続いてきた。恐らく他者を知ることと自己を知ることとの一体性にその究極の理由があると考えられる。

ソクラテスは、哲学探究の出発点を「汝自身を知れ」に置いたし、道教の老子は「人を知る」ことを「智」と呼び、「己を知る」ことを「明」と呼んだ（知人者智、自知者明）。彼にとって自らを知ることの方が遥かに困難かつ重要な課題だった。フランスの社会人類学者クロード・レヴィ・ストロースは、「他者を知ることを通して、もう一つの他者としての自己を発見すること」を行動指針として位置づけ貫いた。人間の集団は、各々の文化のパターン、コードやリズムを持つことで、集団内の共通性を確認し、成員の結束を促し、特異性を強調する境界性を設けて他者を区別する。他者を知るとは、こうした文化を操っている規則を知ることにはほかならない。相手の文化を操る規則を知るとは、また自分の文化を操っている規則に気づき、自らを知るためのきっかけと有効な視点を獲得することに繋がる。慣れ親しんだ自文化の中では自文化を操る規則を意識しないから、他者への眼差しは実は自らへの眼差しでもある。「日本学」は、基本的に「地域研究」の範疇に属する。「地域研究」とは、ある特定の地域に特有の言語や歴史、社会、政治、経済の仕組み、家族の在り方や生き方などを明らかにすることを目指す学問分野である。日本学研究では、自ずと日本の固有性や特異性への探究が試みられる。こうした特異性への追求が最終的に人類文化の普遍性の究明に貢献することは言うまでもない。一方、文化的背景を異にする研究者は日本学研究を通して自らを眺め、自らを知るための視点や方法論を獲得することになるから、研究者は日本への眼差しを以って「自分探しの旅」へと帰還するのである。

この度、『東アジア日本学研究』（第11号）には、本学会会員による投稿論文13篇が掲載され、世に問うこととなった。新型コロナウイルス感染によって現地調査、学会活動、人的交流などが厳しく制限される中においても、意欲的に研究活動を続け、学会運営を支えて下さった会員の皆さんに心より敬意を表すると同時に、学会誌の発行にご尽力頂いた編集委員会の皆さん、査読者の皆さんに心より感謝の辞を申し上げたい。

東アジア日本学研究学会
会長 金龍哲

目次

巻頭言	金龍哲（東アジア日本学研究学会会長）	1
-----	--------------------	---

【論文】

文都日娜	モンゴル語を母語とする日本語学習者における日本語の有対動詞の 自動詞・他動詞・受身の選択について —母語の影響に着目して—	5
靳夢瑩	日本語の後項動詞「だす」の出現状況 —中国の日本語教科書を中心に—	15
朱一平・薛茜比	優れた中国人日本語学習者の動機づけの発達的变化 —ダイナミックシステム理論の視点から—	25
張智超	「横山光輝三国志」における曹操像の改作 —中国人大学生の受容を兼ねて—	35
于心・張智超	日中両国の仏教説話における「恋の鬼」の比較研究 —「愛」と「憎しみ」について—	45
安勇花・金星	志賀直哉「三つの処女作」についての考察	55
仲矢信介	ドラマ『深夜食堂』リメイク作品に見る日韓の架橋	63
高小超	毒ガス被害者の救済に関する一考察 —日本国内を中心に—	71
金斑実	清末民国期における河南留学生研究	81
王維亭・タン・ティ・ミ・ビン	ベトナムにおける技能実習生送り出し機関の現状と改善点 —現地調査を中心に—	91
力丸美和	日本語教育におけるダイバシティ・マネジメント —母語話者教師と非母語話者教師の割合が教育効果に与える影響—	99
李東輝・饒勝男	「朝日新聞」における記事からみる日本人家族の介護意識の変遷 —1980年～2019年のデータベースを中心に—	107

【研究ノート】

橋本恵子	福岡方言に関する意識調査	117
学会役員		127
学会動向		128
会員消息		129
東アジア日本学研究学会会則		130
『東アジア日本学研究』投稿要領		133

『東アジア日本学研究』執筆要領	136
『東アジア日本学研究』査読要領	137
編集後記	139

モンゴル語を母語とする日本語学習者における日本語の有対動詞 の自動詞・他動詞・受身の選択について —母語の影響に着目して—

文都日娜（名古屋大学大学院生）

要旨

本稿は日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について「人為的事態」の場合の日本語母語話者（「日」）、モンゴル語を母語とする日本語学習者（「モ」）の選択率を「モ」の母語の影響に着目して比較したものである。その結果、「日」は動作主の意図を強く感じなければ自動詞を好むのに対し、「モ」は母語では動作主が存在すれば動作主の行為を意識して他動詞を使いやすくなるため、その影響で日本語でも他動詞を選択する傾向が見られる。「被害・迷惑」を表す事態の場合も「日」は動作主の行為に焦点を置かず、動作主の行為の結果状態で捉え自動詞を好むのに対し、「モ」は母語では動作主の行為に視点を置く場合もあれば、「被害・迷惑」の意味でも捉えるため、他動詞と受身の選択が見られる。特に被害・迷惑の意味で「日」より強く捉えるため、受身の選択率が高い。また、「動作主の不注意による対象の変化」の場合は「日」は意図的行為ではなくても動作主の不作為という意味で他動詞を好むのに対し、「モ」は自然的変化で捉え自動詞を好む。「動作主の意図的行為」を表す場合は「日」も「モ」も他動詞を好むことが分かる。以上のことから日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について「モ」は母語の影響で「日」と違う異なる選択をすることを指摘した。

キーワード： 自動詞、他動詞、受身、モンゴル語、学習者

はじめに

日本語学習者にとって日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択は習得が難しい項目の1つである。その原因は、日本語は「ナルの言語」であり、他言語に比べて自動詞を好む点にある。例えば、日本語では「火事で家が焼けた」のように被害・迷惑を表す場合にも自動詞を好むのに対し、モンゴル語では“*yal-un ayul-du ger šitaydaɣai*.”（焼かれた）と受身を好む。そのため、学習者は母語の影響で日本語の母語話者とは異なる選択をする可能性があると考えられる。そこで本研究では日本語母語話者（「日」）とモンゴル語を母語とする日本語学習者（「モ」）における日本語の自動詞・他動詞・受身の選択傾向の違い

を「モ」の母語の影響の観点から見ることにより、日本語教育に役立てたい。

1. 先行研究

1.1 小林 (1996)

小林 (1996) は、学習者は上級レベルになっても日本語で「開いた」、「消えた」と言うべきところを「開けられた」、「消された」と受身で表現することを挙げ、「行為の結果の状態を自動詞によって表現することは難しいようである」(p. 41) と指摘している。

また、小林 (1996) は「事態を描き出すための言語化にあたっては、どの段階の相を表現するのか、(略) 学習者にとってはこの決定が困難である」(p. 54) と指摘している。

しかし、小林 (1996) は学習者の表現形式を予想しているだけで、実際に調査をしているわけではない。そこで、本研究では「日」と「モ」にアンケートによる日本語の自動詞・他動詞・受身の選択テストを実施し、両者において動作主の行為に焦点を置きやすいか、対象の変化に焦点を置きやすいかを比較する。

1.2 守屋 (1994)

守屋 (1994) は中国系 60 名、韓国系 49 名、英語系 21 名の学習者にテストを行い、自動詞・他動詞の選択を観察している。その結果、「動詞の自他の選択のむずかしさは、程度の差はあれ、自動詞選択のむずかしさにある」(p. 163) と指摘している。また、守屋 (1994) は事態を大きく「非人為的イベント」と「人為的イベント」の二つに分類している。この分類は日本語の自動詞・他動詞を考えるのに重要な点であり、本研究でも参考にする。

しかし、守屋 (1994) の例「風でドアが閉まった」はモンゴル語では“*salkin-dü egüde qayaydaï*” (閉められた) と受身を使う場合もある。そのため、「モ」は母語の影響によって日本語でも受身を選択する可能性がある。

1.3 杉村 (2013)

一方、杉村 (2013) では自動詞と他動詞に受身を加えた三者の選択について論じている。杉村 (2013) では日本語母語話者と中国語母語話者上級日本語学習者に自動詞・他動詞・受身の選択について調査を行い、「人為的事態の場合」を分析している。その結果、「母語話者は動作主の存在を強く認識しなければ他動詞を選択しにくいのに対し、学習者は動作主の存在を感じれば他動詞を選択しやすい」(p. 37) と指摘している。本研究ではこの指摘を参考に「モ」の母語の影響の観点から「モ」の選択傾向を見る。

2. 本研究における事態の分類

本研究では、杉村 (2013) の事態の分類を修正し、事態を八種類に分類する。まず、人

の行為に関わるかどうかという観点から事態を大きく「非人為的事態」と「人為的事態」の二つに分類する。次に「非人為的事態」を、無情物の自発的变化を表す「内在的变化」（事態①）、風力や熱や光などの作用による変化を表す「自然力の作用による対象の変化」（事態②）、事態②に被害や迷惑の意味が伴った「自然力による被害・迷惑」（事態③）の三つに分類する。

一方、「人為的事態」は、「動作主の行為の結果に焦点のあるもの」と「動作主の行為に焦点のあるもの」の二つに分類する。次に、「動作主の行為の結果に焦点のあるもの」を、「対象の状態」を表すもの（事態④）、「対象の変化」を表すもの（事態⑤）、事態⑤に被害や迷惑の意味が伴った「被害・迷惑の意味を表す」（事態⑥）の三つに分類する。次に、「動作主の行為に焦点」を、動作主の意図性がない「動作主の不注意による対象の変化」（事態⑦）と動作主の意図性がある「意図的行為を表す」（事態⑧）の二つに分類する。本研究における分類を表1に示す。

表1 本研究における事態の分類

事態の分類			例文
非 人 為 的		①内在的变化	電池が <u>切れて</u> 時計が止まった。
		②自然力の作用による対象の変化	風が吹いて、ドアが <u>開いた</u> 。
		③自然力による被害・迷惑	火事で家が <u>焼けた</u> 。
人 為 的	動作主の行為 の結果に焦点	④対象の状態	特売品にはシールが <u>付いている</u> 。
		⑤対象の変化	さあ、肉が <u>焼けた</u> から食べよう。
		⑥人為による被害・迷惑	空襲で家が <u>焼けた</u> 。
	動作主の行為 に焦点	⑦動作主の不注意による対象の変化	最近体調を <u>崩した</u> 。
		⑧動作主の意図的行為	コーヒーに砂糖を <u>入れて</u> 飲む。

3. 調査の概要

本研究では表1の分類に応じて、以下のような合計43問の日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身についてのアンケートによる三者択一テストを作成し、「日」には日本語版（日・日）、「モ」には日本語版（モ・日）とモンゴル語訳版（モ・モ）を実施した。

問題「次の文の（ ）の中にA～Cのうち最も適切だと思うものを1つ選んで記入してください」

風が吹いて、ドア（ ）。

A. が開いた B. を開けた C. が/を開けられた

被験者は以下の通りである。

・日本語母語話者：名古屋大学の学部生 63 名

・モンゴル語母語話者：

日本語のテスト：中国の内モンゴル大学・内モンゴル師範大学の日本語専攻の 2 年生、
3 年生、4 年生合計 56 名

モンゴル語のテスト：モンゴル語母語話者 72 名

4. 調査結果と考察

本節では「日・日」、「モ・日」、「モ・モ」の自動詞・他動詞・受身の選択率の割合（％）を比較した。以下、表 1 の「人為的事態」の場合の事態④から事態⑧の順に、43 問の中から 6 問を抜粋して見ていく。

4.1 対象の状態（事態④）の場合

本稿で言う「対象の状態」とは、動作主の行為によって変化した対象の結果状態のことである。図 1 は「シールが付いている」状態を表している。

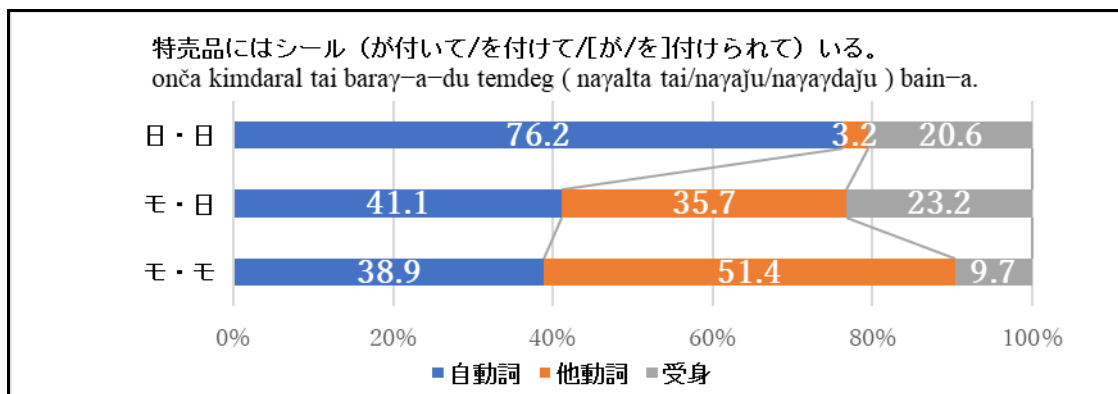


図 1（事態④：対象の状態）

この場合、「日・日」は自動詞の選択率が 76.2%と高く、シールを貼った人物には注目せず、シールの状態に焦点を置きやすい。また、受身も 20.6%選択されており、主としてシールの状態に焦点を置きながらも、動作主の存在も意識している人もいる。しかし、他動詞は 3.2%しか選択されておらず、主として動作主の行為に焦点を置いた表現は取りにくい。一方、「モ」の自動詞と受身の割合は「日・日」に似ているが、他動詞の選択率が 51.4%もある点で「日・日」とは異なる。これに対し、「モ・日」は「モ・モ」に比べて受身の選択率が高く、他動詞の選択率が低くなっているが、他動詞も 35.7%あり、「日・日」よりはかなり高い。しかし、自動詞の選択率は「モ・モ」とほぼ同じで、「日・日」よりかなり低い。このことから、図 1 の場面はモンゴル語では行為の結果とも動作主の行為とも捉えられ、「モ・日」は母語の影響で「日・日」に比べて自動詞の選択率が低く、他動詞の

選択率が高くなっていると考えられる。また、「モ・日」の受身の選択率は「日・日」に近く、「モ・モ」よりは対象の状態に焦点を置きやすいことが分かる。

4.2 対象の変化（事態⑤）の場合

「対象の変化」とは、動作主の行為によって対象が変化することである。図2は「肉が焼けていない」状態から「焼けた」状態に変化することを表している。

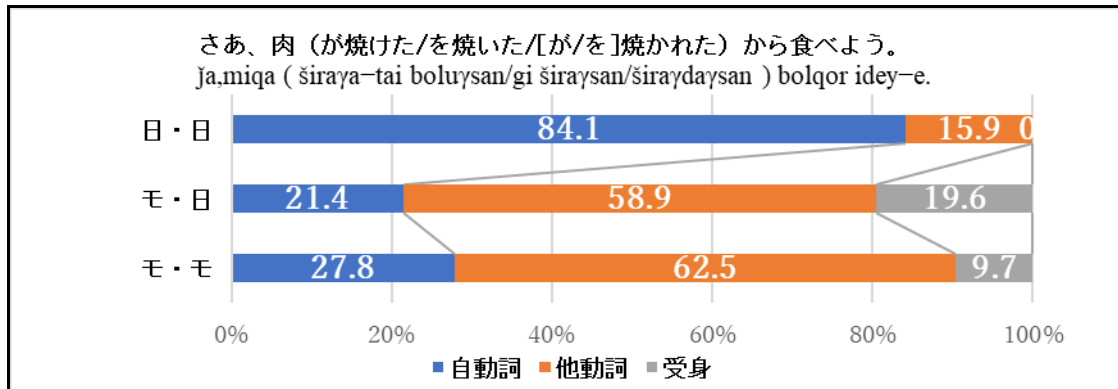


図2（事態⑤：対象の変化）

この場合、「日・日」は自動詞の選択率が84.1%と高く、「焼いた」という動作主の行為よりも肉が食べられる状態になったという結果状態として捉えているのに対し、「モ」と「モ・日」は他動詞の選択率の方が58.9%、62.5%と高く、食べるために肉を焼いたと動作主の行為に焦点を置きやすいことが分かる。受身に関しては、「日・日」の選択率が0%であるのに対し、「モ・モ」はモンゴル語では肉が食べられる状態になっていることを「焼かれた」と表現することもあるため、「モ」では9.7%になっている。その影響で「モ・日」でも受け身の選択率が19.6%になっていると考えられる。このことから、「日・日」は動作主の働きかけによって対象が変化した場合でも、対象の変化に焦点を置いて自動詞が選択されやすいのに対し、「モ・日」は母語の影響で動作主の働きかけがあればそこに焦点を置きやすいことが分かる。

4.3 人為による被害・迷惑（事態⑥）の場合

「人為による被害・迷惑」とは、動作主の行為によって対象が被害・迷惑を受けることである。図3の「空襲」、図4の「放火」はいずれも人為的行為による被害・迷惑を表している。

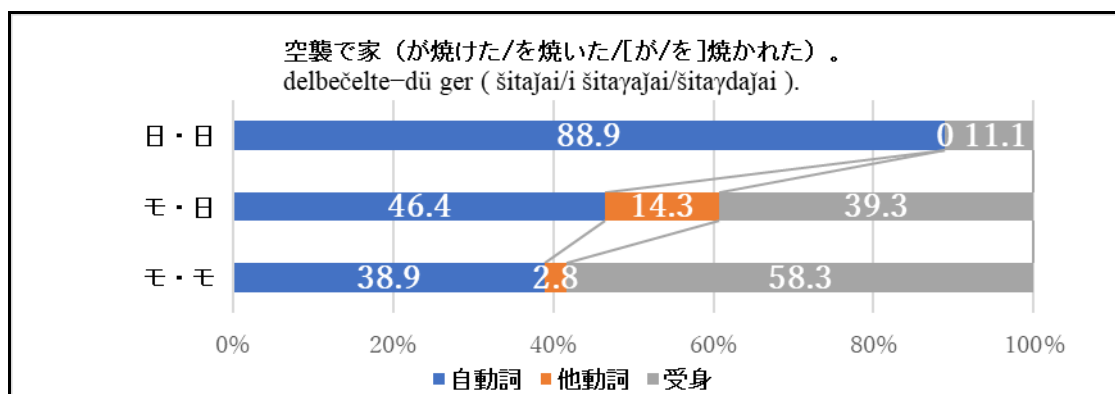


図 3 (事態⑥：人為による被害・迷惑)

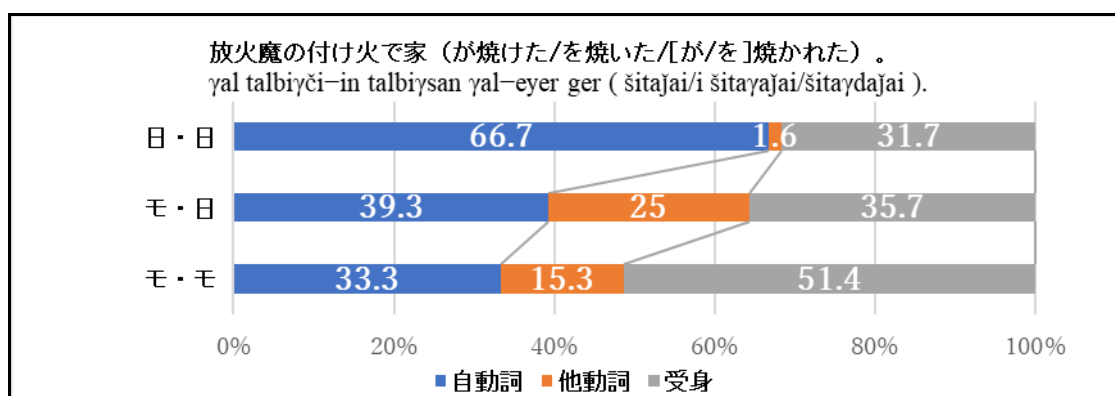


図 4 (事態⑥：人為による被害・迷惑)

この場合、「日・日」は被害の意味を感じて受身も選択されるが、自動詞の選択率の方が 88.9%、66.7%と高くなっている。しかし、他動詞はほとんど選択されていない。このことから、「日・日」は人為的事態でも対象の変化に焦点を当てやすいことが分かる。また、「日・日」の受身の選択率は図 3 より図 4 の方が高くなっている。これは「空襲」は動作主を特定しにくいのに対し、「放火魔」は特定しやすいためであると考えられる。一方、「モ・モ」は動作主の行為を意識して他動詞を選択する場合もあれば、「被害・迷惑」の意味で捉えて、「日・日」より受身の選択率がかなり高くなる。その影響で「モ・日」でも他動詞と受身の選択率が「日・日」より高くなっていると考えられる。このことから、人為による「被害・迷惑」の場合、「モ・日」は「日・日」より動作主の行為に焦点を置きやすく、他動詞や受身の選択率が高くなることが分かる。

4.4 動作主の不注意による対象の変化（事態⑦）の場合

「動作主の不注意による対象の変化」とは、動作主の不注意によって非意図的に対象が変化することである。図 5 は動作主の不注意により「体調」の調子が悪くなることを表している。

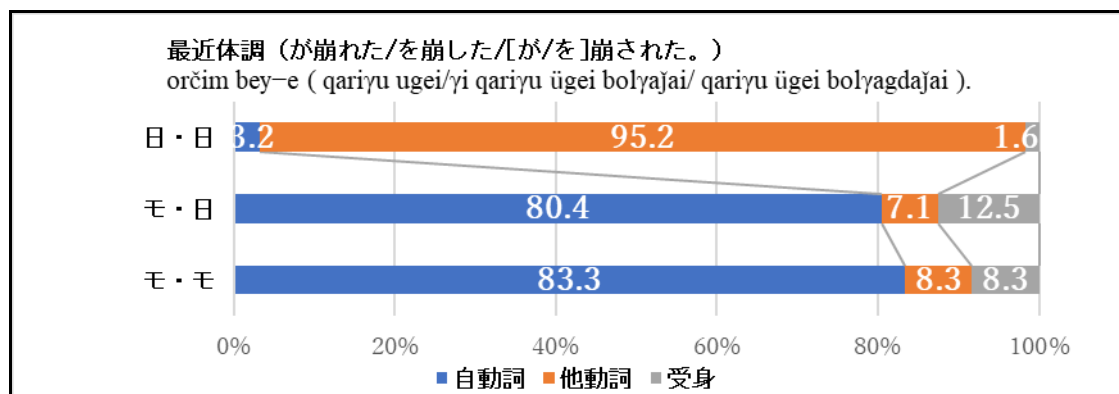


図 5（事態⑦：動作主の不注意による対象の変化）

この場合、「日」は意図的行為ではなくても、すべきことをしなかったという動作主の不作为という意味で他動詞を好む。一方、「モ・モ」は「体調」は動作主が直接コントロールできない自然的変化であると捉えるため、自動詞の選択率が 83.3%と高くなっている。また、「日・日」と違い、「モ・モ」と「モ・日」はいずれも受身の選択率が 10%前後ある。これは「体調」が何かの原因で「崩された」と被害・迷惑の意味で捉えているためであると考えられる。なお、事態⑦は「うっかり枝を折る」、「肝臓を壊す」、「財布を落とす」など日本語では他動詞を取りやすいが、モンゴル語では自他の選択で様々なパターンがあり、「モ・日」の選択も様々である。これについては紙幅の関係で別稿で論じることにする。

4.5 動作主の意図的行為（事態⑧）の場合

「動作主の意図的行為」とは、動作主が対象に意図的行為を与えることである。図 6 は動作主が意図的に目的をもって対象である「砂糖」に働きかけたことを表している。

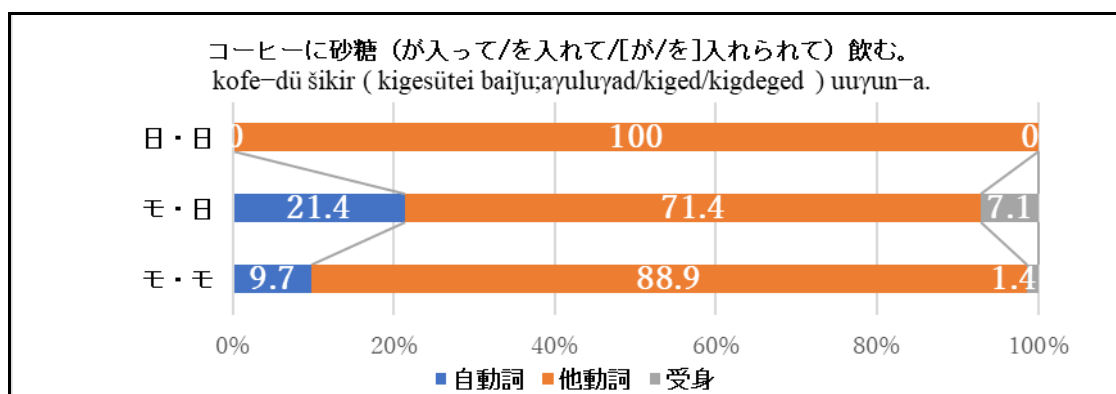


図 6（事態⑧：動作主の意図的行為）

この場合、「日」は他動詞の選択率が 100%である。このように動作主の目的意識が強い

場合は、日本語でも他動詞が選好される。一方、「モ・モ」の場合は他動詞の選択率が高いが、自動詞と受身の選択も少し見られる。これはモンゴル語では「コーヒーに砂糖が入っている状態で飲む」と表現することもたまにあるためである。これに対し、「モ・日」では自動詞の選択率が 21.4%、受身の選択率が 7.1%と少し高く、合わせて三割ほど対象の状態に焦点を当てた表現になっている。ただし、全体的には動作主が対象に意図的に働きかけを加える場合は「日・日」も「モ・日」も他動詞を好むことが分かる。図 6 において「モ・日」の自動詞や受身の選択率が「モ・モ」より少し高くなっている理由については今後の課題とする。

おわりに

以上、本稿では「日・日」、「モ・日」、「モ・モ」の自動詞・他動詞・受身の選択について論じた。その結果、これら三者の取りやすい動詞形式を整理すると表 2 のようになる。

表 2 各被験者の取りやすい動詞形式

事態	日・日	モ・日	モ・モ
④対象の状態	自動詞	自動詞・他動詞	
⑤対象の変化	自動詞	他動詞	
⑥人為による被害・迷惑	自動詞・受身		
⑦動作主の不注意による対象の変化	他動詞	自動詞	
⑧動作主の意図的行為	他動詞		

表 2 に示したように日本語の自動詞・他動詞・受身の選択について、日本語とモンゴル語とでは事態の捉え方の違いがあり、その影響で「モ」は「日」と違う選択をすることが分かった。

参考文献

- 小林典子 (1996) 「相対自動詞による結果・状態の表現--日本語学習者の習得状況」『文藝言語研究・言語篇』29、筑波大学文芸・言語学系、41-56 頁。
- 須賀一好 (2006) 「自動詞文と他動詞文の意味論」『日本語の研究』2 (4)、122-127 頁。
- 杉村泰 (2013) 「中国語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について--人為的事態の場合」『日本語/日本語教育研究』4、21-38 頁。
- 早津恵美子 (1987) 「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統合的特徴」『言語学研究』6、79-109 頁。
- 守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件--習得状況の分析を参考に」『講座日本語教育』29、早稲田大学日本語研究教育センター、151-165 頁。

Choice between the intransitive, transitive, and passive forms of Japanese paired verbs
by Mongolian learners Japanese: Focusing on L1 influence

Wendurina

Abstract

For learners of Japanese, one of the most challenging topics is the choice between the intransitive, transitive, and passive forms of Japanese paired verbs. This difficulty arises because Japanese is a “BECOME language” that favors intransitive verbs, unlike other languages. For example, when expressing damage or annoyance, Japanese prefers the use of intransitive verbs, as in the sentence “the house burned in a fire”. Conversely, Mongolian favors the passive form, as in the sentence *yal-un ayul-du ger šitaydaĭai* (“it was burned”). As a result, Mongolian learners of Japanese may make different word choices compared to native speakers due to the influence of their native language. This study examines the differences between native Japanese speakers (“*Nichi*”) and Mongolian learners of Japanese (“*Mo*”) regarding the influence of the latter’s native language on their selection of Japanese intransitive, transitive, and passive verbs. The study strives to shed light on these differences in order to enhance Japanese language education.

Keywords : intransitive, transitive, passive forms, Mongolian language, learners

14 モンゴル語を母語とする日本語学習者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身の選択について ―母語の影響に着目して― (論文)

日本語の後項動詞「だす」の出現状況 —中国の日本語教科書を中心に—

靳 夢瑩（九州大学大学院生）

要旨

本研究は、日本語の後項動詞「だす」が持つ「移動」「顕在化」「開始」の3つの意味について、中国で広く使用されている37冊の日本語の教科書において「だす」と結合する前項動詞の出現傾向をコレスポネンシ分析でレベル別に分析したものである。分析の結果、各レベルにおいて「移動」を表す意味の占める割合が最も高く、「開始」を表す意味の占める割合が最も少ないことが分かった。また、「移動」と結合する前項動詞について、初級ではCommerce_sell フレームとContacting フレームなどを喚起する傾向が強く、中級と上級ではCause_motion フレームやBody_movement フレームなど、移動を表すフレームを喚起する傾向が強い。また、「顕在化」を表す「だす」は中級と上級で現れる傾向がある。結合する前項動詞は、中級ではCogitation フレームやStatement フレームなどの思考や叙述に関連するフレームを喚起し、上級ではText_creation フレームやReveal_secret フレーム、Processing_materials フレームなどの産出や顕現に関連するフレームを喚起する。さらに、「開始」を表す「だす」と共起する前項動詞は、中級ではSelf_motion フレームやMotion フレームなど日常活動に関連するフレームを多く喚起し、上級ではWorry フレームやPerception_experience フレームなどを喚起する。

キーワード： 教科書、複合動詞、だす、フレームネット、レベル別

はじめに

動詞「だす」は、単純動詞として使用される際にそれ自体が多義性（姫野 1999）を持ち、また複合動詞の後項となる際にも多義的意味を持つ。例えば、「取りだす」の後項動詞「だす」は内部から表への移動の経路を表すが、「泣きだす」の後項動詞「だす」は統語的な意味である「開始」を表し、「泣くことを始めること」を意味する。また、結合制限によって結合できない前項動詞も存在する。これらの要因から、たとえ学習者が「だす」の意味を理解していたとしても、異なる前項動詞との結合によって誤用する可能性がある。

フレーム意味論は語彙の背景知識を重視する意味論のことである（陳・松本 2018）。語の意味によって喚起する背景知識（フレーム）が異なるため、1つの語は意味によって複数の

フレームを喚起することが可能であり、複数の語が背景知識の類似性によって同一のフレームを喚起することも可能である。そのため、複合動詞の前項動詞と後項動詞の意味をそれぞれのフレームで記述し、グルーピングすることで、結合傾向を数量化し、結合制限を明らかにすることが可能となる。

本研究は、多義性をもつ後項動詞「だす」について、中国でよく使われる日本語の教科書において、前項動詞との結合状況を「移動」「顕在化」「開始」の3つのフレームに分けて分類し、レベル別の扱い方について明らかにすることを目的とする。

以下、1節では、後項動詞「だす」の意味分類を呉（1983）及び姫野（1999）に基づいて概観し、複合動詞指導の不足点を示す。2節では、フレーム意味論を紹介する。3節では、本研究で用いた研究手法及び研究データを紹介する。4節では、フレームネットを用いた「だす」の意味記述を試み、各意味によって結合する前項動詞の出現傾向を明らかにする。最後に本稿のまとめを示す。

1. 後項動詞「だす」の意味分類

後項動詞「だす」に関する研究として呉（1983）及び姫野（1999）が挙げられる。これらは「だす」を「移動」「顕在化」「開始」の3つの意味に分けており、前項動詞の意味特徴の違いによって、外部・前面・表面への移動と表だった場への出現を表す場合を「移動」、顕現・創出・発見の意味を表す場合を「顕在化」とまとめている。また、「だす」は統語的な意味も持ち、「開始」のアスペクトを示す場合もあると指摘している。

しかし、複合動詞は前項動詞と後項動詞の組み合わせによるものであるため、「だす」のそれぞれの意味を理解しても、共起制限により、使用される際には依然として問題が残されている。また、頻繁に出現する複合動詞と出現しない複合動詞が存在すると考えられる。出現傾向に従って頻繁に出現する複合動詞を優先的に学習者に習得させたほうがより効率的であると考えられる。

2. フレーム意味論

フレーム意味論とは、語彙の意味をその語彙が表す背景知識であるフレームとの関係から記述する理論的枠組みである（神原 2018）。例えば、フレーム意味論では「買う」という概念を適切に理解するために、買う人（Buyer）がお金（Money）を売り手（Seller）に渡し、その代わりに商品（Goods）を受け取るという背景知識（フレーム）を想起する必要があると主張する。同様に、複合動詞の前項及び後項はそれぞれの背景知識を持ちフレームを喚起すると考えられる。後項動詞「だす」は意味によって異なるフレームを喚起することが可能であり、結合する前項動詞も意味によってさまざまなフレームを喚起することが可能である。

3. 研究データ及び研究手法

研究データとして、まず、中国で広く使用されている教科書を 37 冊集め、計 566,597 語の『中国日本語教科書コーパス』を構築した。また、教科書に表示されているレベル標識をもとに初級、中級、上級のレベル分けを行った。具体的な書誌情報を表 1 に示す。そして、Python のライブラリーである spaCy (v3.5.0) を用い、「前項動詞連用形+だす」という複合動詞及びその前後の文脈を抽出した。

研究手法として、後項動詞「だす」の各意味によって喚起するフレーム及び結合する前項動詞が喚起するフレーム¹⁾を判断し、レベル別の傾向を考察する。具体的には、「だす」のそれぞれの意味が喚起するフレームと共起する前項フレームの特徴について、データの特徴を視覚的に表現する分析手法であるコレスポンデンス分析を用い、レベル別に明らかにする。

表 1 中国の日本語教科書の書誌情報

初級	
『新編日語 1 (重排本)』(2009)、『新編日語 2 (重排本)』(2009)	上海外语教育出版社
『新編日語教程 1 (第三版)』(2021)、『新編日語教程 2 (第三版)』(2021)	華東理工大学出版社
『日中交流標準日本語初級上 (第二版)』(2013)、 『日中交流標準日本語初級下 (第二版)』(2013)	中国人民教育出版社
『新經典日本語基礎教程第一冊 (第二版)』(2019)、 『新經典日本語基礎教程第二冊 (第二版)』(2019)、 『大家的日語 1』(2010)、『大家的日語 2』(2010)	外语教学与研究出版社
『実用日語初級上』(2010)、『実用日語初級下』(2010)、 『総合日語 1 (修訂版)』(2015)、『総合日語 2 (修訂版)』(2015)	北京大学出版社
『新大学日語標準教程基礎篇 1 (第二版)』(2016)、 『新大学日語標準教程基礎篇 2 (第二版)』(2016)	高等教育出版社
中級	
『新編日語 3 (重排本)』(2009)、『新編日語 4 (重排本)』(2009)	上海外语教育出版社
『新編日語教程 3 (第三版)』(2021)、『新編日語教程 4 (第三版)』(2021)	華東理工大学出版社
『日中交流標準日本語中級上 (第二版)』(2015)、 『日中交流標準日本語中級下 (第二版)』(2015)	中国人民教育出版社
『新經典日本語基礎教程第三冊 (第二版)』(2019)、 『新經典日本語基礎教程第四冊 (第二版)』(2019)	外语教学与研究出版社
『総合日語 3 (修訂版)』(2015)、『総合日語 4 (修訂版)』(2015)、 『実用日語中級下』(2012)	北京大学出版社
『新大学日語標準教程提高篇 1 (第二版)』(2007)、 『新大学日語標準教程提高篇 2 (第二版)』(2008)	高等教育出版社

上級	
『日中交流標準日本語上級上（第二版）』（2018）、 『日中交流標準日本語上級下（第二版）』（2018）	中国人民教育出版社
『新編日語教程 5（第三版）』（2021）、『新編日語教程 6（第三版）』（2021）	華東理工大学出版社
『実用日語上級上』（2013）、『実用日語上級下』（2013）	北京大学出版社
『新経典日本語高級教程第一冊（第二版）』（2019）、 『新経典日本語高級教程第二冊（第二版）』（2019）	外语教学与研究出版社

4. フレームネットを用いた「だす」の出現傾向

以下では、フレームネットを用いて「だす」の意味記述を試みる。さらに、「だす」の各用法が喚起するフレームと結合する前項フレームのレベル別の出現傾向をグルーピングし、前項フレームとレベルの2属性により分類し、クロス集計表を作成する。さらに、R (v4.3.1) の ca パッケージを用いてコレスポンデンス分析し、図式化する。コレスポンデンス分析はデータを解析する手法の1つで、各項目の関係性を視覚的に分かりやすく表現するメリットがある。コレスポンデンス分析を用いることで、教科書の各レベルと前項フレームの関係を視覚化することができ、共起傾向を把握することが期待できる。

4.1 「だす」の意味記述

本研究は、呉（1983）及び姫野（1999）の分類に従い、後項動詞「だす」が喚起するフレームを判断する。

意味1 「移動」

例1 久美が品物を袋から取り出しながら言う。（『実用日語中級下』）

例1のように、「だす」が「移動」を表す際には、移動の主体<Figure>、移動の領域<Ground>、主体が見出される可能な領域<Profiled_region>などのコアフレーム要素²⁾が必要となる。Locative_relation フレームの定義は「A Figure is located relative to a Ground location.」である。<Figure>、<Ground>のコアフレームはそれぞれ「品物」と「袋」に対応するため、「だす」の「移動」の意味はLocative_relation フレームを喚起すると考えられる。

意味2 「顕在化」

例2 組織としての付加価値を創り出すために、多様な人々との協働が求められている。（『実用日語中級下』）

Creating フレームの定義は「A Cause leads to the formation of a Created_entity.」である。「だす」が「顕在化」を表す時、作られた主体<Created_entity>と形成の要因<

Cause>などのコアフレーム要素が必要である。例2において、<Created_entity>は「付加価値」、<Cause>は「多様な人々との協働」にそれぞれ対応するため、「顕在化」の意味はCreating フレームで説明できると考えられる。

意味3 「開始」

例3 私の息子に習って走り出す子が2人も現れた。 (『実用日語中級下』)

「だす」が「開始」の統語的意味を表す際には、始まるイベント<Event>がコアフレーム要素として現れる。Process_start フレームの定義は「An Event begins at a certain Time and Place.」である。例3において、<Event>は「走る」に対応するため、「だす」の「開始」を表す意味はProcess_start フレームを喚起すると判断でき、「走ることが開始すること」という意味を表す。

4.2 後項動詞「だす」と前項フレームの結合傾向

「だす」の意味によって喚起する各フレームと結合する前項フレームの異なり語数を集計した。その結果を図1に示す。

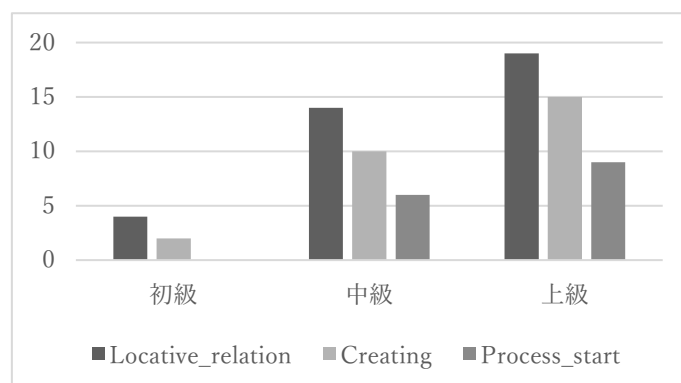


図1 後項動詞「だす」が喚起する各フレームと前項フレームの結合状況

全体的に見ると、「だす」が喚起するフレームは、初級では「移動」と「顕在化」しか見られず、それぞれの数も少ないが、中級以上になると「移動」「顕在化」「開始」のいずれも現れ、各フレームの出現数が増加する。また、各レベルにおいて「移動」と共起する前項フレームの種類が最も多く、「開始」と共起する前項フレームの種類が最も少ないことが分かった。つまり、どのレベルにおいても「移動」「顕在化」「開始」の順で共起する前項フレームの数が減少していくという傾向が読み取れる。

4.2.1 Locative_relation フレームと共起する前項フレームの出現傾向

図2は、「だす」の意味1「移動」が喚起するLocative_relation フレームと共起する前

項フレームの出現傾向をコレスポンデンス分析した結果である。

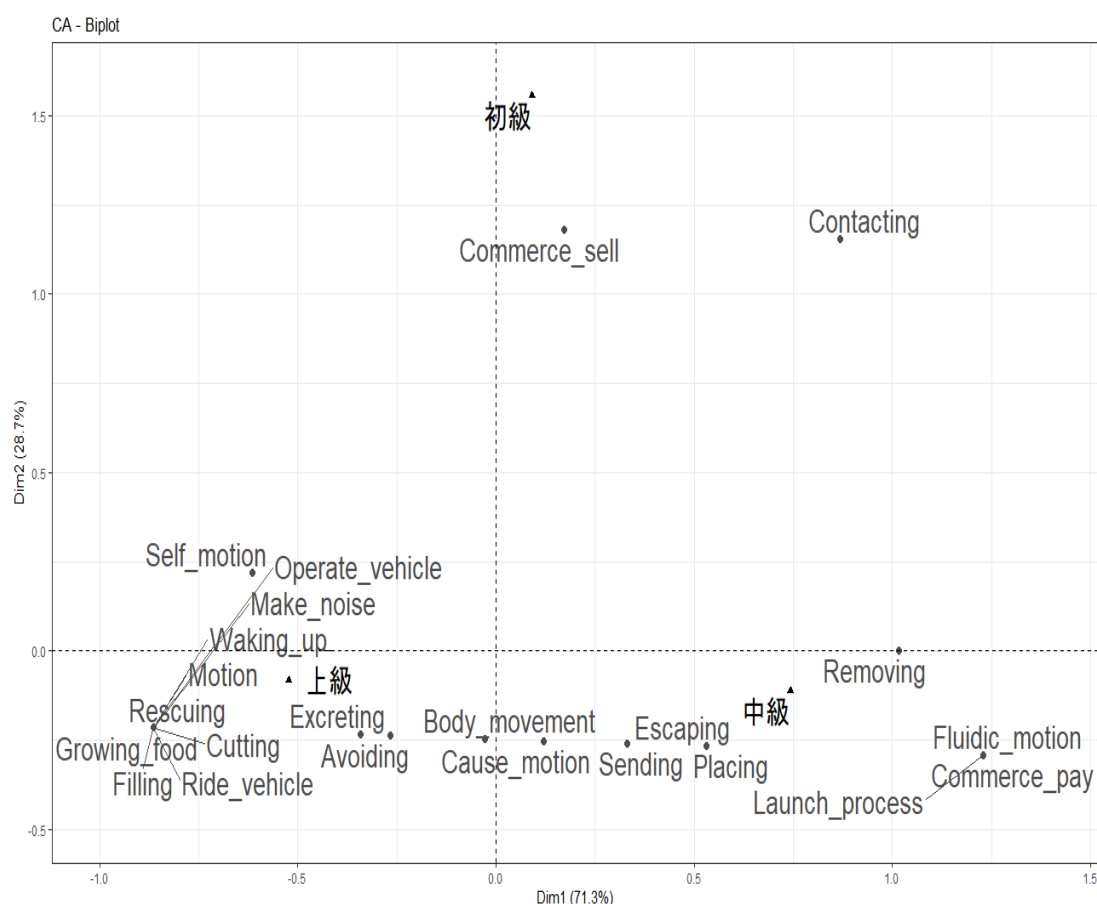


図2 Locative_relation フレームと共起する前項フレームの結合状況

まず、初級、中級、上級はそれぞれ異なる象限に位置するため、結合傾向が異なる。初級タグは Commerce_sell フレームと Contacting フレームに近接している。クロス集計表を確認したところ、「売る」「呼ぶ」などの前項動詞によって喚起されたことが分かった。また、Locative_relation フレームは「だす」の「移動」を表す意味によって喚起されるため、前項動詞に喚起されたフレームも移動を表す意味が含まれているものが多い。例えば、中級タグには Fluidic_motion フレーム、Removing フレームが近接され、上級タグには Self_motion フレーム、Motion フレームなど、移動を表すフレームが近接している。また、中級タグと上級タグの真ん中に位置する Cause_motion フレーム、Body_movement フレーム等も移動を表す意味が見られる。これらのフレームを喚起する前項動詞を確認したところ、中級と上級に頻繁に現れる前項動詞は「流れる」「取る」「持つ」「弾く」「飛ぶ」「踏む」などである。中級と上級に近接している Cause_motion フレームは、「引く」「放る」「導く」「突く」などの前項動詞に頻繁に喚起され、上級では「投げる」「駆る」「追う」などの前項動詞が見られる。

4.2.2 Creating フレームと共起する前項フレームの出現傾向

図3は、後項動詞「だす」の意味2「顕在化」が喚起する Creating フレームと共起する前項フレームの集計結果をコレスポンデンス分析した結果である。

まず、初級、中級、上級はそれぞれ異なる象限に位置することから、共起する前項フレームの間に共通点が少ないことが分かる。また、初級に近接するタグがなく、中級と上級に近接するタグが多いことから、「だす」の「顕在化」を表す意味は中級から重要視される傾向が分かる。

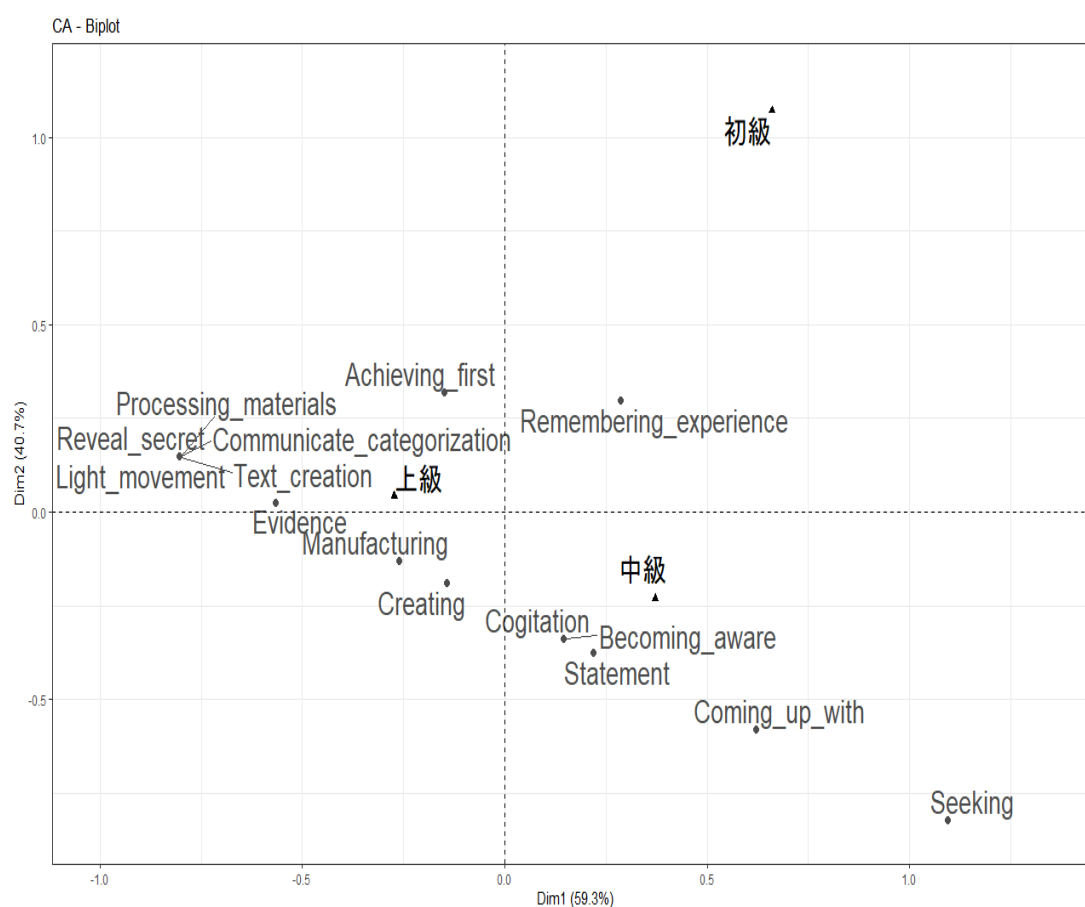


図3 Creating フレームと共起する前項フレームの結合状況

また、中級タグの周りには Cogitation フレーム、Come_up_with フレーム、Statement フレームが分布し、上級タグの近くには Text_creation フレーム、Reveal_secret フレーム、Processing_materials フレーム、Light_movement フレームなどが分布している。これらのフレームに喚起された前項動詞は、中級では「考える」「打つ」「言う」など、上級では「書く」「曝ける」「紡ぐ」「照らす」などが多い。

4.2.3 Process_start フレームと共起する前項フレームの出現傾向

「だす」の「開始」を表す意味は Process_start フレームを喚起するが、教科書では Process_start フレームは中級と上級にしか現れず、喚起する前項フレームの出現頻度も Locative_relation フレームと Creating フレームより低いため、図式化することは難しい。ただし、中級と上級において前項フレームの出現傾向をグルーピングしたため、出現頻度の側面から考察することも可能である。

Process_start フレームと共起する前項動詞が喚起するフレームの出現頻度から、中級には Self_motion フレーム、Motion フレーム、Ingestion フレーム、Emotion_directed フレーム、Commerce_buy フレームなどの前項フレームと共起する傾向が強いことが分かった。これらのフレームは「走る」「動く」「食べる」「怒る」「買う」などの日常活動を表す前項動詞に喚起され、「走りだす」「動きだす」「食べだす」「怒りだす」「買いだす」が頻繁に出現している。上級では Worry フレーム、Perception_experience フレーム、Cause_to_fragment フレーム、Body_movement フレームなどと共起する傾向が強く、「ぐずりだす」「聞こえだす」「溶けだす」「震えだす」が出現している。

おわりに

本研究は、多義性を持つ後項動詞「だす」のそれぞれの意味が喚起するフレームを明らかにした上で、教科書における前項動詞との共起傾向をコレスポンデンス分析でレベル別に考察した。今後、この結果を実践にどのように応用していくかをさらに検討する必要がある。

注

- 1) 以下、「前項フレーム」と略す。
- 2) フレームネット内の各フレームはフレーム要素によって定義される。フレームを定義する際に意味的に必須な要素は「コアフレーム要素」と呼ばれている。なお、コアフレーム要素の日本語訳は筆者による。

参考文献

- 呉美善（1983）『『～出す』及び開始の意味を表す後項動詞について』『ことば』4、70-81 頁。
- 神原一帆（2018）「フレーム意味論にもとづく事態名詞の分析：Examining フレームを例に」『言語科学論集』24、1-21 頁。
- 陳奕廷・松本曜（2018）『日本語語彙的複合動詞の意味と体系』ひつじ書房。
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房。

The Occurrence of the Second Compound Verb “-dasu”: Focusing on Japanese Textbooks in China

JIN, Mengying

Abstract

This study analyzed the three meanings of *-dasu* as the second verb in Japanese compound verbs: “move,” “manifest,” and “initiate.” This paper was conducted through correspondence analysis, examining the tendency of the occurrence of the first verbs in combination with *-dasu* in 37 Japanese textbooks widely used in China.

The results showed the meaning of “move” constituted the highest proportion of co-occurrence across all levels, while the “initiate” meaning accounted for the lowest proportion. As for the first verbs in Japanese compound verbs combined with “move”, at the beginner level, *Commerce_sell frame* and *Contacting frame* were more commonly used. While at the intermediate and advanced levels, frames expressing movement, such as *Cause_motion frame* and *Body_movement frame*, were more commonly used. In addition, *-dasu*, which expresses “manifest”, was more commonly used at the intermediate and advanced levels.

The combined first verbs in compound verbs tend to evoke frames related to thoughts and descriptions, such as *Cogitation frames* and *Statement frames* at the intermediate level, meanwhile *Text_creation frame*, *Reveal_secret frame*, and *Processing_materials frame* at the advanced level. Moreover, the first verbs in compound verbs that co-occurred with “initiate” tended to evoke frames related to activities, such as *Self_motion frame* and *Motion frame* at the intermediate level, and *Worry frame*, *Perception_experience frame* at the advanced level.

Keywords : textbooks, compound verbs, “-dasu”, FrameNet, by Level

優れた中国人日本語学習者の動機づけの発達的变化 —ダイナミックシステム理論の視点から—

朱 一平（大連外国語大学）、薛 茜比（大連外国語大学大学院生）

要旨

本研究では、ダイナミックシステム理論に基づき、6人の優れた中国人日本語学習者の動機づけ発達の変化の軌跡と特徴、またその影響要因について検討した。回顧定性的モデリングというアプローチを用い、具体的には動機づけに関する回顧的マッピング、インタビュー調査、自由記述調査を組み合わせた混合研究法を取り入れた。

研究の結果では、次の2点が明らかになった。(1)優れた中国人日本語学習者は、1年後期に動機づけが最低レベルに低下しており、2年前期と3年前期にやや高い動機づけを維持しているが、1年後期と4年後期に最も顕著な動機づけの変動が見られた。(2)動機づけに影響を与える要因として、興味・関心、学習の達成感という内的要因及び、教師の行動、学校や社会環境、卒業後の進路という外的要因が挙げられている。これらの要因が相互に影響し合う複雑なダイナミックシステムを構成し、互いに影響し合い、制約し合っている。

本研究は動機づけが発達的变化を精緻に記述・分析することによって、学習者の実態をよりリアルに描き出すことができ、動機づけをボトムアップ的かつ回顧的に捉えようとしている。

キーワード： 優れた中国人日本語学習者、動機づけ、発達的变化、ダイナミックシステム理論

はじめに

動機づけは言語学習に影響を与える最も重要な要因の一つであり、学習者の学習行動や学習成果の予測指標となる（Dörnyei & Ushioda 2021）。優れた言語学習者の動機づけの発達過程は特に複雑であり、その背後には複数の相互作用があると指摘されている（Hyltenstam 2016）。近年、動機づけの発達的变化に焦点を当てた研究が注目され、ダイナミックシステム理論の視点からのアプローチが新たなトレンドとなっている。しかし、この視点からの研究は全体的に少なく、複数手法の相互検証が不十分である。また、英語学習者に焦点を当てたものが主である。そこで、本研究では6人の優れた中国人日本語学

習者を対象とし、回顧定性的モデリングを用い、動機づけの発達的变化の軌跡と特徴、さらにその背景要因を考察する。

1. 先行研究

動機づけとは、「学習者が言語学習の目標を達成するための努力と積極的な態度」であると定義づけられている (Gardner 1985:28)。優れた言語学習者に関する研究は、最初に Rubin(1975)によって提案され、その後学習ストラテジーの使用、個人差による言語教育、動機の発達プロセスなどに広く注目が集まった。学者たちの定義によれば、「優れた言語学習者」とは、主に言語学習の成績及び言語能力が高い人、さらに明確な学習目標に向かって努力を続ける人のことである (Ushioda 2007)。Hyltenstam(2016)は、優れた学習者の動機づけは言語学習に重要な促進効果を発揮しているため、優れた学習者の特徴を研究することが他の学習者の動機づけにつながると指摘している。

1.1 ダイナミックシステム理論に基づく動機づけの研究

近年、多くの研究者は言語学習が絶えず発展して変化する過程であることを指摘し、ダイナミックシステム理論を用い、動機づけの発達的变化を考察している (Papi & Hiver 2020 ; 李昆・俞理明 2022)。ダイナミックシステム理論は、物理学、数学、化学などに根差しており、システムの観点を中心に、多様な概念を統合することで、発達研究の進展に寄与している。言語学習の分野においては、システムの複雑で動的な変化過程を記述するためにダイナミックシステム理論が活用され、従来と異なる視点から人間の行動の複雑な発達プロセスを時間軸に沿って詳細に説明している (廣森・泉澤 2015 : 39)。この理論的枠組みは、特にシステムの発達における「非線形」 (nonlinearity) と「複雑さ」 (complexity) に焦点を当てており、それにより、言語学習は複数の要素が相互に作用する動的なプロセスであるという新しい視点を提供している。

1.2 回顧定性的モデリングを用いた動機づけの研究

動機づけの発達的变化をより深く理解するために、Dörnyei (2014:80) は回顧定性的モデリング法 (retrodictive qualitative modelling) を提案した。具体的には、研究対象の学習経験を通じて遡り、動機づけの発達過程を定性的に描写する方法である。廣森・泉澤 (2015) はこの回顧定性法を用い、日本人英語学習者を対象に、中学から大学までの8年間にわたる動機づけの変化過程と背景要因を調査した。また、Papi & Hiver (2020) は6人のイラン人英語学習者の言語学習過程を遡ってインタビュー調査を行い、彼らの動機づけの変化軌跡を考察している。しかし、優れた中国人日本語学習者（以降、「日本語学習者」と記述する）の動機づけの発達過程と変化の要因についての調査はまだ行われていない。

したがって、本研究では回顧定性的モデリングを用いた調査を通じて、大学4年間にわ

たる日本語学習の動機づけの変化軌跡と特徴を検討し、その変化に影響を与えた要因を明らかにすることを目的とする。その際、従来の研究のように動機づけの変化を全体的な傾向から論ずるのではなく、日本語学習者の動機づけの発達的变化に見られる典型的特徴を見つけ出し、それらの結果をもたらす理由・原因をインタビュー調査と自由記述調査の分析を通して明らかにする。

2. 調査概要

2.1 研究課題

- (1) 優れた中国人日本語学習者の動機づけの発達的变化にどのような軌跡と特徴が見られるのか。
- (2) 優れた中国人日本語学習者の動機づけの発達的变化の主な背景要因は何なのか。

2.2 調査対象

本研究では、対象者の選定について、まず複数の候補者に対する調査を実施し、その後「優れた」動機づけを持つ者のみを厳選した。調査対象者は学習者 A、B、C、D、E、F の 6 人である。彼らの特徴を表 1 に示す。(1) 全員が中国の名門大学を卒業したばかりの日本語専攻の学習者である。(2) 学習成績の平均点（大学 4 年間にわたる基礎日本語、日本語聴解、日本語会話などの全ての科目における成績の平均値で、満点 100 点）が 84 点以上であり、全員がすでに中国の大学専攻日本語 8 級試験に合格している¹⁾。(3) 日本語への興味・関心がやや高く、動機づけの平均値が 3.7 点以上である（満点 6 点）。(4) 卒業後の進路が明確に決まっている。以上の特徴から、6 人の日本語学習者が優れた学習者であることがわかる。

表 1 調査対象者の基本情報

研究対象	性別	出身大学	学習成績 の平均点	努力度	動機づけの 平均値	卒業後の進路
A	女	外国語大学	85.08	高	4.50	日本へ留学
B	男	外国語大学	84.98	高	4.25	日本へ仕事
C	女	外国語大学	89.92	高	3.75	中国の大学院に進学
D	女	総合大学	93.42	高	4.62	香港の大学院に進学
E	女	師範大学	93.03	高	4.50	中国の大学院に推薦入学
F	女	総合大学	92.85	高	4.00	中国の大学院に進学

2.3 調査方法

主な調査方法は回顧定性的モデリング (Dörnyei 2014) である。具体的には回顧的マッピング法、インタビュー調査、自由記述調査の 3 つの調査法を統合した。

(1) 回顧的マッピング法

対象者 6 人は、2019 年 9 月から 2023 年 7 月まで学部 4 年間にわたる日本語の動機づけ

の発達的变化を折れ線グラフで描き、動機づけを1～6の6段階で評価した。筆者はそれぞれの回顧図を作成し、動機づけの発達と変化の軌跡を視覚的に表現した。

(2) インタビュー調査法

回顧図が示す重要な時点において動機づけが変化した理由や原因について、各対象者に対して中国語で20～30分のインタビューを実施した。質問例として、「なぜ大学1年後期に動機づけが低下し、2年前期から上昇していったのか」などがある。

(3) 自由記述調査法

対象者に対して、大学での学習過程と動機づけの変化に関する1000～2000字の中国語の作文を依頼した。作文の概要は「各学期中、動機づけはどのように変化したか。また、その変化に最も大きな影響を与えた人物や出来事は何か」などである。それをもとに動機づけの変化についての詳細を把握した。

3. 結果と考察

3.1 動機づけの発達的变化の軌跡と特徴

各対象者の動機づけの回顧図と平均値の発達的变化を図1に示す。全体的な軌跡から見ると、全員の動機づけの平均値が1年後期に最低値まで低下すること、2年後期に最高値に達すること、また、1年後期と4年後期に動機づけの変動が最も顕著であることがわかる。各年次における発達的变化の特徴を以下のようにまとめる。

(1) 1年前期(2019年9月～2020年1月)には、6人の動機づけの平均値は4.3であるが、初期状態にはやや大きな差が見られた。Waningeら(2014)の動機づけの分類基準によれば、学習者D、E、Fは高い動機づけを示し、学習者Bはやや高く、学習者AとCはやや低い動機づけだった。1年後期(2020年3月～2020年7月)では、6人の学習者の動機づけがいずれも上昇せず、やや顕著な分化が見られた。

(2) 2年次(2020年9月～2021年7月)には、全体の動機づけが上昇し、2年後期(2021年3月～2021年7月)に動機づけの平均値が最高の4.8に達した。この学期には、学生E以外の学生は動機づけが上昇し、6人の学習者それぞれの値が最も近くなった。

(3) 3年前期(2021年9月～2022年1月)には、動機づけが2年後期よりやや低下したが、高いレベルを維持していた。しかし、3年後期(2022年3月～2022年7月)には動機づけが大きく低下し、6人の学習者それぞれの動機づけの値の差がやや大きくなった。

(4) 4年次(2022年9月～2023年7月)には、6人の学習者の全体的な動機づけが上昇した後、後期に低下したが、学習者それぞれの値の差が大きかった。

上記の結果から、6人の学習者の動機づけの初期状態には個人差があるが、初期状態と発達過程との間には線形的な関係はなく、その発達の軌跡は収束的でもあり発散的でもあることがわかる。つまり、動機づけのシステムにおいては異なる要因の相互作用によって、連続的に発展変化する可能性があり、外国語学習における動機づけの変化の「非線形」と

「複雑さ」という特徴も見られる（戴运財・于涵静 2022）。戴运財（2023）は、優れた英語学習者の動機づけは初期段階では低い、言語レベルの向上とともに動機づけが強くなると指摘している。しかし、本研究では、日本語学習者の動機づけが初期段階ではやや高いレベルにあったとしても、学校環境や学習条件の変化により、その後、動機づけが弱くなる可能性もある。

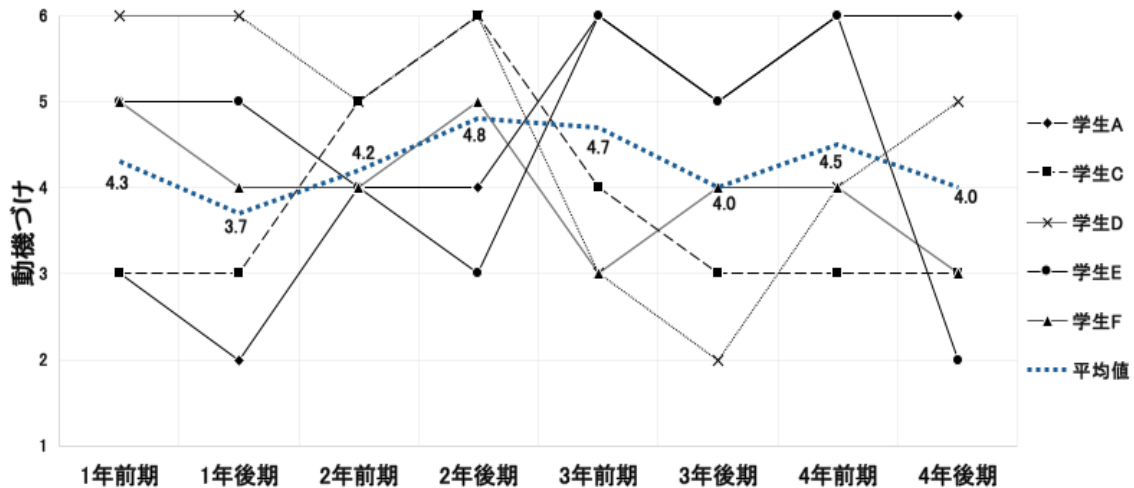


図1 各対象者の動機づけと平均値の発達的变化

3.2 動機づけの発達的变化の背景要因

インタビュー調査および自由記述調査のデータに基づき、ナラティブ分析を行った。分析結果から、「日本語学習のきっかけは何なのか」「どんな動機づけがあったのか」「動機づけがどのように変化したのか」「動機づけに影響を与えた人物や出来事は何なのか」ということに関する発言が見られたが、そのうち、本研究では動機づけの発達的变化に影響を与える主な要因についての内容を分析した。学習者の動機づけに影響を与える要因には内的要因と外的要因があるが、本研究ではより具体的に、興味・関心、学習の達成感、教師の行動、学校や社会の環境、卒業後の進路という5つの要因に分けて考察する。

3.2.1 興味・関心

6人の日本語学習者は日本文化、特に日本のドラマやアニメに強い興味・関心を抱いている。例えば、学生Aは「今学期は自由な時間が増えたので、『あなたの番です』、『半沢直樹』などの日本のドラマをたくさん見た。ドラマを見ているうちに、日本語の発音や聞き取りが上達した。」と自分の体験談を述べている。学生Bは、「インターネット上で日本のACG文化²⁾を知り、無意識のうちに日本語を学びたいという動機になっている。」と語っている。これらの学生たちは、日本語学習に熱心に取り組んでいる。彼らは1年生の時点で五十音図から日本語学習を始めたが、それ以前から日本文化などに強い関心を持っていたため、1年前期においても日本語に対する高い動機を持っている。

3.2.2 学習の達成感

6人の日本語学習者は日本語に関する活動に積極的に参加し、そこから日本語学習の達成感を味わっている。例えば、学生Cは「今学期、日本語のディベートが多く行われ、そのように日本語を使うことが本当に楽しかった。また、日本語コーナーにも何度か参加したが、そこでは一つの話題についてみんなでおしゃべりするのが楽しかった。」と書いている。また、学生Fも日本語吹き替えコンテストで友達と一緒に最優秀賞を受賞し、日本語を学ぶ達成感を味わうことができて良かったと話している。学習者は日本語に関する活動に積極的に参加すると同時に、そこからポジティブなエネルギーを吸収し、自身の動機づけも向上させるという日本語学習の良いサイクルを生み出していることがわかった。

3.2.3 教師の行動

教師のサポートや指導方法が、学習者の動機づけに影響を与えている。例えば、学生Aは3年前期に動機づけが6まで上昇した理由を、「責任感が強い、優しく指導してくれる2人の先生に出会うことができ、熱心に学ぶことができた。」と述べている。このようなポジティブな教師の行動により、学生は日本語学習において積極的な姿勢を保ち、動機づけが向上していることが示唆されるが、逆に教師の行動が動機づけにマイナスな影響を与えることもある。学生Dは「3年前期で嫌いな日本語作文の先生と出会った。最初にどのように作文を書けばいいのか迷ったが、先生には学習態度に問題があると厳しく叱られて、ストレスがかなりたまっていた。」と述べている。戴运財・于涵静（2022）が指摘するように、教師は動機づけに特に大きな影響を与え、学生と教師のコミュニケーションは学習者のコミットメントと動機づけの強さに直接的な影響を及ぼすことができる。

3.2.4 学校や社会の環境

6人の日本語学習者の動機づけは、学校や社会の環境といった要因に影響を受ける。学生Aは「1年後期でコロナの影響で学校が閉鎖され、オンライン授業を受けた。その学期の学習状態は悪くなり、動機づけも低下した。」と述べている。学生Dは、「既に予約していたJLPT一級試験がコロナの影響で何度もキャンセルになってしまい、残念な思いをした。」と話している。動機づけは環境に敏感であり、これは、学習環境もシステムの重要な一部であるという複雑なダイナミックシステムの見方と一致している（Papi & Hiver 2020）。キャンパスの閉鎖やオンライン授業など、マクロ環境や学習条件の変化により、既存の安定した状態が崩れると、動機づけの低下につながる可能性があることがわかる。

3.2.5 卒業後の進路

6人の日本語学習者の動機づけは、卒業後の進路と密接に関連している。例えば、学生A

は卒業後に日本に留学する予定である。また、学生 B は卒業後に日本での就職を考えており、それに伴い日本語学習を継続する必要がある。そのため、4 年生の日本語学習動機づけは高くなっている。しかし、卒業後の進路と日本語の関連性が低い場合、動機づけは低下する傾向がある。学生 D は「大学院に合格したため、今学期は日本語学習に力を入れず、卒論のための基礎的な準備だけで十分である。」と話している。また、学生 E は 4 年後期に推薦入学で大学院に合格した後、日本語の勉強を怠り、動機づけが急激に低下した。

総じて、日本語学習者の動機づけは単一の要因によるものではなく、興味・関心、学習の達成感、教師の行動、学校や社会の環境、卒業後の進路といった複数の要因が複雑に絡み合いながら発達していることがわかる。これらの要因が異なるタイミングや状況で影響を及ぼし、それぞれが学習者の動機づけに寄与していると考えられる。

おわりに

本研究では、6 人の優れた中国人日本語学習者の動機づけについて、回顧的マッピング、インタビュー調査、自由記述調査を通して、動機づけの発達の变化の特徴及び主な背景要因を明らかにした。

以下、研究結果から得られた知見に基づき、今後の日本語教育への提言を述べる。日本語学習者の動機づけについては、異なる要因が複雑に絡み合い、非線形な変化を示すことから、学習者一人ひとりのニーズに適応した柔軟なサポートがさらに必要になると考えられる。例えば、初学期において、学生の動機づけや学習ニーズを的確に把握し、その後も日本語学習への適応をサポートする教育手法の充実が望まれる。また、日本語に関する文化活動への積極的な参加が学習者の達成感や動機づけを向上させる役割を果たすことも重要であろう。さらに、学生が進路に応じたサポートを得られるよう、3 年次以降の学生の進路希望や進捗状況を正確に把握し、それに基づく指導を行うことが求められている。

今後の課題としては、他の言語学習者も含め、より広範で深い理解を得るべく、大規模な量的な調査と個別の面談を組み合わせることで、集団全体と個々の学習者の動機づけの違いについて、より一層探求していく必要があると考えられる。

注

- 1) 日本語専門試験 8 級（以下専門 8 級）は中国教育部が実施する、大学で日本語を専攻する 4 年生を対象とした日本語検定試験である。本研究の学習者はコロナの影響で JLPT N1 が何回かキャンセルされてしまい、専門 8 級しか受けられなかったため、専門 8 級を基準として用いることにした。
- 2) ACG とは、日本のアニメ、漫画、コンピューターゲームの文化を反映した「二次元」コンテンツの総称である。

参考文献

- 廣森友人・泉澤誠（2015）「中高大における英語学習動機づけの発達プロセスとその背景要因」『明治大学国際日本学研究』8(1)、37-50 頁。
- 戴运財（2023）「优秀二语学习者动机变化的回溯研究—基于绘图、访谈与叙事法的三角验证」『外语界』215(02)、80-87 頁。
- 戴运財・于涵静（2022）「复杂动态系统理论视域下二语动机变化的回溯研究」『现代外语』45(03)、357-368 頁。
- 李昆・俞理明（2022）「动态系统理论视角下的大学生英语学习动机发展变化研究」『外语教学理论与实践』(02):49-60 頁。
- Dörnyei Z. (2014) “Researching complex dynamic systems:Retrodictive qualitative modelling in the languageClassroom,” *Language Teaching*, 47(1), pp. 80-91.
- Dörnyei Z & Ushioda E. (2021) *Teaching and Researching Motivation*, New York: Routledge.
- Gardner R C. (1985) *Social Psychology and Second Language Learning: The Role of Attitudes and Motivation*, London: Edward Arnold.
- Hyltenstam K. (2016) *Advanced Proficiency and Exceptional Ability in Second Languages*, Berlin: Walter de Gruyter.
- Papi M & Hiver P. (2020) “Language learning motivation as a complex dynamic system: A global perspective of truth, control, and value,” *The Modern Language Journal*, 104(1), pp. 209-232.
- Rubin J. (1975) “What the ‘good language learner’ can teach us,” *TESOL Quarterly*, 9(1), pp. 41-51.
- Ushioda, E. (2015) “Context and dynamic systems theory” . In Z. Dörnyei, P. D. MacIntyre & A. Henry (eds.) . *Motivational Dynamics in Language Learning*. Bristol: Multilingual Matters. pp. 47-54.
- Ushioda, E. (2007). “Motivation, autonomy and sociocultural theory” . *Authentic Language Learning*. pp. 5-24.
- Waninge F, Dörnyei Z & De Bot K. (2014) “Motivational dynamics in language learning: Change, stability, and context,” *The Modern Language Journal*, 98(3), pp. 704-723.

この論文は、2023 年度に中国遼寧省教育庁の大学基本研究プロジェクト（番号：JYTQN2023146）の助成を受けたものである。

The Motivational Developmental Changes of Excellent Japanese learners in China: From the Perspective of Dynamic System Theory

ZHU, Yiping, XUE, Xibi

Abstract

The aim of the study is to examine the motivation and characteristics underlying the motivational developmental changes observed in excellent Japanese learners in China, employing the dynamic system theory. The research utilizes a qualitative modeling approach, employing a mixed research method that integrates retrospective mapping, interview surveys, and free description investigations on motivation.

The study has led to two key conclusions. Firstly, excellent Japanese learners in China showed lower levels of motivation than the other years in the first year of the university, and showed a continued increase of motivation in the twice to the third years. Secondly, the factors influencing motivation included internal factors such as interest, learning achievement and teacher behavior, as well as external factors such as school and social environment and the direction after graduation. Besides, these factors collectively form intricate dynamic systems that interact and influence each other.

The primary objective of the study is to make a more accurate description and analysis of the developmental changes in the Japanese language, so as to more accurately describe the actual situation of the learners.

Keywords : Excellent Japanese learners in China, Motivation, Developmental change, Dynamic systems theory

「横山光輝三国志」における曹操像の改作 —中国人大学生の受容を兼ねて—

張 智超（成都東軟学院）

要旨

インターネットやメディア技術の発展に従い、日本人創作の三国派生作品は中国にも広く流布されている。「横山光輝三国志」はその中における代表的なアニメ作品である。それは中国で脚光を浴び、大きな人気を博してきた。

本稿は中国人大学生視聴者を対象に、吉川『三国志』を原作とした「横山光輝三国志」における曹操像の受容を調査し、最も代表的な曹操像を洗い出し、アニメにおける曹操をめぐる再創作を小説と比較し、両者の共通点・相違点を考察し、アニメにおける曹操像とそれに対する中国人大学生の受容を明らかにするものである。

キーワード： 「横山光輝三国志」、白面郎、曹操像、アニメ、中国人大学生の受容

はじめに

中国における『三国志演義』系¹⁾の小説や戯劇において、曹操は傑出した政治家、軍事家である一方、「奸雄」という評価も残されている。ところが、中国とは違い、日本の吉川英治『三国志』（以下、吉川『三国志』と略す）における曹操について、張智超（2023）は、痴や、狂、愚の性格を持ち、悲劇的な英雄である「痴児」という人物像を抱えていると指摘している。このように、イメージが大きく分かれた曹操は、多面性を持つ人物だと言える。その上、アニメやマンガをはじめとするポップカルチャーの発達・普及により、さらに豊かな曹操像が創り上げられてきた。

本稿は現役の中国人大学生視聴者を対象に、量的研究の手法を用い、「三国」アニメにおける先駆的で、吉川『三国志』を原作としたアニメの「横山光輝三国志」²⁾（以下、「横山三国志」と略す）における曹操像の受容を調査し、最も代表的な曹操像を洗い出し、なお、アニメにおける曹操をめぐる再創作を小説と比較し、両者の共通点・相違点を考察し、アニメにおける曹操像とそれに対する中国人大学生の受容を明らかにしていく。

1. ポップカルチャーとしての「三国志」

「三国志」の物語は日本に伝わって以来、大きな反響を呼び、文学作品だけでなく、アニメ、マンガ、ゲームなどの多種多様な作品が生まれてきている。「三国」を題材とする

派生作品は、中国の『三国志演義』から逸脱し、次第に日本風に染まってきている。ポップカルチャーとしての『三国志』の流行や日本人の受容過程に関する研究は、吉永（2007）や葉口（2016）などが挙げられる。

一方、インターネットやメディア技術の発展に従い、日本人創作の三国作品は中国にも広く流布され、その中に、とりわけ「横山三国志」をはじめとするのマンガ・アニメや、「三国志」シリーズ³⁾をはじめとするゲームなどの作品は中国で脚光を浴び、大きな人気を博してきた。現在、「三国」作品は日中両国において、もはや代表的なポップカルチャーの一つになっており、両国の文化交流の象徴にもなっている。

ところが、中国人による日本の「三国」作品の受容を扱う研究は、管見の限りにまれに存在している。

2. 曹操像の受容

「横山三国志」における曹操像に対する受容をめぐり、中国人大学生視聴者を対象にアンケート調査を実施した。本調査は、2023年6月から7月中旬にかけて、中国四川省にある二つの大学の学部生（文系学部；1から3年生）に対して、計300枚のアンケート用紙を配布し、289通の有効回答を得た。また、アンケート調査の(1)～(3)は5段階選択式質問であり、（筆者による和訳）質問と結果は表1にまとめられている。

質問(1)「横山三国志」における曹操像と、すでに頭にある曹操像とはどれほど相違するか。				
かなり異なる	異なる	やや異なる	あまり異ならない	異ならない
36%	26%	20%	13%	5%
質問(2)「横山三国志」を鑑賞し、曹操に対する印象はどれほど変わったか。				
かなり変わった	変わった	やや変わった	あまり変わらなかった	変わらなかった
15%	28%	32%	18%	7%
質問(3)「横山三国志」における曹操像を納得したか。				
かなり納得する	納得する	やや納得する	あまり納得しない	納得しない
40%	35%	15%	10%	0%

表1 「横山三国志」における曹操像の受容

調査項目（1）から（3）のデータから見ると、「横山三国志」の曹操像は中国人大学生が持つ既存の曹操イメージとはかなり異なることがわかった。40%弱の回答は「かなり異なる」であり、「やや異なる」とそれ以上の回答を含めてみると、82%ほどの視聴者にとって「横山三国志」の曹操像は新鮮味があり、既存の印象とは異なるものだと言える。また、曹操に対する印象が変わらなかったのは25%を占めているが、「やや変わった」とそれ以上の回答を含めてみると、75%ほどの視聴者は日本の「横山三国志」を鑑賞し、曹操に対する印象が変化したとわかった。そして、90%の中国人大学生視聴者は「横山三国志」における曹操像を納得したという結果であった。これによって、日本製作の「横山三国志」

における曹操像は中国人大学生の既有の曹操イメージとは大きく異なり、中国人大学生視聴者に、ある種のカルチャーショックを与えたとも言えるであろう。

一方、調査項目の(4)と(5)は記入式の質問項目であり、「横山三国志」における曹操イメージと、視聴者の既有の曹操イメージについて、それぞれ3つの語で回答してもらった。分析には、VOSviewerを使用し、ディスクリプタマッピングを行った。また、頻度5回(またはそれ以上)をデータ抽出の条件にし、「横山三国志」の曹操イメージに65個、既有の曹操イメージに57個のディスクリプタを手に入れ、その上、それらの関係性を図式化した。(図1と2で示している)

上位のディスクリプタを見ていくと、「横山三国志」の曹操は「白面郎」(色白の美男子)、「少年郎」(若い男子)、「帅气的」(二枚目、かっこいい)、「高傲的」(傲慢的)、「骄傲的」(驕り)、「恃才傲物的」(自分の才を頼んで人を眼中に置かない)であるのに対して、既有の曹操イメージは「英勇的」(勇ましい)、「聰明的」(利口的)、「奸詐的」(ずる賢くて腹黒い)、「多謀的」(謀略に長ける)、「一代霸主」(時代の覇者)、「多疑的」(疑い深い)という結果であった。

要するに、「横山三国志」における、かっこよく、色白く、傲慢な曹操像は中国人大学生視聴者が持つ既有の「奸雄」の曹操イメージと異なり、新鮮で、珍しいキャラクターであろう。さらに、こうした曹操像という、原作の吉川『三国志』にある「白面郎」というキャラクターを思わせるわけである。

そこで、本稿はアニメにおける「白面郎」の曹操をめぐり、吉川『三国志』や他の小説にある「白面郎」と比較し、考察を行う。

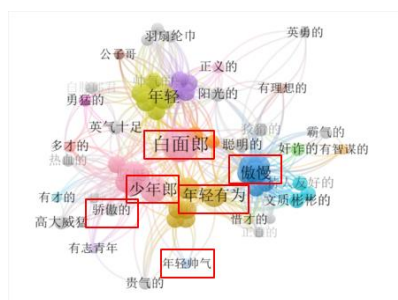


図1 「横山三国志」における曹操イメージ

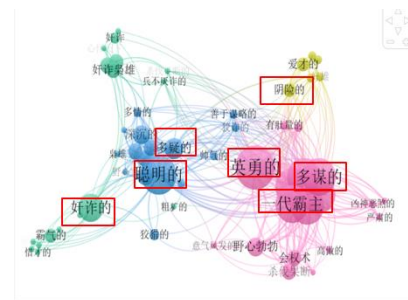


図2 既有の曹操イメージ

3. 「横山三国志」における白面郎

3.1 「白面郎」の出自

「白面郎」という言葉は杜甫子美の「馬上誰家白面郎、臨階下馬坐人牀」(『少年行』)という詩に初めて登場した。これは、貴族の子弟を題材にしたものであり、富貴の家の御曹司が馬を降り、人の長椅子に無礼にどかっと座ったという場面を描写したものである。また、「白面郎」は中国の唐代末期の女流詩人である魚玄機の生涯を描いている悲劇作品である『魚玄機』という森鷗外の小説にも登場した。小説には「それに、鐘馗の渾名のあ

る于思睥目の温は、二人の白面郎に侮られるのを見て…」という描写がある。脇役である宰相の公子の令狐と、彼の貴公子仲間の斐誠という、若くて美しいが傲慢で生意気で、経験も知性もない二人は「白面郎」という表現で、揶揄されている。

このように、年が若く、色が白く、未熟な男という「白面郎」の語義は日本語で定着するようになり、また、世間一般で往々にして貴族名門の子息の描写に使われ、その代名詞となる場合も少なくない。

『少年行』の中の自分勝手な御曹司であれ、『魚玄機』の令狐と斐誠であれ、いずれも吉川『三国志』、およびそれを原作とした「横山三国志」における、名門の子息で、若くて色白で、我が強く振る舞うというキャラクターを持つ曹操と同工異曲だと考える。

しかも学舎の教師も、里人も、「怖いようなお兄だ」と、……遊獵が好きで弓を持って獣を追ったり、早熟で不良を集めて村娘を誘拐したり、そんなことばかりやっていた。

（吉川『三国志』（一）桃園の巻：白面郎「曹操」の一、1989）

ところが、こうしたキャラクターばかりだと、曹操は後世で圧倒的な人気を博すことができなかったであろう。

3.2 小説とアニメの「白面郎」における共通点

3.2.1 外見上の共通点

考察には、「横山三国志」⁴⁾の第二話における曹操の初登場のシーンを例に挙げよう。それは、また曹操と劉備という両雄の初対面のシーンでもある。アニメの曹操は肌が白く、顔に清潔感があり、鼻筋が通っており、細長い唇をしており、まさに容姿端麗の貴公子である。



図3 曹操の初登場（第二話 15' 32"）



図4 両雄の初対面（第二話 16' 16"）

それについて、原作の吉川『三国志』には以下のような描写がある。

「この子は鳳眼だ」（中略）色は白く、髪は漆黒で、丹唇明眸、中肉の美少年ではあり（後略）

(吉川『三国志』(一)桃園の巻:白面郎「曹操」の一、1989)

3.2.2 内面上の共通点

また、アニメの場面と両雄間の会話をみていくと、

場面	両雄間の会話
場面(1): 劉備は馬を降りた曹操にお礼をしたが、曹操会釈さえもせずに	曹操(1): 私は曹操孟徳。勅命により、この度騎兵五千を下がいて、黄巾討伐に出陣したのだ。いや、見事な火攻めの計だ。逃走中の敵軍と出会い、追撃中であつた。 劉備(1): 恐れ入ります。 曹操(2): だが、これも縁であろう。貴公の活躍はわしに出陣の機会を与えたのだからな。ハハハハハ。
場面(2): 関羽と張飛は曹操の言ったことを聞き、ややびっくりして不機嫌で硬い表情で	関羽と張飛(1): ムンン。 曹操(3): 玄德殿、両軍の勝ち鬨をあげようではないか。 劉備(2): では、曹操殿に音頭をとっていただきましょう。 曹操(4): それは違う。今日の勝利はすべて貴公の計略によるもの。
場面(3): 劉備は少し表情を緩めて	劉備(3): では、ご一緒に。
場面(4): 曹操は少し目を張って	曹操(5): ふん。よかろう。

*人名に付けた括弧と番号は、アニメ展開の時間軸に沿ったその人物の発話番号である。例えば、曹操(1)はアニメの会話における曹操の一番目の発話を表している。(以下同様)

表2 「横山三国志」第二話のセリフ(15' 35" ~16' 45")

劉備は礼儀正しく、きちんとした敬語を使い、慎んで謙虚にやり取りをしているのに対して(場面(1)、劉備(1)から(3))、曹操は初対面の礼を疎かに(場面(1)、図(4))、ため口で話し合い(曹操(1)から(5))、劉備と同じ青年将校であっても、やや居丈高のような態度で、劉備軍の動きに評価をつけ(曹操(1)と(2))、会話の主導権を握って侃々諤々とあれこれを言っている。この会話からすると、確かに曹操の強気で、自分勝手なキャラクターは明らかである。

さらに、16秒を飛ばし、続けてみていくと、

場面	両雄間の会話
場面(5): 二人は別れようとして、曹操は馬に乗り、劉・関・張三人に対して、しっかりした目とトーンで	曹操(6): 玄德殿、黄巾は私と貴公が全滅させるだろう。だが、天下太平の世にはならん。
場面(6): 劉・関・張の三人は曹操を仰向いて、曹操の言葉に惹かれて	劉備(4): はああ。 曹操(7): 乱はさらに大乱を呼ぶ。だが、多く星の一つがやがて国中をその光の中に包むだろう。
場面(7): 曹操の言ったことに深く惹き込まれた劉備は、曹操のほうにじっと見て、何かについて思いふけているようになった。そのような劉備を見た曹操は	曹操(8): ははははは。勅命に従っての戦いが残っている。これで失礼するんな。

場面(8)：曹操は馬の手綱を引き、劉備に背中を向けて、声をあげて	曹操(9)：玄德殿、武勇を祈っている。
場面(9)：曹操はさらに声をあげて	曹操(10)：また会うこともあろう！
場面(10)：すると、曹操は自軍に鷹揚に戻り、兵をまとめて本営に引き揚げた	関羽(1)：官軍の中じゃ、できた男よ。 ナレーター：玄徳の目は曹操の姿から離れなかった。大きな度量を持つ曹操に、宿命的な威圧感すら覚えるのだった。

表3 「横山三国志」第二話のセリフ（17' 01" ～18' 00"）

勝ち鬨をした後の両雄間のやり取りは、原作をもとにしたところもあると考えられる。それは、見識が広くて深い、大きな才能に備えた青年俊傑である曹操のキャラクターである。また、今後の天下大勢についての曹操の分析（場面（5）、曹操（7））に惹き込まれた劉備の心理活動（場面（5）、（6））、そして関羽による「できた男」という評価（関羽（1））、つまり他人の反応・視点を通して、そうしたキャラクターが浮き彫りにされてきた。

これについて、吉川『三国志』にも以下のような描写がある。

玄德は正直に、彼の人物に尊敬を払った。（中略）話せば話すほど、深みもあり広さもある人物と思われた。

（吉川『三国志』（一）桃園の巻：転戦の七、1989）

3.3 小説とアニメの「白面郎」における相違点

3.3.1 外見上の相違点

「横山三国志」における曹操は「白面郎」だからといって、決して外見だけは立派で中は無学無能な御曹司ではない。しっかりした目つき、逞しい姿、それに意気が満ち溢れて戦場に臨むといったのは、紛れもなく吉川『三国志』における不良を集めて村娘を誘拐し、軽薄でデレデレし、人を愚弄する貴族のとんでもない「怖い児」とは違うキャラクターなのではないか。

3.3.2 内面上の相違点

まず、「黄巾は私と貴公が全滅させるだろう」というセリフを通して（場面（1）と曹操（1））、全国的な大乱を起こして氣勢の凄まじい黄巾軍に対して、怯まず恐れずに、自信満々かつ意気揚々の曹操のキャラクターが描き上げられている。

また、短時間の初対面のやり取りだけによって、曹操が相手である劉備を見極められ、彼は才能があり、今後のライバルにもなるだろうと思えるのは、まさに「人を知る者」の曹操である。それに、予想のライバルである劉備と別れる際における、曹操の奥深い目つき、そして「また会うこともあろう！」という意味深い別れ言葉は、強烈なライバル意識を持つ一方で、英雄は英雄を惜しむという男前で度量が大きい曹操のキャラクターがよ

りありありと画像に躍如してきた（場面（3）から（5）、曹操（3）から（5））。

4. 中国人大学生の受容からみる三国文学をめぐる交流

アンケート調査の結果をもとに、「横山三国志」における曹操像、そして日本の三国アニメの受容について、より多くの視聴者の語りを引き出すことを目的に、8 人のアンケート協力者に対してさらにサブリサーチともなるインタビュー調査を行った。主な質問は「日中両国のアニメにおける曹操のどちらが好きか」、「日本の三国アニメをどう思うか」、「（日中両国の）三国アニメを鑑賞し、これからどんなことをしたいか」といったものである。紙面上の都合により、本稿は、その中の代表的な回答（筆者による和訳）をまとめて挙げる。

協力者の Y さん（Y は名字のピンインの頭文字）は、中国のテレビドラマに登場する「年老いた」曹操よりも、アニメにおける情熱に満ち、「鳳眼」をした「白面郎」曹操の方が魅力的だと感じ、なぜこれほど違うのかことに気になって歴史の本を読み直したいと答えてもらった。また、「新しい曹操像は、持っているイメージとはかなり違うので、むしろ感心した」という意見は多くあり、「横山三国志の曹操像の方が好きだ」という意見も少なくなかった。これらの回答はいずれも、「横山三国志」における曹操の人物創作は間違いなく成功したと示していると考えられる。一方、半数にのぼった回答者は「興味本位で漫画『三国志』や吉川『三国志』を読んでみたい」と答え、「中国で三国志の物語をもう一度読んでみたい」と答えた人も数多かった。

これによって、中国の現役大学生にとっての異文化体験である「横山三国志」鑑賞は、日中の文化交流の架け橋となり、日本から中国への三国文化の逆伝播の好例にもなるのではないか。

おわりに

本稿はアンケート調査を実施することを通して、中国人大学生視聴者にとって、「横山三国志」の曹操像は「白面郎」という新鮮味のあるキャラクターを有することを明らかにした。その上、アニメにおける「白面郎」の曹操の外見と内面をめぐり、小説などにおける「白面郎」を比較し、考察を行った。さらに、サブリサーチのインタビュー調査により、中国人大学生の「横山三国志」と曹操像の受容から、日本の三国アニメの中国への逆伝播の意義も確認できた。

しかし、今回の調査対象は中国人大学生に限られているため、受容の結果は若い世代の傾向しか示せなかった。調査対象の年齢層をさらに広げ、各世代の受容を比較し、世代間の受容の特徴を明らかにすることを今後の課題とする。

注

1) 『三国志演義』は、『三国志平話』（元時代に成立し、作者は不明）を基に、元末明初の小説家

である羅貫中（約 1330-約 1400）によって編纂された小説である。『三国志演義』系の作品とは、『三国志演義』に脚本として作られた様々な刊本や訳本を指している。

- 2) 漫画家の横山光輝によって創作されたマンガの『三国志』を原作にしたアニメである。テレビ東京と大日本印刷の共同製作で、1991 年から 1992 年までテレビ東京系列局で放送された。中国版は 2000 年代より中国での放送が始まり、絶大な人気を博した。
- 3) 「三國志」シリーズはコーエーテクモゲームス製作、歴史シミュレーションゲームである。
- 4) 本研究における「横山三国志」のセリフや図は、全てビリビリ動画「番剧频道」の「横山光輝三国」(URL:https://www.bilibili.com/bangumi/play/ss2347?spm_id_from=333.337.0.0) から引用されたものである。これらの引用の責任は全て執筆者に帰すものである。

参考文献

森鷗外(1995)「魚玄機」ちくま文庫、筑摩書房。

吉川英治(1989)『三国志(一)』講談社。

張智超 (2023)「吉川英治『三国志』における曹操の人物像に関する比較研究—「痴児」を主眼に」『東アジア日本学研究』(9)、109-116 頁。

葉口英子(2016)「現代日本の大衆文化にみる『三国志』の受容」『静岡産業大学情報学部研究紀要』(18)、59-76 頁。

吉永壮介(2007)「サブカルチャーとしての三国志」『アジア遊学』(97)、144-152 頁。

付記：本稿は成都東軟学院の于心先生との共同研究の成果である。于心先生には論文作成の面で有益なコメントをいただき、データの収集・分析の協力をしていただいた。

The Revised Image of Cao Cao in "Yokoyama Mitsuteru's The Three Kingdoms" : Discussed in conjunction with the acceptance of Chinese university students.

ZHANG, Zhichao

Abstract

With the development of the Internet and media technology, derivative works of the Three Kingdoms created by Japanese have been widely distributed in China. "Yokoyama Mitsuteru's The Three Kingdoms" is a representative animation work among them. It has been in the limelight in China and has gained great popularity.

This paper investigates the reception of the image of Cao Cao in "Yokoyama Mitsuteru's The Three Kingdoms" based on Yoshikawa's "The Three Kingdoms" among Chinese university

students, identifies the most representative image of Cao Cao, compares the re-creation of Cao Cao in the animation with the novel, and discusses similarities and differences between the two to clarify the image of Cao Cao in the animation and its reception among Chinese university students. This study also examines the similarities and differences between the two, and clarifies the image of Cao Cao in animation and the reception of Chinese university students toward it.

Keywords : "Yokoyama Mitsuteru's The Three Kingdoms", Hakumenrou,
Cao Cao's image, animation, acceptance by Chinese university students

日中両国の仏教説話における「恋の鬼」の比較研究 —「愛」と「憎しみ」について—

于 心（成都東軟学院）、張 智超（成都東軟学院）

要旨

仏教が日中両国に深い影響を与えていることは言うまでもない。だが、仏教における同じ言葉であっても伝え切れない微妙な意味合いや感情の機微などがある。それは、両国の文化的感性の違いによる理解上の相違点である。逆に、仏教に対する異なる理解もそれぞれ自国の文化風土を反映され、しかも仏教説話に登場する鬼のイメージに現れることが多い。したがって、両国の文化風土と仏教文化との相互影響によって普通の鬼のイメージとは異なり、それぞれの「恋の鬼」のイメージが形成されたと考えられる。

本稿は、日中両国の仏教説話における「恋の鬼」という特別のイメージを研究対象にし、『今昔物語集』の「染殿后為天宮被焼乱語」と中国の「夜叉の異類婚姻譚」に登場する天狗と夜叉のイメージから見た「愛」と「憎しみ」に焦点を当てて比較した。日本の説話においては「恋の鬼」のイメージは叶わない「愛」に狂い、「憎しみ」へ変わって悪業を生み出し、醜い鬼になったというイメージをうがっている。それに対して、中国の説話では人に恋した夜叉のイメージは離れようとする愛人を手放さない痴情で落ち込み、肉親を殺すことで絶望や憎しみ表現するという様子が窺える。また、このような異なる感情の表現は自国の文化風土と仏教文化が融合した結果でもあり、両国の伝統的な感性を仏教文化に基づいて解釈した結果の違いでもある。

キーワード： 仏教説話、仏教の受容、文化風土、「恋の鬼」

はじめに

日中両国とも北伝仏教¹⁾の影響を受け、漢訳した仏教経典による布教伝道を行っていた。そのため、日中仏教の鬼にまつわる認識、印象並びに文化、芸術、文学などにおいて共通点が多い。

仏教の鬼については、「大般涅槃經」には、「愛欲は煩惱の王、さまざまの煩惱がこれにつき従う。愛欲は煩惱の芽をふく湿地、さまざまな煩惱を生ずる。愛欲は善を食う悪鬼、あらゆる善を滅ぼす」（1994:169）という経文がある。また、『望月仏教大辞典』では鬼について「恐るべき形相を有し、人を悩害する怪物を云ふ。仏教中、鬼神を説けるもの甚だ多

く、又阿傍、羅刹、山精、雑魅等を総じて鬼又は鬼神の名を以て呼ぶことあり…」(1974 : 2097)と解釈されている。つまり、鬼は愛欲から生じた悩みの種で、恐ろしい形をもち、人の心を惑わし、仏道修行を邪魔するものであると、日中の仏教經典で決めつけられている。

一方、仏教説話における鬼は、主に人々の内なる恐怖や欲望を利用し、戒律を破った場合に負う悪業を警告する役割を担い、仏教信仰の守護者であると同時に、仏法を尊ばない者を懲らしめる存在として、無慈悲で残酷なものである。他方、両国の仏教説話には、無情な鬼とは異なり、恋に落ちる鬼というイメージもある。この「恋の鬼」のイメージは、両国の文化的テロワールが仏教固有の鬼のイメージを受容して生まれるものであり、両国に内在する感受性をより深く映し出すものである。

本稿は、『今昔物語集』の二十巻第七話「染殿后為天宮²⁾被嬈乱語」と中国の「夜叉の異類婚姻譚」を取り上げ、仏教における「愛」と「憎しみ」の表現を中心に、説話に登場する天狗³⁾と夜叉のイメージを比較し、その相違点を明らかにすることを目的とする。さらに、説話に登場する鬼のイメージに現れた「愛」と「憎しみ」という異なる表現を掘り下げることで、文化風土による仏教文化への異なる理解と受容の様相を明らかにしていく。

1. 「染殿后为天宮被嬈乱語」

平安時代の院政期に成立した『今昔物語集』の巻20には、「天狗」の説話だけが収録されている。20巻第7話「染殿后为天宮被嬈乱語」は次のような説話である。

文徳天皇の女御(太政大臣藤原良房の娘)は生まれつきとても美しいが、いつもモノノケに悩まされている。そこで、このモノノケを祓うために金剛山の聖人にお願いした。モノノケを祓った聖人は後の美しい容貌を見て欲心を起こし、后を犯そうとしたが、侍医に取り押さえられた。都城から追い出された聖人は山に帰ると、聖の道を捨て、餓死し、その後、漆を塗ったような黒い肌を持つ鬼に変身する。鬼になった聖人は後の寝殿に現れ、呪術で后を惑わして情を交わしたが、このすべてのことに対して天皇はなす術もなく、結局、ため息をついて立ち去ってしまう。

なお、『宝物集』(巻2)や『平家物語』(第2本8)でも染殿の後の説話が記載されているが、后を悩ませるものは紺青鬼である。この紺青鬼の本体については、高野山の上人や柿本記僧正真済などの諸説がある。

天狗であれ、紺青鬼であれ、僧侶として愛欲は絶対禁止すべきものであるが、愛欲に支配され、痴情のために鬼に化身したのがこの説話の本質だと考えられる。

2. 夜叉の異類婚姻譚について

愛欲で鬼になった説話はインド最古の仏教説話集である『本生経』⁴⁾第432の「足跡善知童子本生譚」に、不品行の罪で夜叉に転生した梵與国の王后が美貌のバラモンの男と恋に落ち、子供を産んだという挿話がある。この説話は断片でしかないが、この断片の説話

が中国で受け入れられ広まっていた。

夜叉は仏教の「護法善神」であり、『賢愚経』では、姿が醜悪で人を食い、巨大な体躯、燃え盛る頭、血のように赤い目、4本の長く鋭い歯、火を噴く口を持つ鬼と描写されている。しかし、中国の説話における夜叉のイメージは従来の人喰う夜叉とは異なる。特に、上述の挿話から派生した夜叉の異類婚姻譚では、悲しみに満ちたイメージを見せている。中国の夜叉にまつわる説話は、『太平広記』⁵⁾と『夷堅志』⁶⁾に多く収録されている。代表的な夜叉の異類婚姻譚の主な内容は次の「表1」の通りである。

〈表1〉夜叉の異類婚姻譚

出所	あらすじ
『太平広記』 「杜万」	杜万の妻が蘇生した後、夜叉に捕らえられ、その夜叉との間に二人の息子をもうけた。杜万が妻を見つけ、連れ去ろうとしたとき、夜叉は長男を抱いて岸に駆け寄り、離れ行く船に乗った女に大声で呼びかけ、何の反応もない女の様子を見て激怒し、悲鳴をしながら子供を八つ裂きにして飛び去る。
『太平広記』 「朱峴女」	朱家の娘が夜叉に連れ去られ、塔に監禁された。娘は、夜叉が牛肉を食べない者を恐れていることを知り、二度と牛肉を食べないように天に祈った。それ以来、夜叉は二度と彼女に近づくことができず、ただ悲しんで去ることしかない。
『夷堅志』 「島上婦人」	僧が仏陀の三宝を求めて船で旅をしていたが、嵐に巻き込まれて孤島に漂着し、島の夜叉女と暮らして3人の息子をもうけた。ある日、僧は通りかかった商人の船を見て、夜叉女を捨てて逃げ出した。夜叉女は怒りのあまり僧の目の前で3人の息子を殺した。

要するに、これらの説話において夜叉は人間と恋に落ちて誘拐し、同棲して子供をもうけたが、人間が夜叉も子供も見捨てて逃げ去ったため、夜叉は悲しみを胸に一人残されるという話である。

3. 「愛」と「憎しみ」

仏教における「愛」は十二因縁の一つである。『雑阿含経』巻12の十二縁起の箇所には「…受縁愛、愛縁取…」とある。「受」とは、目、耳、鼻、舌、身、意の六つの感覚を通じて世間万物を感受することである。そして、その感受によって欲求が生じる。「愛」はその欲求である。「愛」から起こる執着は「取」である。そして、その「愛」の結果、妄執に取り憑かれ、最終的に憎しみを生む。それ故、『楞嚴経指掌疏』巻4では「以憎愛相對有愛必有憎故」とあるが、愛があれば必ず憎しみもあるという意である。

3.1 叶わぬ「愛」から「憎しみ」に

『四十二章経疏鈔』巻4には「由於欲境。起諸違順。境背愛心而生憎嫉。造種種業。是

故復生地獄餓鬼」とあるが、これ満たされない欲望、満たされない愛のせいで、心に憎しみや妬みが生じ、あらゆる悪業を生み出し、その結果、鬼に転生するという意味である。愛という悪業は、聖人(修行者)であっても、避けられないものである。修行者であった聖人に愛欲が生じたため、修業を棄ててから、どのように鬼道に堕ちたかについて、説話には次のように描かれている。

見モ不習ヲ心地ニ、此ノ端正美麗ノ姿ヲ見テ、聖人忽ニ心迷ヒ肝碎テ、深ク后ニ愛欲ノ心ヲ発シツ。然レドモ、可為キ方無キ事ナレバ、思ヒ煩テ有ルニ、胸ニ火ヲ焼クガ如ニシテ、片時モ思ヒ遇スベクモ不思エザリケレバ、遂ニ心澆テ狂テ、人間ヲ量テ、御帳ノ内ニ入テ、后ノ臥セ給ヘル御腰ニ抱付ヌ。后驚キ迷テ、汗水ニ成テ恐ゾ給フト云ヘドモ、后ノ力ニ辞ビ難得シ。

（后に乱暴しようとした聖人はその場で逮捕され、都から追い出された。金剛山に戻った聖人は、毒の誓いを立てて餓死し、鬼になった）其形、身裸ニシテ、頭ハ禿也。長ケ八尺許ニシテ、膚ノ黒キ事漆ヲ塗レルガ如シ。眼ハ鉤ヲ入タルガ如クシテ、口広ク開テ、劍ノ如クナル齒生タリ。上下ニ牙ヲ食ヒ出シタリ。赤キ裕衣ヲ搔テ、槌ヲ腰ニ差シタリ。

『新日本古典文学大系 今昔物語集・四』（巻20 第7）

聖人が几帳の隙間から単衣だけ着た后を垣間見た際、後の美しい容貌と甘美な身振りに引きつけられ、心の愛欲が抑え切れずに、后を汚そうとする。愛と欲望のドキドキするような、抑えきれない欲心は、「思ヒ煩」、「胸ニ火ヲ焼ク」、「片時モ思ヒ遇スベクモ不思エザリ」、「心澆テ狂テ」などと直感的に表現されている。愛欲の業を犯した聖人が山に帰っても後に未練を持ち、「本ノ願ノ如ク、鬼ニ成ラム」と誓って飢え死にした。人間として得られないから、鬼になって得られるということである。従来、この「膚ノ黒キ事漆ヲ塗レル」が如く醜い鬼の正体については諸説がある。小峯(1976)は、「天宮」という表記がタイトルのみで使用され、説話の全文では「鬼」という字が使われていることから、后が悩まされる「鬼」は「天狗」ではなく、「霊鬼」の類であると主張している。それに対して、森(1986)は、「当時、僧が驕慢や執着で天狗道に堕ちる通念があったため、修験者の転生した鬼が天狗と見なされていると解すべきである」と反駁した。

さらに、後世において、『宝物集』（身延山久遠寺本 巻2）では「紺青鬼ト云御物ノケニトリコメラレタ」⁷⁾とし、『平家物語』（延慶本 第2本8「中宮御産有事」）には「紺青鬼ト云御物ノケニ被取籠テ世中ノ人ニモサカナクイワレサセ給事侍ケリ」とある⁸⁾。仏教における紺青鬼は瞋恚、悪意、憎しみの化身だと見られている。つまり、聖人は染殿の後の美しさを目の当たりにすると恋に溺れ、かなわない恋に執心しておく、そしてこの恋の妄執が憎しみに変わり、最終的には醜い鬼と化すとされる。したがって、それは美さから愛

へ、愛から憎しみへ、憎しみから醜さへの変容の過程だと考えられる。

ところで、このような恋、醜さ、鬼の繋がりは、古来より日本人の感性に存在していたのではないだろうか。

『万葉集』の恋の歌にあるように、かなわない恋愛を詠う和歌の中で、「シコ(醜)」の代わりに「鬼」の字で表記されることが多い。例えば、舎人皇子が舎人娘子を思うときに贈った歌に「ますらをや 片恋せむと 嘆けども 醜のますらを なほ恋ひにけり (万葉集・117)」という歌があるが、この歌の原文では「醜のますらを」は「鬼乃益ト雄」と表記され、愛人に片思いなどに悩む自分は見苦しい男だと自嘲している。もう一つの例として、大伴家持と大嬢の往来が断絶され、数年後に再会した時に贈った歌を挙げることができる。「忘れ草 わが下紐に 着けたれど 醜の醜草 言にしありけり (万葉集・727)」という歌の中の「醜の醜草」は「鬼乃志許草」と表記されているが、恋心を忘れるという忘れ草を嫌な草、いまいましい草という意味を表している。

『現代語対照 万葉集 (上)』では、「本集のシコの用字例には「鬼」の字が五例もあり、『鬼』は一方でモノとも訓まれているので、シコは、異郷・霊界から出現するモノ(精霊)と同義に考えられたようである。それが醜く、けがらわしく、うとましいさまをいうようになり、さらに自嘲的な表現にもなったのであろう」(2002:154)と注釈を付けている。

また、「モノ」と訓む「鬼」は、大野(2012:232)では「怨霊という意味のモノは、この世に恨みを抱いたまま死んだ人の霊を指す言葉である」と解釈され、モノノケはモノ(怨霊)ノ(助詞)ケ(兆候)という構成で、モノ(怨霊)の働きによる症状であると説明されている。

いずれにしても、恋の中の執念、欲望、嫉妬などのしつこい感情が鬼のような醜いものだという印象は、後世に流れていくだろう。そして、怒りと悲しみを抱え、愛欲と嫉妬を抑えられない妄執は醜い鬼になる。説話によると、鬼になった聖人は望みどおり后を手に入れ、さらに、自分を牢獄に入れた侍医と家族も呪いで苦しめて殺してしまう。しかし、最初は聖人の叶わない恋だったのかもしれないが、その恋が手に入らないという執着心によって鬼と化した挙句、残ったのは怒りと恨みと憎しみだけであったと思われる。

3.2 手放せない「愛」から「憎しみ」に

愛と欲望の芽生え、また、憎しみと執着を主題に描く日本の説話に対して、中国の夜叉の異類婚姻譚は夜叉と恋人が別れるときの劇的な葛藤をめぐって描き出されている。

「夜叉の異類婚姻譚」の源流は『本生経』の「足跡善知童子本生譚」とされている。しかし、「足跡善知童子本生譚」の核心は夜叉女の恋ではなく、母親として夜叉女が子供たちに捧げる無償の愛に説話の焦点が当てられている。説話では、夜叉女とバラモン男性の息子である菩薩は自分の母親が夜叉女であることを知り、父親を連れ去ろうとする。二人が逃亡する際に、夜叉女は川向こうの夫と息子に目をやるが、父子を説得できないのを見て、自分がいなくなっても息子が生きていけるように秘密の真言を口伝した。それが済んだ後、

悲しみのあまり心が破裂してその場で死んでしまう。夜叉女が死ぬときのシーンは次のように描かれている。

夜叉女雖然非常苦悶煩惱，但為對子之愛情，以此呪文授彼。菩薩立於河中，向母為敬禮，合手如龜狀，受持呪文，再向母為敬禮云：「母親！再見。」夜叉女云：「予子！汝不歸來，予不能活。」彼女捶胸，對子悲哀，忽然心臟破裂，死倒於當場。

『本生經』432「足跡善知童子本生譚」

説話に登場する夜叉女は人間のように感情豊かで、夫と息子に見放された後も息子に秘法を伝授し、息子と引き離される痛みに耐えられず、嘆き悲しんで死んでしまうわけである。なお、夜叉の別名は「鬼子母神」で、民間伝承では子供の守り神とされる慈愛に満ちた母親のような神である。

しかし、中国における夜叉の異類婚姻譚では、夜叉が恋人に見棄てられ、怒りのあまり息子を殺すというエピソードに変わっている。中国説話の終盤では子供を抱いて愛する人を追いかける夜叉の顔は次のように、恨み、怒り、悲しみに満ちている。

夜叉寻抱大儿至岸。望船噉叫。以儿相示。船行既远，乃擘其儿作数十片，方去。

『太平広記』「杜万」

其夜叉忽自郡中来，至浮屠下，望某而语曰。何为有异志而弃我乎？使我终不得近子矣。从此别去。

『太平広記』「朱峴女」

时婦人继来，度不可及。呼其人骂之，极口悲啼，扑地气几绝。奔走号呼恋恋，度不可归，即归取三子，对此人裂杀之。

『夷堅志』「島上婦人」

夜叉が悲しげにすすり泣きながら子供を抱いて追いかけている姿を見ても、平気で逃げ出す恋人に比べ、夜叉はより人間味溢れている。夜叉は見捨てられたことへの怒り、恨みを憎しみに変え、逃げた恋人の前で怒りにまかせて息子を殺す。他方、夜叉の悲しみは行動や感情だけでなく、言葉にも表れている。『太平広記』の「朱峴女」という説話では、夜叉男は「なぜ心を変え、私を捨てたのですか。今後、あなたには近づかない。離れようと思う」と言って去ってしまう。その言葉には不本意さと悲しみが込められ、時には鬼よりも人間の方が薄情であることが表れている。要するに、愛から憎しみへの転換の限界点は恋人と別れた際、自分の肉親を殺すというエピソードで示されている。

人間と鬼の恋物語は、早くも『搜神記』の中に存在し、広く流布されている。中国人の意識では鬼の感情は豊かであるという点では人間と同じである。また、中国では「牡丹花

下死，做鬼也风流」（『醉西施』）⁹⁾や「鬼神为情痴，葬车相见期」（『华山畿』）¹⁰⁾などの名句があり、鬼は多情多感なイメージをもっている。鬼と恋は中国人の感性から言えばロマンチックな印象があり、好色の人「色鬼」あるいは「風流鬼」と呼ばれ、女性は情郎を「死鬼」と呼んでいる。徐華竜(1991)では、これらは中国の伝統的な死生観と直接関係があると論じている。仏教の地獄の概念が導入される以前、中国の伝統的な文化では、死とは肉体の死を指し、魂は泰山に戻って地下の世界で生活続けると信じられていたため、現実の世界では実現できない多くの願いが、鬼神の世界に託して実現される。そして、中国の鬼の説話は鬼と人間の感情の葛藤、紛争、恨み、愛着、友情などを重点的に表現している。

このような伝統的な意識の影響で、無慈悲な仏教の鬼神も人間の感情の匂いに彩られ、恋人たちへの「愛」は、捨てられたときの悲痛な叫びとして夜叉の絶望で表現され、極端な「憎しみ」は血のしがらみを超えて息子を殺す夜叉の憤怒として表現されている。しかし、たとえ手放したくなくて大声で泣き叫んでも、また恋人の前で我が子を殺しても、人間に恋をする夜叉は結局は見捨てられる運命から逃げられなかったのである。

まとめ

仏教説話における「恋の鬼」は人間の強烈な感情を具現化したものとみなすことができるが、日中両国の文化風土によって異なるかたちで現れている。中国の説話では、鬼の方は人間よりも感情的でしつこい一面がある。これは、「人間も鬼も違いはない」という伝統的な感覚の拡張が人間以上に感情や欲望が豊かな仏教の鬼にも及んでいるからかもしれない。その結果、夜叉の恋も過激になり、人間に恋をすれば作法を無視して直接掠め取り、恋が憎しみに変われば、世の中の倫理を無視して怒りをぶちまけるために息子を殺す。人間より感情的である中国説話における鬼とは対照的に、日本の説話に登場する鬼は人間の極端な情感から化したものである。おそらくこの認識は、『万葉集』の時代から存在していたのであろう。極端な愛は、人の心を蝕む醜い鬼へと人を変えてしまうからこそ、愛の表現は抑制されるべきなのである。

同じ宗教に対する理解は伝統文化によっても異なる。また、それは両国の文学の異なる表現として反映されている。文学に反映される異文化の交流と融和もまた文学研究の魅力であり意義である。どのような形で表現されるにせよ、仏教説話に登場する「恋の鬼」は、気の毒で哀れな存在である。

注

- 1) インドから西域地方を経て中国、韓国、日本などの北方に伝わった仏教を北伝仏教という。
- 2) 『今昔物語集』では「天狗」を「天宮」と表記されるところもある。
- 3) その巻二十に登場する天狗について森（1986）では「天狗は反仏法的存在には違いないが、

仏法の体系の外にあるものではない。周縁の存在であり異端である」と説明されている。

- 4) 本稿で参考になった仏教経典は、CBETA 電子仏典資料庫に載せるものであり、ウェブサイトの底本は『大正新脩大藏經』（大藏出版株式會社）第一冊至第八十五冊、『卍新纂續藏經』（株式會社國書刊行會）第一冊至第九十冊、歴代藏經補輯などである。
<https://cbeta.org/copyright.php>（アクセス日：2023/06/27）
- 5) 宋(976-997)の勅命を奉じて李(925-996)ら 12 名が編纂したもので、中国で現存する最古の小説の類書である。
- 6) 洪(1123-1202)が編纂した説話集である。
- 7) 本稿に取り上げた身延山久遠寺本『宝物集』は未刊国文資料所で所蔵するもので、引用された部分は第 2 分の 46 頁の内容である。
- 8) 延慶本『平家物語』の本文は古典研究会の影印版、第 2 本 8「中宮御産有事」の一、505 頁の内容である。
- 9) 「牡丹の花（また、美人と訳されることも多い）の下で死に、鬼となるのも風流だ」という意味、出所は珠簾繡(元時代)の『酔西施』である。
- 10) 李(1576-1634)の詩、「鬼神も愛欲のためにおろかなり、喪車の出会うことを期する」の意味である。

参考文献

- 大野晋（1992）『古典基礎語の世界』角川ソフィア文庫、232 頁。
- 小峯和明（1976）「今昔物語集における説話受容の方法」『国文学研究』5 号、44-54 頁。
- 佐竹昭広・山田秀雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之（校）（2002）『新日本古典文学大系万葉集』岩波書店。
- 蔡苡（2016）「『本生経』中の夜叉婚恋故事对中土小説的影響」『文学研究』2 号、58-65 頁。
- 桜井満（訳注）（1974）『現代語対照 万葉集（上）』旺文社、154 頁。
- 徐華竜（991）『中国鬼文化』上海文芸出版社、11 頁。
- 塚本善隆編纂代表（1974）『望月仏教大辞典』世界聖典刊行協会、2907 頁。
- 仏教伝道協会（1994）「大般涅槃経」『和英対照仏教聖典』仏教伝道協会、169-171 頁。
- 森正人（1985）「天狗と仏法—今昔物語集の統一的把握を目指して」『愛知県立大学文学部論集』34 号、1-13 頁。
- 森正人（校）（2001）『新日本古典文学大系 今昔物語集（第四冊）』岩波書店、235 頁。
- 森正人（1986）『今昔物語集の生成』和泉書院、218 頁。

A Comparative Study of "Koi no Oni (恋の鬼)" in Japanese and Chinese Buddhist Tales: About "love (愛)" and "hate (憎しみ)"

YU, Xin ZHANG, Zhichao

Abstract

It goes without saying that Buddhism has a profound influence on both China and Japan. However, there are subtle connotations and emotional subtleties that cannot be conveyed even by the same words in Buddhism. These are the differences in understanding between the two countries due to their different culturally and emotionally sensitive natures. Conversely, different understandings of Buddhism are also reflected in the cultural climate of each country and are often seen in the image of demons in Buddhist legends. Therefore, it is thought that the mutual influence of the cultural climates of the two countries and Buddhist culture has created their own image of the "Koi no Oni (恋の鬼)" which is different from the image of ordinary ogres.

This paper focuses on the special image of the "Koi no Oni (恋の鬼)" in Buddhist legends in both China and Japan as a subject of study, comparing the images of "love (愛)" and "hate (憎しみ)" as seen in the images of Tengu and Yasha in the *Konjaku Monogatari-shū* (今昔物語集) and the Chinese "Yasha's Tale of Intermarriage (夜叉の異類婚姻譚)". In Japanese folklore, the image of the "Koi no Oni (恋の鬼)" is that of a demon who went mad with unfulfilled "love (愛)" and turned to "hate (憎しみ)" to create evil karma, becoming an ugly demon. In contrast, in Chinese legends, the image of the yaksha who falls in love with someone is that of a lover who refuses to let go of his lover who tries to leave him, and the image of the yaksha who expresses despair and hatred by killing his own relatives can be seen. These different expressions of emotion are also the result of the fusion of their own cultural climate and Buddhist culture, and the differences are also the result of the interpretation of the traditional sensibilities of the two countries based on Buddhist culture.

Keywords : Buddhist preaching, acceptance of Buddhism, cultural climate, "Koi no Oni (恋の鬼)"

志賀直哉「三つの処女作」についての考察

安 勇花（延辺大学）、金 壘（延辺大学大学院生）

要旨

『菜の花と小娘』、『或る朝』、『網走まで』などの三作品は、志賀直哉自ら処女作と称する作品である。この三つの作品の成立過程を考察してみると、志賀直哉が作家になるための試しが一層明らかになる。最初に執筆された『菜の花と小娘』は、西洋文学の影響を受けて試みた一連の創作のなかで、唯一成功した作品と言える。西洋小説へアプローチする努力は挫折してしまっていたが、私的な家庭生活での自己をそのまま描く『或る朝』は、意外に成功している。その後、西洋文学の影響から脱して、自ら新しい文学的な道を切り開くために、志賀直哉は自分の想像力を基盤として『網走まで』を創作し、『白樺』創刊号に発表した。『網走まで』を嚆矢とする一連の名作を通して、志賀直哉は自らの文学の道を開いたのである。

キーワード： 志賀直哉、処女作、成立過程

はじめに

志賀直哉は明治から昭和にかけて活躍した白樺派を代表する小説家の一人である。「小説の神様」と称せられ、多くの日本人作家に影響を与えた。周知のように、『菜の花と小娘』（明治39.4執筆、大正9.1『金の船』発表）と『或る朝』（明治41.1執筆、大正7.3『中央文学』発表）と『網走まで』（明治41.8執筆、明治43.4『白樺』発表）は志賀直哉のいうところの三つの処女作である。それを裏付ける内容として、彼の自作回顧文とも言うべき『続創作余談』の一節を挙げることができる。

世間に発表したもので云へば『網走まで』が私の処女作であるが、それ以前に『或る朝』といふものがあり、これが多少ともものになった最初で、これをよく私は処女作として挙げてみる。「或る朝」以後は兎に角小説らしくなったから、これが処女作でもいいわけであるが、更に遡ると、高等科の頃、一人上総の鹿野山に行った時書いた『菜の花と小娘』を別の意味で処女作と云っていいかも知れない¹⁾。

志賀直哉は自ら『菜の花と小娘』、『或る朝』、『網走まで』の三作にそれなりの意味を与

えながら、三つとも処女作として認めている。その点について、高田瑞穂（1968）はその三つの作品がそれぞれ志賀文学の性格を暗示していて興味深いと言いながら、「三つの処女作は、自伝的、見聞的、想像的という三つの世界存在を告げている。」と指摘した。高田の言う通り、『菜の花と小娘』は語りから成る一種の童話風の作品であるという意味で創造的であり、『或る朝』は作者本人を思わせる「私」と祖母と感情の対立を扱った作品であるという意味で自伝的であり、『網走まで』は主人公の「自分」が汽車の中で目撃した親子三人に関する話を軸にしているという意味で見聞的であると言えよう。また、深澤範一（1995）は「主観・客観の間で、小説の方法を模索した（中略）習作期の志賀直哉が、虚構性の強い客観小説、いわゆる『本格小説』を指向していながら、やがては私小説作家と呼ばれていく」と指摘したように、志賀直哉が作家になるまでの様々な試みが窺われる。したがって、本稿では、これらの先行研究を踏まえ、志賀直哉の「三つの処女作」の成立過程を考察することにより、志賀直哉の作家としての原点における創作意識の変化について考えてみたい。

1. 『菜の花と小娘』の成立過程

『菜の花と小娘』は1920年（大正9年）童話雑誌『金の船』に発表された作品である。『或る朝』の前に書かれたものは、ほとんど日の目を見なかった失敗作であるが、後年発表されたのは、志賀直哉の処女作の一つとされる『菜の花と小娘』のみである。本作はまさに童話のような作品である。一人の少女が耳を澄ますと一輪の菜の花が声をかけていることに気が付く。菜の花は仲間の沢山いる場所に植えかえてほしいと少女に懇願し、少女はその願いを聞き入れて自分の村の菜畑まで連れて行ってあげる。あらすじだけ書いてもまさに童話のような話であり、子供に聞かせてあげても良いと思うぐらいの作品である。

この作品の成立事情について、志賀直哉の自作解説『続創作余談』には、「アンデルセンのお伽噺を愛読していた時で、其影響で書いたものだ。」²⁾ という注目すべき一句が見られる。その他『私はかう思ふ』（『文芸』、昭和27.6）という作品には、「本当の意味の処女作」というアンケートに答えて「『菜の花と小娘』といふのを学習院の学生時代アンデルセンの真似をして書いた。」と書かれてある。そして、発表の事情が次のように記されている。

我孫子に住んでみた頃、ある婦人雑誌で五円の懸賞金でお伽噺を募集してゐるのを見て、家内に儲けさしてやろうと云ふので、一ト晩かかって、少し長かったのを条件通り六枚に書縮め、翌日家内に清書さして、家内の名で応募したところ、見事落選、原稿もそのまま返って来なかった。それから間もなく『金の船』といふ子供雑誌から原稿を頼まれ、再び家内に清書さして送ったところ、今度は十八円の原稿料を貰ひ、却って儲かった³⁾。

作者の言葉を額面どおりに受け取れば、「高等科の頃(中略)書いた『菜の花と小娘』と、『金の船』といふ子供雑誌」に発表した『菜の花と小娘』は、文章の長さにくらかの違いはあるものの、基本的には同一内容の作品だということになるだろう。発表した時期こそ後年のことだが、執筆それ自体はすでに作家デビュー以前の、いわば習作時代に行なわれていた。作者がこの作品を処女作とみなす理由はこうした点にあると考えられる。そして、この作品がアンデルセンの童話と深くかかわっていることは、テキストを見るといっそう明らかになる。

まず、主人公「菜の花」の境遇の設定の仕方は、一種アンデルセン童話の流れだと思われる。新しい視点での創出はみられないのである。

「雲雀の胸毛に着いて来た種が此处で零れたのよ。困るわ」と悲しげに答へました。そして、どうか私をお仲間の多い麓の村へ連れて行って下さいと頼みました⁴⁾。

雲雀の胸毛から零れ落ちた種が「菜の花」に成長した。「菜の花」にとって今自分の居場所は本来の自分の居場所ではない。自分の本当の居場所は麓の菜畑なのだ、と「菜の花」は自覚している。それに苦しんでいる「菜の花」は、仲間の多い麓の菜畑へ戻ろうという願望を持つ。ある晴れた静かな春の日、雑草の中から只一本、僅かに首を差し出している小さな「菜の花」は、小娘との出会いによって冒険の旅へと出かけ、そして小娘の協力のもとに麓の菜畑に戻り、大勢の仲間と幸せに暮らす身となった。つまり、偶然の事件で仲間と別れ、別の所で孤独に育てられ、大変なチャレンジや冒険をして本当の居場所に戻ったのである。こうした主人公の境遇の設定は、アンデルセンの代表作品である『親指姫』の主人公の境遇、即ち花から生まれた親指姫が、他の生き物たちの援助を得て、最終的に花の国の王様と結婚して幸せに暮らすというハッピーエンド設定に似通っている。

また、『菜の花と小娘』の童話的なプロットにもアンデルセン童話の影響を見ることができる。仲間と別れた孤独な「菜の花」にとって、仲間の多い麓の菜畑へ戻るのはずっと前から抱えていた願望である。従って、山で枯れ枝を拾う「小娘」と出会ったとき、「菜の花」は積極的に話をかけて「小娘」の助力を頼みにする。菜の花の境遇を可哀想と思う「小娘」は、菜の花の願いを叶ってやろうと決心する。「菜の花」と「小娘」は一緒に麓の村に帰る旅を始める。しかし、「菜の花」の冒険の旅では、様々な困難にぶつかることになる。

菜の花は不安さうに首を振りました。そして、「先へ流れて了ふと怖いわ」と云ひました。

菜の花は流れに波打って居る髪の毛のやうな水草に根をからまれて、さも苦し気に首を振って居ました。

菜の花は死にさうな悲鳴をあげました。小娘は驚いて立ち止まりました。見ると菜の花

は、花も葉も色が褪めたようになって……（後略）⁵⁾。

流れに乗ること、水草に根を絡まれること、口の尖った意地の悪そうな顔をしているイボガエルの悪戯など、すべて「菜の花」にとっての新しいチャレンジであった。ただし、「心配しなくてもいいのよ」、「もう直ぐよ」といった「小娘」の言葉に励まされ、夢への信念が変わらない「菜の花」は、いよいよ困難を乗り越えて麓の村に着き、小娘の家の菜畑に植えられることとなる。

其処は山の雑草の中とは異なって土がよく肥えて居りました。菜の花はどんどん延びました。そうして、今は多勢の仲間と仲良く、仕合せに暮らす身となりました⁶⁾。

作品の最後は、童話的な結末で締めくくられていた。

要するに、この作品は、勇気をもって夢を追求する「菜の花」が、善良な心のある「小娘」の協力のもとに、主人公たちの冒険によって幸福を獲得した話にすぎない。夢への追求、勇敢、善良な心、それらは『菜の花と小娘』のみではなく、アンデルセンの童話に見られる共通の主題である。結局、アンデルセン童話から影響を受けて書かれた『菜の花と小娘』は、最後は小説でなく、童話として発表されたのである。こうした意味で、志賀直哉の小説創作は、西洋の小説を真似ることに始まったと言えるだろう。

2. 『或る朝』の成立過程

『或る朝』は志賀直哉が26歳のとき、祖父の三回忌の法事があった朝、祖母との喧嘩を『非小説、祖母』と題して、1908年（明治41年）1月14日に書いた作品であり、1918年（大正7年）3月1日『中央文学』第3巻第3号に掲載されたものである。作品の梗概は次のとおりである。

祖父の三回忌の法事の朝、主人公信太郎は祖母に何度も起こされたが、起きないため、祖母と喧嘩になり、怒った祖母は涙を拭きながら部屋を出て行ってしまう。信太郎は諏訪へ氷滑りに行って祖母を心配させてやろうかと考える。諏訪と思いついたのは、この間三人の学生が湖の中に落ちて死んだ事件を思い出したからである。そこへ、何事もなかったような顔をして、筆の相談に部屋に入ってきた祖母の素直な態度に機嫌を直し、祖母と和解した。この主人公信太郎と祖母との間に起こった喧嘩が進行している最中、隣の部屋から信太郎の弟と妹たちの騒ぎ声が聞こえてくる。

『或る朝』について志賀直哉は、『創作余談』で次のように述べている。

『或る朝』は二七歳の正月十三日亡祖父の三回忌の午後、その朝の出来事を書いたもので、これを私の処女作とっていいかも知れない。私はそれまでも小説を始終書かう

としてゐたが、一度もまとまらなかった。筋は出来てゐて、書くともものにならない。一気に書くとおぼろげの荒っぽいものになり、ゆっくり書くとおぼろげな事柄に筆が走り、まとまらなかった。所が、『或る朝』は内容も簡単なものではあるが、案外楽に出来上り、初めて小説が書けたといふやうな気がした。それが二十七歳の時だから、今から思へば遅れてゐたものだ。こんなものから多少書く要領が分つて来た⁷⁾。

「初めて小説が書けたといふやうな気がした」という志賀直哉自らの発言と草稿「祖母」を「非小説」と題した事実との間に矛盾が生じる。この点について、「『非小説』という言い方は、小説ではあるが、持ち合わせの観念では、小説と言えない」という須藤松雄(1976)の解釈から、当時の志賀直哉の持っていた小説意識の特殊性を考えなければならない。そして、志賀直哉の当時の小説概念について、劉建仁(2014)は「キリスト教の入信、西洋美術等との接触、西洋小説の耽読、英文科の入学など、西洋文化を最先端で享受した志賀直哉にとって、作者という自己を抜き取り、他者のことを客観的に描くのが真の小説である。」と指摘した。他者のことを描くのは小説であるという小説概念を持っていた当時の志賀直哉にとって、草稿「祖母」は意識して作られたのではなく、事実即ち、自然にできあがった作品であるからこそ、草稿「祖母」を「非小説」と題したのである。ところが、「小説」でないのなら、何も冠せず、ただ「祖母」と題してもよかったはずであるが、わざわざ「非小説」としたということから、「祖母」はたしかに「小説」とはいえない、しかし作品としてよくまとまっているから、やはり小説と呼びたい」という志賀直哉の想いは、「初めて小説が書けた」という実感と「多少書く要領が分つて来た」という充足感が伏流して「創作余談」のことばとなつて湧出したと受け止めてもよいであろう。

以上述べたように、「客観」という西洋小説概念の影響で、西洋の小説を手本として書かれたものは、『菜の花と小娘』を除いて殆ど形をなしておらず、日の目を見なかった失敗作であった。一方で、「非小説」と名付けられた「主観」である『或る朝』は、「案外楽に出来上り、初めて小説がかけたといふやうな気がした」という発言から、志賀直哉は今までの小説の隘路が一つ開かれたとの思いを抱いたのといえよう。

3. 『網走まで』の成立過程

『或る朝』のあとに執筆されたのは『網走まで』である。この作品は1910年(明治43年)4月発行の『白樺』創刊号に発表された志賀直哉の最初の小説である。残暑が厳しい8月の或る午後、宇都宮の友のところへ行くため上野駅で東北線列車に乗った「自分」が、二人の子供連れの女の人を見て、憐憫の情を催しながら、彼女との間に起こる些細な出来事を語った短編である。

『網走まで』は初出の後、大正7年3月に白樺同人の作品集『白樺の森』に収録される際、「明治41年8月」と執筆年月が示されるとともに大幅に書き改められ、それが現在『志

『志賀直哉全集』に収められた現行の『網走まで』となった。さらに岩波書店刊行の『志賀直哉全集』を編集する過程で、『網走まで』の草稿と見なすことができる『小説 網走まで』が発見された。以上のように、『網走まで』には「草稿」、「初出稿」、「完成稿」の三種類の異なった原稿がある。『創作余談』からその創作の旨を伺うことができる。

『網走まで』は或時東北線を一人で帰って来る列車の中で前に乗り合してゐた女とその子等から、勝手に想像して小説に書いたものである。これは当時帝国大学に籍を置いてゐた関係から「帝国文学」に投稿したが、没書された。原稿の字がきたない為であったかも知れない⁸⁾。

創作のモチーフはこのあたりに在るだろう。「勝手に想像して小説」に仕立てたものであって、遠距離列車「東北線を一人で帰って来る」旅行者のセンチメンタリズムと、同じ列車に「乗り合してゐた女とその子等」に注ぐ青年のロマンチズムとの所産なのである。加えて、『網走まで』は旅行記、紀行文学の一面も備えていることを指摘しておかなければならない。総武鉄道の専務取締役で、国鉄移管に尽力した父直温の影響もあってか、旅行好きの志賀直哉はこの頃、東北各地の旅行をしている。ホームグラウンドに対する親近感も生きていて、旅行関連の作品が作られるのはごく自然なことである。

また、『網走まで』が執筆された1908年(明治41年)8月9日から13日まで、志賀直哉は妹英子、弟直三を連れて日光・中禅寺・湯本の旅行をしていた。町田栄(1977)は「第一草稿は、この旅行直後の制作である」と指摘した。そして、『網走まで』の主人公は「八月もひどく暑い時分の事で、自分は特に午後四時二十分の汽車を選らんで」¹³⁾上野駅を発っている。この点について、町田栄は「当時の時刻表にあたる『博文館発行・汽船鉄道旅行案内』によれば、「午後四時二十分の汽車」は「青森行」ではなく、「日光行」である。」と述べたが、問題になるのは、なぜ志賀直哉がこの作品を「日光まで」ではなく「網走まで」と題したかということである。

「網走」仮構の内奥に着目した論考に、桜井勝美(1976)の「志賀直哉の原像」がある。桜井氏は網走の困難な交通事情を志賀直哉に語って、次のような証言を得る。

そんなだったのかね。ぼく(志賀)はね、あれは祖父(直道)の姉におりきさんというのがいてね、それが北海道の網走へ行ったということを小さいころ聞いたことがあって、ずいぶん遠い所へ行ったもんだと思ったものだ。それを思い出して『網走まで』とした⁹⁾。

したがって、『網走まで』は旅行好きの志賀直哉が兄弟旅行に基づき、「網走へ行ったおりきさん」という幼いころの思い出と結合して「網走まで」を創作したと看做すことができるのである。この作品における語り手の「自分」は、志賀直哉本人であったが、作者の

想像力をより多くその基盤として生成されたフィクションのものであった。虚構性に富んだ、まさに「勝手に想像して書いたもの」である。

高田瑞穂は、以上考察してきた『菜の花と小娘』、『或る朝』、『網走まで』の三つの処女作を、自伝的、見聞的、想像的という三つの世界の存在を告げている。」と述べているが、作品の成立から見れば、この三つの作品はむしろ、「模倣的」、「日記的」、「虚構的」と言えるのではないだろうか。

おわりに

『或る朝』執筆前の志賀直哉の創作営為は、西洋文学から受けた大きな影響で、作者自身の主体抜きでの、他者が描かれる客観小説に重点を置いたものであった。西洋の小説を手本として数多くの試作が行われているが、書かれたものは『菜の花と小娘』を除いてほとんど形をなしておらず、日の目を見なかった失敗作であった。このように西洋小説へアプローチする努力は挫折してしまう。一方で、「非小説」と名付けられ、私的な家庭生活での自己をそのまま描く『或る朝』は、「案外楽に出来上り、初めて小説がかけたといふやうな気がした」と、意外に成功している。その後、西洋文学の影響から脱して、自ら新しい文学的な道を切り開いていく必要性を感じたものと思われる。従って、『或る朝』の以後、作者自身という主体抜きでの、他者を客観的に描こうとする試みは志賀文学において次第に消えてゆき、その代わり、作者志賀直哉の想像力を基盤にしたフィクションの傾向が顕著なものになっていく。『白樺』創刊号に発表された『網走まで』を皮切りに、志賀直哉は自らの新しい文学の道を開いたのである。

注

- 1) 志賀直哉 (1963) 『現代文学大系 21 志賀直哉集』 筑摩書房 475 頁。
- 2) 注 1) に同じ
- 3) 注 1) に同じ
- 4) 志賀直哉 (1971) 『日本の文学 22 志賀直哉 (二)』 中央公論社 11 頁。
- 5) 注 6) に同じ、12-14 頁。
- 6) 注 6) に同じ、14 頁。
- 7) 注 1) に同じ、461 頁。
- 8) 注 1) に同じ、461 頁。
- 9) 6) に同じ、15 頁。

参考文献

- 志賀直哉 (1963) 『現代文学大系 21 志賀直哉集』 筑摩書房。
- 志賀直哉 (1971) 『日本の文学 22 志賀直哉 (二)』 中央公論社。

- 高田瑞穂（1968）「解説」『精兵衛と瓢箪・網走まで』新潮文庫。
- 桜井勝美（1976）『志賀直哉の原像』宝文館。
- 須藤松雄（1976）「未定稿に含まれる意味」『國文學—解釈と教材の研究』21(4)、161-165 頁。
- 富澤成實（2015）「志賀直哉『菜の花と小娘』とアンデルセン」『明治大学教養論集』504、67-85 頁。
- 杉井和子（1997）「志賀直哉論—『菜の花と小娘』から『或る朝』をめぐって」『茨城大学人文学部紀要・人文学科論集』30、1-22 頁。
- 遠藤祐（1977）「『或る朝』からの出発—処女作の問題」『フェリス女学院大学紀要』12、1-28 頁。
- 寺本喜徳（1988）「『或る朝』の構造をめぐって—志賀直哉の方法(二)」『島根女子短期大学紀要』26、1-10 頁。
- 深澤範一（1995）「主観と客観のあいだ—志賀直哉初期作品の成立—「網走まで」「剃刀」」『横浜国大言語研究』13、12-21 頁。
- 町田栄（1977）「志賀直哉『網走まで』教材化の根幹—第一草稿から「白樺」初出稿への変容(〈特集〉教材研究のあり方)」『日本文学』26(7)、46-54 頁。
- 刘建仁（2014）「考察志賀直哉的私小説的成立过程」（湖南大学修士論文）。
- 吴树文（1986）「志賀直哉の文学道路」『东北师范大学学报』(4)、82-88 頁。

A Study of Shiga Naoya's "Three First Novels"

AN, Yonghua, JIN, Lei

Abstract

Three of Shiga Naoya's works, "Nanohana to komusume", "Aruasa" and "Abasiri made" are works that he himself called his first novels. An examination of the process of the formation of these three works will further clarify Shiga Naoya's attempts to become a writer. The first work, "Nanohana to komusume", is the only successful work in a series of creative attempts under the influence of Western literature. Although his efforts to approach Western novel failed, "Aru asa" which portrays his private domestic life as it is, was surprisingly successful. Later, in order to break away from the influence of Western literature and to forge a new literary path for himself, Shiga Naoya created "Abasiri made" based on his own imagination, and published it in the first issue of "Sirakaba". Through a series of masterpieces, starting with "Abasiri made" Shiga Naoya paved the way for his own literary path.

Keywords : Shiga Naoya, first novel, formation process

ドラマ『深夜食堂』リメイク作品に見る日韓の架橋

仲矢 信介（東京国際大学）

要旨

本論考では、近年のリメイク・アダプテーション研究が着眼するところに触発され、安部夜郎原作の漫画『深夜食堂』をドラマ化した日本版と、その韓国版へのリメイクについて分析する。

原作漫画は、2007年以来、雑誌連載、単行本刊行が2023年現在まで続いている。近年では日本のほか韓国、台湾で同時発売され、フランス版、スペイン版も継続刊行されるに至り、広範な人気を博している。本作品を原作として、まず日本でドラマシリーズ『深夜食堂』が制作・放映され、劇場映画も制作された。これらはアジアを中心に人気を呼び、韓国と中国でもリメイクされて、シリーズを構成している。

多くのエピソードから成る3カ国の作品群から、日本版と韓国版のドラマについて、同名のエピソードである「バターライス」のリメイクのありようを分析した。本リメイク作品は、同様の設定とストーリーに立ちながらも細部の現地化が施されていることに加え、日本版が示唆的・暗示的な方向性を持っていることに対し、韓国版は明示的・具体的であろうとしたことによって、興味深い再創造がおこなわれたことを指摘する。

キーワード： 韓国版、サードプレイス、再創造、暗示的、明示的

はじめに

本論考は、リメイク・アダプテーション研究の視点から、テレビドラマ『深夜食堂』の日本オリジナル版と韓国リメイク版を比較し、両者の表層的差異を記述、韓国リメイク版が新たに創造した価値を指摘する。

近年、ドラマ等のリメイク、映画化・再映画化等について、新しい読み解きの方向が提案されている。リメイク作品を、オリジナルとコピーという関係で捉えるのではなく、リメイク作品は原作を再解釈し、新たな価値を生み出し得る存在であるという認識に立って、リメイク作品自体の価値に光を当てようとするスタンスである。このような立場に立つ研究は、ハッチオン（2006、邦訳2012）等によって理論的に示され、野崎編（2013）、岩田・武田・武田編（2017）、小川・村田・吉村編（2017）、仲矢（2021）等において深められ実践されてきた。研究の姿勢・方法において、これらが本論考の先行研究と言える。

本論考では、対象として先行研究が取り上げていないテレビドラマ『深夜食堂』を取り上

げる。本作品は安部夜郎による同名漫画（2006～現在）を原作とする。原作漫画は日韓台で同時発売されるようになり、現在ではフランス語版、スペイン語版も継続して刊行されているなど、幅広く人気を呼んでおり、2009年10月から日本のMBS制作・TBS系でテレビドラマ化、シーズン3まで継続した。2016年10月配信開始の第4部からはNetflix制作となり、既に制作されたシーズンも含め、世界中で配信されるに至っている。この間、テレビドラマは韓国で2015年に、中国で2017年にリメイクされ、放映・ディスク化された¹⁾。

ここでは、一種の「サードプレイス」と考えられるこの食堂をめぐるドラマについて、日本版と韓国版とで共通の食材を掲げたエピソードである「バターライス」に焦点を当て、両国版に共通する構成要素を取り出し、また差異を抽出する作業を通じて、韓国版は単純な現地化バージョンではなく、注目すべき再創造を果たしていることを主張する。

1. 日韓に共通すること

リメイクによって変更されなかったこと＝変更の不要であったこと注目すると、本作品群に底流し、核をなすメッセージのヒントを読み取ることができる。以下にそれを確認する。

店は繁華街の外れ、路地裏にあって隠れ家的である。小さなカウンターだけで、テーブル席はなく、マスターと客の会話、客同士の会話も常に共有されている。また0時から早朝までと、深夜に限定した営業であり、メニューは少なく定食だけだが、注文があればできるものは作る方針。ただし供されるのはごく日常的な料理ばかりで、高級なものはない。酒は3杯までと決まっている。1人で経営する店主は頬に傷があり、日常や氏名も不明だが優しい顔立ちをしている。常連たちの職業や年齢はさまざまで、彼らや飛び込みの客たちの人生が交錯する。客たちはここにいる限り対等で、地位や職業などからは解放されている。

2. プロット

両国の作品群は多くのエピソードから成っており、プロットはさまざまであるが、エピソード「バターライス」を代表としてあえて抽象化するなら、以下のように表現できる。

深夜だけ営業している、ある小さな食堂は、常連たちのひそかな隠れ家で、だれもが対等な親しみを感じている。常連たちにとっては、そこに平穏と救いがある。

そこに、その平穏を破る人物が登場して事件が発生し、その人物と常連たちの間に緊張が走る。しかし、平穏を破った人物は、平穏を支えてきた人物の過去と現在をつなぐ。その人物は去るが、時の空白を埋めて幸福になる。平穏を破った人物も平穏を支える側に移動し、コミュニティに平穏が回復される。

3. 日韓「バターライス」の比較

日本版と韓国版とで共通の食材を掲げた回は「バターライス」のみである。また、本作は後述するサードプレイスとしての深夜食堂の一面を典型的に示していると思われるのでこの

回を取り上げ、両者を比較する。

3.1 日本版 第5話「バターライス」あらすじ

客たちが食事をしながらいつものように他愛のない話に興じていると、常連の一人、小道に連れられて料理評論家の戸山が入ってくる。戸山はフランス留学経験のある気取り屋で、話題も高級料理の話など、場の雰囲気を損なう内容だ。マイ箸で厚揚げを食べ、自慢や嘲りを含んだ哄笑で店のムードを壊す。

そこに流しのゴローが訪れる。マスターはいつも通り小豚汁とバターライスを出し、ゴローは食し、持ち歌を歌って去る。戸山はそれからたびたび訪れるようになる。ある日、ゴローが指の怪我を理由に流しを引退することを告げに訪れると、戸山の問いかけで、戸山の姉とゴローの古い関係が明らかになる。戸山の少年時代、戸山の姉がゴローと恋人関係にあったこと、戸山はその頃ゴローからギターを習ったこと、三人でよくバターライスを食べたことを思い出させる。さらにゴローの姉が親の決めた許嫁と結婚せずにゴローの許に戻ってきたこと、ゴローはその時すでに函館を去っていたこと、姉は現在も一人で、函館でカラオケスナックを営んでいることを打ち明ける。二人は並んで、店の割箸でバターライスを食べる。

戸山はそれからたびたび店を訪れバターライスを注文する。戸山の話で、ゴローが函館の戸山の姉の許にゆき、同居して姉の店を手伝っていると伝わってくる。戸山はバターライスをお代わりし、「この料理に星はつけられないよ」と言い、最後に常連たちと共感のこもった笑いを見せる。マスターの内心のつぶやき「こんな料理評論家ってありかねえ」で幕。

3.2 韓国版『深夜食堂from ソウル』におけるリメイク

韓国版は、ストーリーの骨格は同様ながら、至る所に細かな差異・付加があり、また、エンディングが異なる。日本版の豚汁に代えてキムチが映され、流しによって歌われる歌が「函館の女」から「赤い靴のお嬢さん」と韓国の歌に変更されること、箸がスプーンになること、等は単純で常識的な現地化であるが、演出の方向性には際立った差異が見られる。以下に示す。なお、台詞は日本国内盤の日本語字幕による。

(1) 評論家・オ（以下、評論家）の初来店で「パリ留学中は貧乏でこういう安酒場によく行っていた」。「安酒場」と直接的な表現。日本版は「こういうビストロ」。

(2) 評論家の蘊蓄「ビールはチェコで飲むべきだ。ドイツのビールは大衆的過ぎる、世界最高のビールはチェコのピルスナーだ」日本版は「久しぶりに日本で飲むビールはうまいね。ワインに飽きてたからちょうどよかった」。

(3) 評論家の習慣「まずいものはひと口だけ」日本版はひと口でやめるシーンのみで、韓国版は行動に加え台詞でも表現。

(4) 評論家の発言「身体にゴミを入れない、無理にでも入れるのがこの仕事だがな」「韓国はマスコミも同様ブロガーも問題だ。味もわからずグルメ気取り」「韓国にはまともな評論

家がわずかしかない。だから私が忙しい」「フォアグラが好きなら当然パリに行かなければ」云々。すべて日本版にない台詞である。

(5) 常連の反応、発言

「毒舌はテレビ用のキャラかと思ったが全然違ったな」「この店であんなろくでなしは初めて見たわ」「きのう女房を連れてきたかった。女房ならく黙って食べ！>と言うだろう」「そうと知ってたらとっちめてやった。口だけは誰にも負けない。同じ人間なのに、偉そうにしやがって」すべて日本版にない台詞。「一緒に本を作っているんですがほんとにそう言いたくなります。最高級とかなんとか言うんですよ。最高のものが何かも知らないくせに。だから連れてきたんです」日本版は「教えてあげたかったんだ、ほんとに旨いもんをさ」。

(6) 常連・キムと評論家とのやりとり：キム「評論家さん、ひとつ教えてくれ。旨いか？」バターライスなら家でも食えるだろ？」評論家「妻がフランス出身なので主食はパンです」日本版は「女房が帰国子女でね、うちではパンしか食わせてもらえないんだ」。

キム「それでフランスに詳しいのか。俺も女房が魚嫌いなので家では食えない。大きなコイを釣ってきてても無駄になるだけだ。俺と同じ境遇だな。俺の仲間だ」と笑うが評論家は無視する。

(7) 流しの老楽師・鳳凰（ボンファン）の口上「世界的ギタリストになり損ねたノ・ボンファンです。母が俺を産むとき鳳凰の夢を見たので<ボンファン>。でも今ではウズラにも劣っている。ノー・ノー・ノーボンファン」日本版では「流し流され40年。この界限では泣く子も黙るゴローが歌います」

(8) 評論家「流しの仕事で食べていけるのかな」

常連・キム「厳しいだろ。昼間は別の仕事をしてる」日本版はマスターが「どうかな」。

(9) 老楽師（ボンシク、芸名ボンファン）が流しからの引退を告げに久しぶりに店を訪れた際の、常連・キムの激しい喜び、抱擁。日本版にないシーンで、日本版では客は戸山とゴローだけで、他の常連は登場しない。

(10) キム「工場で仕事中にケガしたなら責任をとってもらわなければならない。それが労災も下りずにクビになるなんて」日本版にないシーン。

(11) ボンシク「天意なのだろう 別の人生を歩めと」日本版にない台詞。

(12) ボンシクが帰郷してからの同居生活。愛情に満ちた食卓のシーンが示される。日本版は二人で函館らしい坂を下る数秒のシーンのみ。戸山の姉は後ろ姿だけで顔は映されない。

(13) 評論家を常連ユミ「オ・ドックだって？何がレオナルド・オよ！」（笑い）。

(14) 常連ミス「一口しか食べないと言っていましたよね」ユミ「うん」。

(15) 常連・キム「旨そうに食べてるが、ここは評論家さんが選ぶ最高の店ってことか」評論家「そうじゃない。だが、このバターライスは認める」

常連・キム「それじゃあ、星は何個くらいだ」

評論家「ない。星はつけられない。思い出の味だから」日本版「この料理に星はつけられないよ」

常連・キム「お代わりまでして。好きだな」二人で共に笑う。日本版にないシーン。

(16) エンディングでは、マスターがお代わりのために受け取る皿の見せ方とマスター内心のつぶやきが異なる。

「しかし、こんな料理評論家って、ありかねえ」と、日本版ではマスターが食器に目を落として傍白を示す（食器の中は映されない）のに対して、韓国版では台詞は傍白ながら、「知ってるだろうか？空の食器が最高の食堂の証しだと」と、空の食器を映し出して見せる。

日本版で多く示唆的・暗示的であったこと、わずかなことばや映像で語られたことを、より明示的・具体的・徹底的に示して見せるのが、韓国版の際だった特徴である。さらに上記(6)の大きなコイ云々のシーンは常連コミュニティから評論家という異端者への呼びかけであり、いわば、手を差し伸べて仲間に引き入れようとしたが拒否されたと解釈できる。また(4)、(5)、(12)から(15)のシーンは日本版になく、韓国版で新たに付加されたシーンである。

評論家レオナルド・オの性格は、最初の来店の際の尊大さや哄笑によって表現されるが、最後に「お代わりまでして。好きだな」という常連の台詞とともに笑うシーンを示すことによって、冒頭で大きな懸隔のあった評論家と常連達の距離が縮まり、評論家がいわばコミュニティの一員となったことも示される。さらに評論家がバターライスを完食し、空の皿が示されるショット(28:39)において、初回来訪時の評論家「まずいものはひと口だけ」同行の編集者「ひと口以上食べたら最高の料理ってことですよ」(06:30~40)というやりとりが伏線であったことに気づかされる。この伏線はエンディングにおいて最終的に回収され、評論家はバターライスを嬉しげにお代わりするが、その皿の見せ方が日本版とは異なる。「しかし、こんな料理評論家って、ありかねえ」とマスターが皿の中に視線を落とす日本版(図1)に対し、「知ってるだろうか？空の食器が最高の食堂の証しだと」(図2)と、マスターの表情に続いて空の丼をクローズアップし、踏み込んだ、新たな解釈を創造したことが特筆される。



図1 日本版第5話 22:05



図2 韓国版第8話 28:39

おわりにーサードプレイスとしての深夜食堂

このように考えてくると、『深夜食堂』は、都市社会学で提唱された概念である「サード

プレイス」であることが理解される。このことは、宮野真生子（2022）によってまず指摘された²⁾。オルデンバーグ（邦訳2013）を引きつつ宮野が述べるところを整理すると、サードプレイスとは、「インフォーマルな公共生活の中核的環境」であり、「仕事と家庭の領域を超えた個々人の定期的で自発的でインフォーマルなお楽しみの集いのために場を提供するさまざまな公共の場所の総称」（邦訳2013、59頁）であって、そこでの重要な機能として「人を平等にする」こと（レベリング）がある。そこは敷居が低く、正式な会員資格や入場拒否の基準がなく、その中では地位や身分に関わらず当人の人柄の魅力や雰囲気こそがものをいうこと、外では自分の職位を振りかざして服従と注目を要求する人々も、地位が殆ど意味をなさない場所を楽しんでいる、とオルデンバーグは言う。マイク・モラスキーはこの議論を踏まえつつ、日本の赤提灯のカウンターに代表される個人経営の居酒屋がまさにそれに当たることを主張している。「取り立てて行く必要はないが常連客にとって非常に居心地がよいゆえに行きたくなるような場所」（電子版24頁）だ。

「バターライス」もまた、宮野の指摘するように、深夜食堂と呼ばれ習わされる、ささやかな、しかし常連客たちにとって重要な、居心地のよい空間＝サードプレイスを舞台とする。そこは普段の職業や身分を離れて、対等の立場で会話が交わされ、楽しめる場だ。そのことは小さなカウンター（全員が会話に参加でき、店主の眼も隅々まで行き届く）、誰もが知っている、ごくありふれたメニューを背景に支えられ、常連たちは職場や家族とは別の人間関係を形成、維持している。われわれが家庭や職場以外に必要とする、また求める場がこのような空間である。

酒は3杯まで、飲み屋ではないという限定も、ここは酔客が主人公ではなく、客同士の会話、人間関係が重要であることを示唆する。そして0時からの深夜営業というやや特異な営業時間は日常そのものではなく、しかも日常と連続した時間である。顔に傷があるが優しい眼をした店主という設定が、常連客たち、そして観る者にひそかな安心感を抱かせる。贅沢な料理を食べ、批評するのを業とする料理評論家という異分子の侵入は、互いに対等であるべきこのコミュニティに対する脅威だが、偶然が過去と現在を架橋し、バターライスという思い出の味を契機として、この異分子もコミュニティの一員となっていく過程が描き出される。同様の設定とストーリーでありながらも、日本版は表現において示唆的かつ暗示的であろうとし、観る者の想像力に訴える面白さを提供したが、韓国版はその示唆や暗示に明確な解釈を加え、さらに多くのシーンをつけ加えた。起こることを明示的・具体的・徹底的に示し、より劇的な要素を付け加え、ささやかな日常を支えるサードプレイスへの賛歌としての物語の輪郭を鮮明にして、興味深い再創造を示したのである。

なお、図1と図2は正規のDVDからの引用であり、その使用は執筆者本人の責任でおこなったものであることを申し添える。

注

- 1) 安部夜郎公式サイト <http://abeyaro.com/dora.html> (2023 年 10 月 14 日閲覧)
- 2) 宮野はこの外、以下のように重要な指摘をしている。このような場が「誰でも受け入れられる場であり、いつ行ってもいいし、いつ帰ってもいい、その自由さは家にも職場にもないもの」(2022、237 頁)であり、また、メニューがないことは、マスターとのやりとりを必ず必要とし、そのやりとりを通じてその人の食習慣、今日の過ごしかた、体調など、その人全体を示す契機となり、客はカウンターで自分をさらけ出さざるを得ず、そのときに「役割」を外した個になってしまうこと、その注文と食べ物は、狭いカウンターで周りの客にも共有され、この店では、すべての客が自分を示した状態でカウンターに座っているといえること(240-241 頁)。

参考文献

- 安部野郎(2008)「バターライス」『ビッグコミックオリジナル』7号、小学館、単行本『深夜食堂』第3巻(2009)小学館。
- 岩田和男・武田美保子・武田悠一 編(2017)『アダプテーションとは何か』世織書房。
- 小川公代・村田真一・吉村和明 編(2017)『文学とアダプテーション—ヨーロッパの文化的変容』春風社。
- 仲矢信介(2021)「映画化＜大佐の奥方＞再考」『CAP FERRAT』20-33頁、日本モーム協会。
- 野崎敏編(2013)『文学と映画のあいだ』東京大学出版会。
- 宮野真生子(2022)「カウンターというつながり—『深夜食堂』から考える」宮野真生子(2022)『言葉に出会う現在』ナカニシヤ出版 233-251 頁。
- レイ・オルデンバーグ(2013)『サードプレイス—コミュニティの核となる「とびきり居心地よい場所」』(忠平美幸訳、原著は1989年発行)みすず書房。
- リンダ・ハッチオン(2006、日本語版2012)片渕悦久・鴨川啓信・武田雅史訳『アダプテーションの理論』晃洋書房。
- マイク・モラスキー(2014)『日本の居酒屋文化—赤提灯の魅力を探る』光文社、24頁、kindle版。

映像資料

- 登坂琢磨監督(2009)「バターライス」『深夜食堂』第1部第5話 初回放映2009、TBS、現Netflix、DVD2010年、アミューズソフトエンタテインメント。
- ファン・インレ演出(2015)「バターライス」(『深夜食堂 from ソウル』8話、初回放映SBS、DVDカルチュア・パブリッシャーズ 販売元：アミューズソフト。
- ツァイ・ユエシュン、フー・ハンチン(2017)『深夜食堂』(中国版)、初回放映Beijing Hualu Baina Film & TV、DVDマグザム、アミューズソフト。

Comparison of Japanese and Korean remakes of the drama "Midnight Diner"

NAKAYA, Shinsuke

Abstract

This paper analyzes the Japanese dramatization of the manga "Midnight Diner" by Yoroh Abe and its remake into a Korean version, and point out the differences between the Japanese and Korean versions, inspired by the focus of recent adaptation studies,

The original manga has been serialized in magazines and published in books form since 2007 until 2023. In recent years, the manga has been released simultaneously in Japan, South Korea, and Taiwan, and has also been published in French and Spanish editions. Based on this work, the drama series "Midnight Diner" was first produced and broadcast in Japan, and a movie was also produced. These were popular mainly in Asia, and were remade in Korea and China to form a series.

From the three countries' productions, which consist of many episodes, this paper analyzes how the Japanese and Korean versions of the drama series "Butter Rice," an episode of the same name. In addition to the fact that the remakes have a similar setting and storyline but with localized details, we point out that the Japanese version has a suggestive and implicit orientation, while the Korean version tries to be explicit and concrete, resulting in an interesting re-creation.

Keywords : Korean version, third place, re-creation, implicit, explicit

毒ガス被害者の救済に関する一考察 —日本国内を中心に—

高 小超（明治学院大学大学院生）

要旨

第一次世界大戦でドイツ軍がイギリス・フランス軍に対して行った塩素ガス攻撃が、毒ガス兵器の初めての本格的な使用とされる。これを受けて、1925年のジュネーブ議定書で有毒ガスの使用が禁止されたものの、日本を含む各国は開発、保有に取り組むようになった。さらに、日本軍が先の大戦に組織的に毒ガス兵器を使用した。しかし、戦争末期に国際法違反や戦犯訴追を恐れ、日本軍関係者が密かに毒ガス弾を遺棄・廃棄した。また、連合軍に引き渡した毒ガス弾が海洋投棄された記録もあり、これらが原因で、戦後から今日にかけて日本国内に多数の被害者が出た。多くの研究者が様々な視点から毒ガス問題を検討したが、戦争末期に軍部が毒ガス関連文書を湮滅、戦後に関連資料を独占したことによって他分野の研究より毒ガス被害と被害者救済に関する研究が決して多くない。本稿は、毒ガスによる大久野島、神栖での被害に焦点を当て、日本国内における毒ガス被害者の救済可能性を考察する。

キーワード： 遺棄毒ガス兵器、被害者、救済、大久野島、神栖

はじめに

第二次世界大戦中、旧日本軍は大量の毒ガス兵器を生産した。戦争末期、陸軍本部は国際法違反を念頭に置き、日本軍と連合軍によって、これらの毒ガス兵器を遺棄・廃棄した。戦後、日本国内において、これらの廃棄された毒ガス兵器による被害が多発している。しかし、日本国内で毒ガス製造等の業務に直接従事した被害者のみ日本政府からの救済を受けている一方、毒ガス製造に従事した以外の被害者も多数存在している。日本政府が毒ガス被害者の実態を把握していない等を理由として、毒ガス被害者の救済に焦点を当てた研究も少ない。その関心を踏まえ、本稿は日本国内の毒ガス被害者の救済を考察することを目的として、まず先行研究を整理し、研究課題を提示する。その上、毒ガス兵器が廃棄された背景を明らかにし、大久野島と神栖での毒ガス被害のメカニズムを解明する。最後に、日本政府の毒ガス兵器に関する調査の不足を指摘しつつ、被爆者の救済を手がかりに、国外の毒ガス被害者と連携して日本国内の毒ガス被害者の救済可能性を考察する。

1. 先行研究

日本近現代史を専門とする吉見は、戦後に発見された旧日本軍の資料を中心に、旧日本軍が中国で行った毒ガス戦を分析した（吉見, 2004）。その中、アメリカ主導の東京裁判において旧日本軍の毒ガス戦が免責された背景を明らかにした。特に、日本国内の毒ガス弾は陸海軍の秘密裏の廃棄、投棄以外に、連合国軍による廃棄、投棄も多数存在することを指摘した。その原因で多くの事故が敗戦直後から現在まで発生することとなった。最後に、過去の毒ガス戦に関わる資料の全面的公開と真相究明、日本政府がその事実と関連責任の承認、被害者への個人賠償を実施しない限り、日本は毒ガス兵器を完全に廃絶できないと吉見は主張した。毒ガス戦の全貌を明らかにした初めての画期的な研究成果だと評価できる。

歴史研究者の松野は、千葉県文書館で発見した「銚子沖イペリット等緊急掃海」の文書を参考に、銚子沖における掃海事業の真相を分析した（松野, 2016）。1958年に銚子沖で毒ガス弾被害事故が起きた後、関係省庁の呼びかけで現地の漁民が1970年に2回の掃海事業を行った。戦時中に毒ガス兵器を製造した国の責任と、被害事故発生前にリスクがあることが判明された海域での操業に対する注意喚起や被害を未然に防止するための措置が問題にされていないと、松野は分析した。その上、銚子沖の毒ガス弾被害事故に対する責任の所在は明確にされることはなく、また被害者に対する補償も行われなかったことを指摘した。最後に、戦時中に製造された毒ガス兵器の威力を無視できず、日本軍による毒ガス兵器の歴史的経緯を解明する必要があると結論づけた。

上記のように、化学戦と毒ガス兵器については既に多数の総説や著書が存在し、毒ガス被害に関する先行研究は少なくない。一方、長い間、日本政府が自らの責任を回避するために毒ガス被害を正確に把握するための調査や研究を実施してこなかったこと、かつ、軍部によって独占されていた情報が隠され続けてきた¹⁾ことで、毒ガス被害に関する先行研究の多くは大久野島のみを中心に考察していた。なにより、環境省を中心に廃棄された毒ガス弾とその被害を把握するための「旧軍毒ガス弾等の全国調査のフォローアップ調査」（以下、「フォローアップ調査」とする）が行われた、にもかかわらず、毒ガス被害の原因が調査によって解明されなかったばかりか、毒ガス問題に関して旧軍関係の資料が一つも示されなかった。その結果、毒ガス問題の抜本的な解決に向けた全容の解明にはいまだほど遠い状況にあると言わねばならない²⁾。

そのゆえ、本稿は先行研究と松野の結論を踏まえ、日本軍による毒ガス兵器の廃棄背景を整理した上で、毒ガスによる被害の症状を明らかにし、毒ガスによる大久野島、神栖の毒ガス被害に焦点を当て、日本国内の毒ガス被害者の救済可能性を考察する。

2. 毒ガスの廃棄と被害の症状

2.1 毒ガスの廃棄背景

本節は旧日本軍が毒ガス兵器を廃棄した歴史的背景を解明する。旧日本軍は第一次世界大戦に実戦使用された毒ガス兵器の威力を目の当たりにし、戦後にその開発を加速した。霧社事件³⁾での毒ガス使用をはじめ、旧日本軍は中国での戦争が泥沼化し、安価で作れる、効果が高い毒ガス兵器を中国戦場で大規模に使用するようになった。しかし、第一次世界大戦前の国際法、つまり 1899 年に締結された「毒ガスの禁止に関するハーグ宣言」と、1900 年に締結され、1907 年に改正された「陸戦の法規慣例に関する条約」には有毒性ガスを投射物につめて使用することが禁止されていた。後に、1919 年に締結されたベルサイユ平和条約も有毒ガスの戦争での使用を禁止していた。この三つの条約、いずれも日本は加入していた。そのため、これらの毒ガス兵器は第 2 次世界大戦末期と戦争直後に、国際法違反と戦犯訴追を恐れて、日本軍によって連合国軍が到着する前に地下壕に埋設、海中に投棄された⁴⁾。また、廃棄できない毒ガス兵器が連合国軍に引き渡されてから海洋に投棄され、あるいは地下壕に埋設されて処理されたケースもあった。

2.2 毒ガスによる被害の症状

今までに、毒ガス兵器として試された化学剤は数千種ともいわれているが、第一次大戦以降の近代戦争において、実際に毒ガス兵器として作られ、使用されたものは限られている。窒息剤、血液剤、びらん剤、神経剤の四種類からなる毒ガス兵器が多いである。この四種類のものは、人の殺傷を目的にしている化学剤である。

毒ガス剤の毒性は以下のように報告されている。窒息剤は呼吸器系に作用して喉や気管支を刺激し、肺に障害を起こして死に至らしめる。血液剤は、青酸ガスが代表的な化合物で、体内に吸収された後、血液成分、全身の組織に作用して呼吸器障害を起こし、昏睡を伴い死に至らしめる。びらん剤の代表は、硫黄マスタードとルイサイトである。マスタードやルイサイトは蒸発速度が遅く、細かい霧状または水滴状で用いられることが多い。マスタードは皮膚に付着すると数時間後に赤い斑点を生じ、痛みを伴うびらん症状を呈する。目や呼吸器の粘膜を冒し水泡、潰瘍を生じる。ルイサイトはマスタードより効果が現れるのが早く、皮膚に付着したり、目に入ると耐えがたい痛みが生じる。これらの物質は皮膚、目、呼吸器から吸収され、神経伝達系に作用する酵素コリンエステラーゼの作用を阻害し神経麻痺から死に至らしめる⁵⁾。

3. 日本国内における毒ガス弾による被害のメカニズム

本章では日本国内における大久野島と神栖の毒ガス被害のメカニズムを考察する。

日本国内では、1945 年から 1946 年にかけて、日本軍や連合国軍による毒ガス弾の廃棄が行われた。しかし、早くも 1947 年から日本各地で廃棄された毒ガス弾による被害事故が

起き始めた。その中、戦後に大久野島の毒ガス工場に毒ガス製造の従事者が後遺症を発症し、1950年代に入り、被害者の間で政府に救済を求める動きが出た。被害者グループは当時の社会党参院議員の山田節男を通じて、毒ガス被害者の救済のための特別立法制定を政府に働きかけ、法制関係の政府職員を現地に呼ぶなど、作業は着々と進んだ。ところが、法律案を国会に提出する段階に、外務省から「実戦使用が国際法違反である毒ガスの製造を認め、国会で審議し法律制定することは困難だ」⁶⁾と横やりが入った。結局、この横やりにより毒ガス被害者救済のための立法化は断念された。その代わりに、毒ガス被害者の救済のための「ガス障害者救済のための特別措置要綱」が1954年2月に大蔵省によって施行された。現在毒ガス業務従事者に健康管理手帳が交付され、ガス障害に罹患した人にも医療手帳が交付され、ガス障害者の病状が給付手当の認定基準に該当する人に毒ガス障害者手当が支給されることになっている。しかし、この制度は全ての毒ガス被害者を対象とするわけではない。被害者が当制度により救済を受けるためには、まず自己立証の方式で申し込む必要がある。救済制度の審査に通らない被害者は「認定患者」と認められず、救済を受けられない。加えて、終戦後、連合国軍の指示のもとで毒ガスを処理した人たちは、糜爛性ガスのイペリットなどで傷つき、死傷者も多数出ていた。彼らの救済もこの制度に見捨てられたのである。

近年、日本国内で旧日本軍毒ガス弾の発見・被災事件が相次いで発生し、新たな毒ガス被害問題が浮上している。特に2000年代の初期にこの問題が顕在化されてきた。2003年3月、茨城県神栖町で旧日本軍の毒ガス由来の有機ヒ素に汚染された地下水の飲用で周辺住民の多数が有機ヒ素中毒の症状を訴えていた。数世帯で同様の症状が出ているなど集中して発生していることを不審に思った筑波大学の医師から地元保健所に井戸水の水質検査の依頼を受け、飲用井戸を検査したところ、環境基準の450倍という極めて高濃度のヒ素が検出された。このヒ素化合物は、通常自然界には存在しない、旧軍の化学兵器に使用された物質の分解産物でもある有機ヒ素化合物（ジフェニルアルシン酸）である⁷⁾ことが判明した。神栖事件の被害者は、転倒しやすい、手のふるえ等の小脳症状に関連する自覚症状、手足のしびれ、複視、その他の神経症状、物忘れ等の精神症状、頭痛、体重変化等の全身症状が観察される。また、悪心、下痢等の消化器症状、動悸、せき等の循環器・呼吸器症状、発疹、爪の異常等の皮膚症状、月経不順といった複合的な健康被害に被った⁸⁾。この事件を受け、神栖市の住民39人が旧日本軍の毒ガス兵器の原料とみられる有機ヒ素化合物に汚染された井戸水を飲んで健康被害が出たとして、国と茨城県に対して損害賠償を命じるよう求めていた。被害者は提訴したあと、公害等調整委員会（以下「公調委」とする）に「県が1999年以降、飲用すれば健康影響が懸念される高濃度の地下水汚染を確認しながら住民に周知せず、十分な原因調査もしなかったのは著しく合理性を欠き違法だ」⁹⁾と裁定した。そして、公調委は、対策を怠った県と自治体の責任を認め、井戸水が有機ヒ素化合物に汚染され健康被害を受けた37人に1人当たり5万～300万円、計2,826万円を支払

うよう命じる裁定をし、被害者は国への請求を棄却した¹⁰⁾。このように、2012年6月20日に神栖における毒ガス由来のヒ素問題について、茨城県と被害住民の間に和解が成立した。

4. 日本国内の毒ガス被害者の救済可能性

戦争が終わって78年が経過した今日、日本国内におけるこれらの廃棄毒ガス兵器により、戦争と無関係に平和な日常生活の中で生活している一般市民が受けた被害が多数あり、現在でも毒ガス事故は発生しており、将来も発生の可能性が十分ある。本章では政府に見捨てられたこれらの被害者の救済可能性を考察したい。

4.1 実らないフォローアップ調査

1973年、毒ガスによる被害が広がる中、佐藤栄作前総理の指示に基づき、関係省庁及び都道府県等に対して調査協力を依頼した。その後、市町村の協力を得て「旧軍毒ガス弾等の全国調査」（以下、「全国調査」とする）を行った。全国調査の目的は終戦時における旧軍毒ガス弾等の保有および廃棄の状況、また戦後における旧軍の毒ガス弾等の発見、被災および掃海等の処理状況を把握することであった。2003年、神栖問題を直接のきっかけとして、環境庁が主体となり、関係省庁による「旧軍毒ガス弾等の全国調査」の現存する結果や関連資料を活用して、旧軍毒ガス弾等による被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的として再び「フォローアップ調査」を実施した。

フォローアップ調査については、毒ガス関係資料が非公開、戦争経験者の多数が故人となった等、情報が非常に限られている中、毒ガス弾の保有、廃棄、発見、被災等の状況についての多数の情報が収集された。しかし、防衛庁や厚生労働省の資料提供が極めて不十分で、その結果として、毒ガス被害問題の抜本的な解決に向けた全容を解明することができず、被害が発生した神栖事件の原因すら究明できなかった。2回の調査とも被害者救済については無対策のままで終了した。そのため、全国調査とフォローアップ調査が実らない調査と言っても過言ではないであろう。その原因を探ると、政府が責任をもってこの問題に対処していないことにある。そのため、防衛庁が所蔵する旧軍や自衛隊関係の資料を積極的に開示したり、厚生労働省が保有する旧軍人関係の資料などを使って聞き取り調査することなどが、全く怠られている¹¹⁾。また、今後毒ガス弾の腐食等によって被害が深刻化することを考えると、根本的な廃棄毒ガスの全容解明が早急に必要、被害者救済対策が構築される必要があるといえよう。

4.2 被爆者の救済を手がかりに

日本は国際法から毒ガス問題について免責されたものの、国内でも関連書類の湮滅で一時期毒ガス問題が抹消された。しかし、毒ガス被害が頻発する中に、関係省庁が「全国調

査」を行ったのに、被害者の救済が見捨てられた。本節では、被爆者の救済における原爆二法（原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」と「原子爆弾被爆者に対する特別措置に関する法律」）の性格から日本国内の毒ガス被害者の救済について考察する。

終戦直後は、原子爆弾が投下された際、又はその後において、身体に原子爆弾の放射能の影響を受けた被爆者の多くが、原爆の後遺症に苦しみながら、十分な公的援助を受けられず、経済的にも苦境にあった。1957年、日本政府は「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」を制定し、被爆者は国の費用で医療が受けられるようになった。また、被爆者の福祉を図るため、1968年に「原子爆弾被爆者に対する特別措置に関する法律」が制定され、被爆者への健康管理手当の支給等が開始された。さらに、海外に居住する被爆者が自らの救済を求めるために裁判を提訴した。1978年3月30日の最高裁裁判所の判決は、現行原爆医療法はいわゆる社会保障法として他の公的医療給付立法と同様の性格をもつものであるが、国家補償的配慮が制度の根底にある¹²⁾ことを指摘している。そこから、被爆者援護法の性格が確認された。

さて、毒ガス被害者の救済論理はどこにあるか。毒ガス被害者の治療を支えてきた広島大学医学部第二内科の山木戸教授は長年の研究調査の結果として、「原爆による放射線は物理的な、毒ガスによる被害は化学的な染色体毒である」と指摘する。一度損傷した染色体は二度と戻らない。被爆者、毒ガスの被害者が共通して苦しむ中で、最も恐ろしい後遺症であるガンへの恐れは染色体を出発点にしていることが、原爆と毒ガス被害者の治療で明らかになっている。また、後遺症の点からいえば、核兵器も毒ガス兵器もともに極めて毒性の強い発がん兵器であることが広島で実証されている¹³⁾。更に、同研究所の鎌田七男教授の研究結果も、被毒者と被爆者は同様の被害アプローチで進め、両者の染色体異常を通じ発がんの「因果関係は間違いない」¹⁴⁾と指摘している。国内の毒ガス被害者については、国家補償的な考え方の論理の延長線からこの被爆者援護法と同等の援護措置が行われ、毒ガス被害者についても救済の手が差し伸べられるべきではないかと考える。

4.3 国外の毒ガス被害者との連携

1980年に始まったイラン・イラク戦争において、イラクはびらん性の毒ガスを使用し、イラン側に多くの犠牲者が出た。中国でも、旧日本軍が遺棄された毒ガス兵器により、多くの被害者が出ている。旧日本軍の遺棄毒ガス兵器によって戦後に中国で直接被害を受けた人は2000以上となる¹⁵⁾。

日本政府は1997年に発効した化学兵器禁止条約に基づき、中国国内における遺棄毒ガス兵器の処理を開始した。しかし、日本政府が実施している中国遺棄毒ガス兵器処理事業も、被害者の救済を対象外としている。身体的と精神的に苦しんでいる被害者は旧日本軍が生産し、遺棄した毒ガス兵器による被害を受けたため、日本政府から救済を受けようとして日本政府を相手に訴訟を提訴した。1996年に黒竜江省のジャムス市松花江での浚渫工事中

の紅旗 09 号事件の被害者と 1997 年に黒竜江師範専科大学、拝泉県龍泉鎮、黒竜江省牡丹江市の光華街事件の被害者 13 名が日本政府を相手に訴訟を提起した。2007 年 7 月 18 日、東京高裁に判決を言い渡され、結果として敗訴となったが、判決文に「全体的かつ公平な被害救済措置が策定されることが望まれるものというべきである¹⁶⁾」の付言があった。東京高裁の判決文の付言を受け、衆議院議員阿部知子が 2008 年 2 月 22 日に、毒ガスの被害者に対して何らかの救済措置を講ずるか否かに関して、衆議院に対して質問主意書を提出した。当時の衆議院議長であった河野洋平は 1973 年の「日中共同声明」をもち、先の大戦に係る日中間の請求権の問題が存在していない、毒ガス被害者に関係する救済措置を行うことも考えていない¹⁷⁾と答弁した。

現在、日本国内において、旧陸軍造兵廠忠海製造所、旧陸軍広島兵器補給廠忠海分廠、旧陸軍造兵廠曾根製造所及び旧相模海軍工廠の従業員のうち旧陸軍共済組合又は旧海軍共済組合の組合員で、ガス製造等の業務に直接従事していた人のみ「ガス障害者救済のための特別措置要綱」における医療等の救済を申請できる。上記以外の日中両国の毒ガス被害者がともに救済を受けないまま生活をしている。日中両国の毒ガス被害者、ひいては、全世界の毒ガス被害者が連携し、互いに情報交換を行い、毒ガスによる被害の実態を全世界に広く知らせるため、被害者自らの発信が重要である。その上、両国政府に被害者支援のために政策提言を行い、毒ガス被害者救済を達成するために、国境を越える毒ガス被害者の連携が重要である。

おわりに

戦後、日常生活の中で、旧日本軍に遺棄・廃棄された毒ガスの被害を受け、苦しい思いをした人たちが多数存在する。毒ガスを生産した日本が被害者の救済に責任を負うのが当然の道理である。しかし、なぜ未だに毒ガス被害者問題が放置されているのか。旧軍の元関係者が毒ガスを遺棄・投棄について沈黙し続けてきた背景には、日本軍が国際法で禁止されていた毒ガスを使用したという事実と、それが極東国際軍事裁判で免責されたという歴史的経緯があり、それゆえに毒ガスに関わる問題を忌避するという意識が存在していたように思われる¹⁸⁾。人類は二度と核兵器と化学兵器の被害を繰り返さないことを決意するとともに、この決意を絶えずに世界に訴えることが大事である。毒ガスによる被害者の救済が実現しなかった最大の要因はその制度と法的根拠が存在しなかったことにあると思われる¹⁹⁾。日本政府が日本国内の毒ガス被害者を被爆者と念願する国家補償の精神に基づいた援護法を早期制定し、将来的には、国内法にとどまらず、国際的な毒ガス被害者の救済制度に発展することが望まれ、被害事件に関する救済制度や法律の整備を進めることが不可欠であろう。

注

- 1) 永野いつ香、林公則（2010）「チチハル遺棄毒ガス事件はなぜ認知されにくいのか—意識的に取り組む必要性」『法と民主主義』第 447 号、56-58 頁。
- 2) 上杉總（2004）「遺棄毒ガスによる国内被害と神栖問題」『戦争責任研究』第 44 号、2-9 頁。
- 3) 霧社事件とは、1930 年 10 月 27 日に台湾の先住民族セデック族が起こした反日事件であり、日本陸軍は事件鎮圧の過程で初に毒ガスを使用したとされている。
- 4) 松野誠也（2005）『日本軍の毒ガス兵器』凱風社。
- 5) 日本学術会議（2001）「荒廃した生活環境の先端技術による回復研究連絡委員会報告 遺棄化学兵器の安全な廃棄技術に向けて」。
- 6) 辰巳知司（1993）『隠されてきた「ヒロシマ」—毒ガス島からの告発』、30 頁。
- 7) 環境省（2013）「茨城県神栖市における汚染メカニズム解明のための調査 高濃度汚染対策等報告書」。
- 8) 公調委平成 18 年（セ）第 2 号「神栖市におけるヒ素による健康被害等責任裁定申請事件」。
- 9) 公調委平成 20 年（セ）第 4 号「神栖市におけるヒ素による健康被害等責任裁定参加申立事件」。
- 10) 日本経済新聞、2012 年 5 月 11 日。
- 11) 環境省「1973 年旧軍毒ガス弾等の全国調査について」、1 頁。
- 12) 田村和之（2016）『在外被爆者裁判』信山社。
- 13) 辰巳知司（1993）前掲書、121 頁。
- 14) 同上。
- 15) 東京高判 2012 年 4 月 16 日（2008 年（ワ）第 975 号、D1-Low.com 文献番号 28214003）。
- 16) 東京高判 2007 年 7 月 18 日（2003 年（ネ）第 5804 号、D1-Low.com 文献番号 28140057）。
- 17) 衆議院 2008 年 3 月 4 日「衆議院議員阿部知子君提出中国遺棄化学兵器処理事業に関する質問に対する答弁書」。
- 18) 松野誠也（2003）「日本国内の日本軍毒ガス兵器問題を考える」『世界』第 717 号、280-287 頁。
- 19) 松野誠也（2016）「海洋投棄された日本軍化学兵器による被災事故と掃海事業」『日本の科学者』第 51 巻、46-52 頁。

A study on relief for poison gas victims: Focusing on Japan

Gao, Xiaochao

Abstract

The chlorine gas attack carried out by the German army against the British and French forces in World War I is said to be the first full-scale use of poison gas weapons. In response, the Geneva Protocol of 1925 prohibited the use of toxic gases, but countries including Japan began to develop and possess them. In addition, the Japan military systematically used poison gas weapons in the last World War. However, at the end of the war, fearing violations of international law and prosecution of war criminals, Japan military personnel secretly abandoned and disposed of poison gas shells. There are also records of poison gas shells handed over to the Allied forces dumped into the ocean, and these caused many victims in Japan from the end of the war to the present day. Many researchers have examined the poison gas problem from various perspectives, but there are not many studies on poison gas damage and victim relief compared to research in other fields because the military destroyed documents related to poison gas at the end of the war and monopolized related materials after the war. This paper focuses on the damage caused by poison gas on Okunoshima and Kamisu and examines the possibility of relief for poison gas victims in Japan.

Keywords : Abandoned poison gas weapons, victims, relief, Okunoshima, Kamisu

清末民国期における河南留学生研究

金 珽実（商丘師範学院）

要旨

日本と中国とは海を隔てているが、政治的にも経済的にも切り離せない隣国であり、歴史的に大きな関わり合いがあった。日中関係史のなかで留学生交流分野は異文化交流、または国際交流の一部として早い時期から検討がなされてきた。本研究では、先行研究を踏まえて日本留学、河南籍留学生、帰国後の活躍などを網羅的に追究したものである。河南省は中原地域に位置し、封建制度下で自然災害が頻発し、経済発展も遅れているため、留学規模も他の省には及ばなかった。しかし、清朝末期から日本など諸外国へ次々と留学生を送り出し、一定規模の留学生グループを形成してきた。留学生は、初期には軍事、法政、教員養成を中心に学習し、後期には文科系に限らず、専攻も多様化していった。彼らは帰国後河南省の高等教育の発展を推進すると同時に、学校を設立し、教員養成課程を設置し、地方教育の発展に貢献した。政治分野では、彼らは積極的に同盟会に参加し、孫文の指揮の下で革命活動を行い、思想解放と政治革新に貢献した。また、工業の発展に尽力した留学生もあり、河南省の経済発展に貢献した。所謂、留学生達は、近代の社会とともに成長し、学んだ先進的な科学と文化知識を生かして社会に貢献し、時代の変化に合わせて様々な面で社会の進歩発展を推し進めたのである。

キーワード： 日本留学、河南籍留学生、留学生の人数、帰国後の活躍

はじめに

日本と中国とは海を隔てているが、政治的にも経済的にも切り離せない隣国であり、歴史的に大きな関わり合いがあった。日中関係史のなかで留学生交流分野は異文化交流、または国際交流の一部として早い時期から検討がなされてきた。先駆的な研究としては実藤恵秀著『中国人日本留学生史』を取り上げられる。また、大里浩秋・孫安石編『中国人日本留学史研究の現段階』は中国人留学史研究の動向をまとめたものである。一方、徐志民著『近代日本の中国留日学生政策史』は、日本が中国人留学生を受け入れるためにどのような政策を行ったかをマクロ的国際情勢と日中関係の中で、ミクロ的分析を行ったものである。近年の中国人留学史研究はその分析の範囲をより広げ、各分野に在籍した留学生を

取り上げてきたが、河南出身の留学生研究については未だに不十分なところが多くある。そこで本稿では、先行研究を踏まえつつ、河南籍に重点を置き、日本留学、河南籍留学生、帰国後の活躍を追究しようとするものである。中国全土の日本留学生研究を課題としており、先ず筆者の所在地である河南を焦点にして、点から面へ広げていきたい。

1. 日本留学

19 世紀末から 20 世紀初頭に至る一時期、他国の目には羨ましいほどの教育文化面での中日密月の時代があった。中国人による本格的且つ組織的な日本学習は日清戦争以降に始まったものである。日清戦争の結果、老大国たる清帝国は新興の日本という「東夷の小国」に打ち破れ、挙国上下驚愕し、以後「強敵を以て師と為す」という発想の元に、日本から欧米の科学的知識を輸入する手段として日本語を学ぶようになったのである。それまで日本の留学生や留学僧が中国にわたり、中国の文化や政治制度を学び、中国からも日本にやってくる交流使節があったが、それは日本を夷華の上下関係に位置付け、「中華帝国」の恩恵や威力を示すためのものであった。1896 年中国は日本に向けて第一陣の留学生十三名を送った。そしてこれ以後、日本に留学するものが絶えず続き、しかも年々増加した。20 世紀初頭には年に 1 万人を超える中国人留学生が来日し、「日本留学極盛時代」を現出した。初期の日本留学者は殆ど各省派遣の官費留学生で、彼等は何れも帰国後は勿論、在日期间中からはなばなしい活動を行い、中国社会文化の発展に貢献した。

なぜ日本を留学先にしたのか。その理由についてまず考えられるのが『勸学篇』である。清末の教育改革者張之洞（1837-1909）が『勸学篇』を世に送った。彼は「中学を体となし、西学を用となす」という、いわゆる「中体西用」論の立場に立って、西学に対して一定の理解を示した。この日本留学の宣言書と言われた『勸学篇』の中で、張之洞は学堂の組織的導入による近代教育の普及や外国書籍の翻訳を盛んに行うよう提唱していた。そして結論的に日本への留学生派遣を勧めたのである。「洋行の一年は読書五年にまさり、海外学堂の一年は国内学堂での勉学の三年にまさる…遊学の国に至っては、西洋は東洋に如かず…」。張之洞が日本留学を推奨する理由を要約すると、大体次のようである。まず、日本と中国とは距離が近く、交通費がかからないので、多くの人を派遣できる。次に、風俗習慣も似ており、文化的にも近いので、考察が容易である。また、日本語は中国語に近いので、覚えやすい。そして日本はすでに西洋の重要な学問をあらまし消化しているため、中国が西洋を学ぶ場合、さしあたり日本のこなしている西洋文化を習えば、直接西洋に学ぶよりも半分の時間で倍以上の効果を上げることができる¹⁾。魯迅は留学生生活について次のように回想している。「およそ留学生たちが日本に着いて、真先にたずねもとめたものは新しい知識であった。日本語を学習し、専門学校への入学を準備するほかに、会館に赴き、本屋を漁り、集会に出たり、講演を聴くのに忙しかった。」²⁾ここにいう新しい知識とは西洋の近代を切り拓いた自由・平等・民主の思想であり、留学生達はそれを積極的に、かつ主体的

に学びとろうとした。

中国人にとって日本留学は良いことばかりではなかった。多くの中国人留学生は日本に来たばかりの頃は日本の食習慣や居住環境に慣れることができず、郁達夫は後に日本留学時を振り返り、「日本的文化生活」に「部屋は狭く、寝る時は畳に布団を敷いて寝なければならず、お膳に並べられたおかずは焼き魚でなければ木片のようなごぼうである」³⁾と書いており、郭沫若は宋白華に宛てた手紙の中で「私たちが日本留学中に学んでいるのは西洋の本で、受けているのは東洋のいじめです。」⁴⁾と書いている。また、郁達夫は「雪夜—日本国情記述自伝之一章」の中で「私は日本で中国の世界競争の中の地位を知った。」⁵⁾と書いており、陳独秀も『愛国心与自覚心』の中で、「愛国心が立国の要素であるとは、ヨーロッパ人が常に語ることであり、日本から中国に伝わってきたものである」⁶⁾と書いている。内山完造は大連発行の邦字雑誌『新天地』(1938年9月号)の座談会の中で、「日本に沢山留学するけれども帰ると排日の急先鋒になるという傾向がある」のはどうしてなのかと尋ねられ、「支那人が日本に留学するまえ迄は国家のために命を捨てるのが最高の道德だとは知らなかった」⁷⁾と答えたとしている。かつて孫文の辛亥革命を支持し、自らも参加した宮崎滔天は「支那留学生に就て」で「我が日本の当局者、政治家、教員、商人、下宿主人、下女、掏兎、窃盗、淫売婦諸君よ、諸君が日夕豚尾漢として軽侮し、嘲笑し、搾取し、貪絞し、誘惑する支那留学生は、将に來らんとする新支那国の建設者也。…彼らを侮辱するは彼らの侮辱を買う所以也。而して侮辱の交換は鬭争に終わるを知らずや」と警告したほどである⁸⁾。

このように、近代化の中で中国は日本に留学生を派遣し、留学生達は積極的に・主体的に新しい知識を学んだ。しかし、中国の留学生に生活の困難以外にも明治以降の「近代」日本が指向した「脱亜入欧」の風潮による日本人の中国人に対する差別や侮辱によって負の影響をもたらした。よって、中国人留学生にとって日本に滞在することは、西洋とアジアの双方のまなざしを意識すると同時に、祖国へのまなざしをより強く意識させる契機でもあった。何しろ、西洋こそが近代化のモデルであるという見方は日本でも中国でも共通しており、日本を経由して西洋に学ぼうとしたのは確かである。

2. 河南籍留学生

河南省は最初青年の留学を勧めなかった。その理由として「中国は留学生が一人多くなれば革命党も一人多くなるから、留学生を外国に送ることはない」⁹⁾と言うように、青年の革命思想の影響を受けることによって地方乃至清朝の統治を脅かすことを恐れたこと、河南は中原地域で内陸に位置し、外国資本主義の影響が小さく、情報に疎く、気風がよくないことである。しかし、1903年以降河南省も留学生を派遣し始めた。1904年「日本に留学しているものは全省ただ十九人で、大半は他省から派遣し、私費生も朝の星のように少ない」、1905年日本に留学している官私費生は二十名にも及ばず他省に比べれば差が大き

い。1906 年「河南武備学堂の廃止に伴い、その中から 50 名を選んで日本に赴き、振武、成城の二つの学校に入って軍事を学び…」、1907 年公費生 60 人、1908 年 92 人である。1906 年の調査によると、河南省官費留学生の中で、普通科 50 人、速成師範科 18 人、警察科 7 人、農科 1 人であった。殊に、1905 年に河南の進歩的な教育家である李時燦が河南学務公所の議長になり、特に日本留学を積極的に勧めていた。先述の河南武備学堂の学生 50 名が東京に着いたところで、孫文が面会した。この後、中国同盟会の河南出身の曾紹文の紹介で 3 名の留学生が同盟会組織に入り、河南分会を設立した。1907 年に『河南』（月刊、東京に於いて第 9 号まで出版された）という雑誌を刊行し、開封で「大河書社」を設立し、書籍と雑誌の発行を担当した。

留学生の人数を時間軸で表記すると以下ようになる。

1890 年、济源から 2 人（李庸巷、李全中）の学生が公費で日本に留学。

1895 年、光山から裴其勲が日本（陸軍士官学校卒業）に留学。

1896 年、修武から 2 人（王印川、一人不明）の学生が日本の中央大学に留学。

1904 年初めの調査では、日本への中国人留学生のうち河南省からの留学生は 7 人になっていた。その後も同省からの日本留学生は増え続ける。

1905 年 6 月 5 日、同省教育部が「官民の負担による日本留学生は 20 人足らずで、他省に比べはるかに悪い」と記すと、同年、同省から 120 人の留学生が日本へ留学した。

1906 年、開封武備学堂が廃止され、その中から 50 人を選抜して、振武、成城の 2 校に軍事留学のため日本へ渡航させた。

1906 年度河南省の留学生総数は 96 名で、そのうち、官費生が 76 名で、私費生が 20 人である。

1907 年、官費留学生 60 名を選抜し、9 月に日本へ出発した。また、1907 年秋、清政府は河南籍の進士 7 名を日本に派遣し、法政速成科、補修科を学ばせた。

1908 年、省は 92 名の公費留学生を選抜、派遣し、うち 72 名は学務局が、20 名は課吏館が選抜した。その中、宏文学院 58 名、警監学校 9 名、早稲田 8 名、警視庁 6 名、東海学院 5 名、経緯学校 2 名、成城学校 2 名、帝国大学農科 1 名、東斌学堂 1 名、航海学校 1 名である¹⁰⁾。

1909 年、国費留学生が 51 名いた。1910 年には 47 名に減少した。

1909 年以降、庚子賠款でアメリカ留学を進め、日本への留学の資格を制限したため、日本への留学生人数が減った。

1908 年から 1911 年まで私費留学生はわずか 7 名であった。

1912 年河南の官費留学生人数率は毎回 14 人で、1917 年度から 9 名に減少し、これは全国の国費留学生総数の 1.31%であった。

1916 年、官費私費合わせて日本留学生数は 47 名であった。

これら留学生が学習した内容は清末新政期の改革と密接な関係があり、社会現実の需要と留学生の先進的な知識を以て国を救おうとする強い気持ちの表れである。以上のように、1890年代、河南省出身の留学生は主に日本に留学したが、その数は非常に少なかった。日清戦争が敗戦し、日本留学が国策として確立された後、日本に留学する学生数は増加の一途をたどったが、1909年から1911年にかけて、国費留学生が減少した。

3. 帰国後の活躍

留学生達は帰国後社会の近代化に大きな力を発揮した。河南省の高等教育の発展を推進すると同時に、学校を設立し、教員養成課程を設置し、地方教育の発展に貢献した。政治分野では、彼らは積極的に同盟会に参加し、孫文の指揮の下で革命活動を行い、思想解放と政治革新に貢献した。また、工業の発展に尽力した留学生もあり、河南省の経済発展に貢献した。

3.1 革命に関わった人

- ①張鍾端（1879-1911）は、許州（現在は許昌）人で、1905年に日本に留学し、最初は宏文書院、その後、中央大学で法政を専攻し、後に中国同盟会に加入した。1907年、日本にいた河南省出身とともに『河南』を創刊し、総責任者として革命を主張した。1911年、武昌蜂起が勃発し、孫文の指示によって開封に戻り、河南省の軍事政府の総司令官と参謀長に選出され、河南独立を企画したが、失敗で捕まれてしまい、1911年に犠牲された。
- ②王庚先（1867-1934）は、1905年に日本に留学し、まず宏文学院師範科に入学し、その後、高等警視總監学校に入学し、中国同盟会に加入した。武昌蜂起後、辛亥革命に呼応して開封、杞県などで張鍾端と連絡したが、不幸にも情報が漏れて、脱走して武昌に行き、黎元洪に会い、北伐遠征軍に任命された。中華民国成立後、臨時地方會議員に選出された。第二革命期には、袁世凱との闘争に参加した。袁世凱の死後、彼は再び開封に戻って産業救済に尽力し、紡績工場、省第四工場を相次いで設立した。1925年に河南省政府から宜陽県長に任命され、1929年に開封に国産品市場を設立して外国産の品をボイコットした。1934年2月9日に同郷の実力派に残酷に殺害された。新中国成立後、登県人民政府は王庚先を革命烈士と認め、1981年、中共登県委員会、登県人民政府、中国人民政治協商會議によって霊園を建設し、墓を改修し、記念碑を建てた。

3.2 政治に関わった人

- ①王印川（1878-1939）は、修武出身で、1896年に中央大学、1905年に早稲田大学に留学した。1911年に帰国し、1912年に国会議員に当選され、修武炭鋳豫泰公司総経理になった。1918年に衆議院秘書長兼総統府顧問、1920年に河南省長に選ばれた。1924年に段祺瑞政権の善後委員会委員、1926年「暴風」雑誌を経営した。1934年安徽省政府秘書長

を経て1937年に退任し、1939年に病気で亡くなった。

- ②劉積学（1880-1960）は、新蔡出身で、1904-1905年武備学堂で学び、1906年に日本へ留学、軍事学校に入学する予定であったが、体が弱いため、実業学堂で学び、後に東京法政大学で政治科を学んだ。その後、河南同盟支部書記、支部長を代行し、『河南』雑誌編集長などを歴任し、辛亥革命で活躍した¹¹⁾。後に国民党の元老院議員、立法委員、河南省元老院院長などを歴任し、1949年3月に信陽で反乱を起こした。1949年9月の新中國共産党委員会會議と建国式典に招かれ、華中・華南軍事政治委員会委員、河南省人民政府委員、全人代代表大会協議委員会副主席、中國共産党委員会省委員会副主席などを歴任した。1960年11月に病気で亡くなった。

3.3 教育に関わった人

- ①劉青霞（1877-1922）は、安陽市江村出身で、元は馬姓であった。清朝の広東・広西総督であった馬平遥の娘であり、同盟会のメンバーであり、辛亥革命の女性志士であり、近代における有名な女性活動家、教育者、政治家である。彼女は「中国新婦人世界」を創刊し、「河南」誌に資金を寄付するなど革命活動に後援し、河南で最初の女学校である華英女子学校を創立した。日本人教師・高山アイもここで教鞭を取っていた。
- ②張玉琳は荊陽出身で、1904年に教員養成を学ぶために経緯学堂教育選科に入学した。帰国後、故郷に戻り、1905年に荊陽師範伝習所を開校した。この学校は50人ずつの2クラスに分かれ、期間は1年間であった。1907年に簡易師範学校と改称し、修業年限を2年にした。カリキュラムは教養、漢文、地理、歴史、算術、地理（物理・化学）、中国画、体操、教育原理の9科目に分けられた。当校は荊陽における教師養成の先例となった。
- ③王拱璧（1886-1976）は、孝武宮生まれ、原名は璋である。1917年、早稲田大学に留学し、1918年に帰国した。故郷に戻り、有能な若者を招き、故郷の孝武宮を「自治村」に変えた。教育から始め、自衛団を組織し、青年自治会を設立した。1920年7月9日、村の崇石小学校を青年公立学校に変え、村民集会を開き、孝武宮を「青年村」に変え、「村事務所」と「調停所」を設置した。数年にわたる努力の末、学校は徐々に拡大され、生徒総数は700人を超えた。留学生であった王拱璧氏が創設した一連の教育プログラムが、この地域で多くの有用な人材を育成し、他地域の教育建設のモデルになっていた。

3.4 実業に関わった人

- ①張清選は1906年の日本留学中に故郷の汜水で弟張清峰と白墨チョークを生産するために工場を設立した。設立当初は「家族経営で資本金も非常に小さく、生産効率も低く、1人1日1箱しか生産できず、白墨しか生産できなかった」ということから、生産効率は極めて低かったことがわかる。生産効率を高めるため、1906年に養蚕学校に入学し、

1909 年帰国後、日本で習った知識に基づいて、また、日本の工場の生産技術を手本に工場の技術を改良した。1910 年には 1 人 1 日 5 箱の生産ができるようになり、1916 年には色鉛筆も生産できるようになり、白鉛筆、色鉛筆を問わず最高の品質で、日本のものより優れていた。同工場は 1922 年に福建省で開催された第 2 回全国商品展覧会で入賞し、「桃ブランド」のチョークは河南省、河北省、山西省、北京などでよく売れ、評判となっていた¹²⁾。

②杜巖 (1875-1938)、1904 年に漢林院に選出され、1905 年に法政大学に留学した。1908 年帰国後、漢林院の編集委員に任命され、河南省に向かって協議局への準備を進めた。1909 年に河南省協議局議長に選出され、その後、河南省民政局長、河南省総督府書記、河南省第二代衆議院議員などを歴任した。また、「河南欧米留学予備学校」設立にも積極的に協力し、多くの留学生を海外に送り出した。英国人の鉅業権侵略に対抗するために 1906 年冬、日本に滞在した河南省留学生の代表として、上海の河南省留学生代表や世界各国の有志とともに、開封で鉅山権回する会議を開き、「鉅業研究会」を設立した。鉅業権争奪戦の末、杜巖と金發輝は「中州会社」を組織し、間もなく、「中州」と他二社を「中原公司」に合併して英国人の「福公司」に対抗することになり、杜巖が董事長に選出された。1911 年、資金を調達し、宏豫鉄鋼会社を設立した。また、光豫鉄会社を設立して様々な鉄鉅石鉅山を買い占めた。宏豫鉄鋼会社は当時河南省最大の製鉄企業であったが、軍閥の影響で、同年の 9 月 14 日、会社は閉鎖された。大打撃を受けた杜巖はその後故郷に戻り、政務を拒否し、教育や郷土史編纂に従事した。最後に、国の没落を心配し、極端な悲しみの末、1938 年秋に 63 歳で亡くなった¹³⁾。

また、河南からの留学生ではないものの、帰国後河南で活躍したメンバーもいる。

沈竹白 (1878-1914) は浙江省紹興市出身で、1905 年に日本に留学し、1906 年に中国同盟会に加入した。1908 年に開封に赴き、新聞社などを設立して政府の腐敗と無能を暴露し、革命思想を宣伝した。1911 年 12 月 22 日夜に武昌蜂起が予定されており、その連絡業務を担当した。中華民国成立後、開封で資金を集め、民間の染織工場、実習工場を創設し、上海から新技術を導入して布などを織った。製品は高品質で安価であり、外国製品をボイコットし、国産品を提唱するなど積極的な役割を果たした。1913 年に第二革命に参加し、1914 年 1 月に袁世凱のスパイに監視され、逮捕され、同月の 28 日に犠牲になった。

このように、日本で学習した知識を活かして生産方法を改善し、品質を向上させ、近代における河南経済の発展と工業の活性化に貢献した。

おわりに

河南省は中原地域に位置し、封建制度下で自然災害が頻発し、経済発展も遅れているため、留学規模も他の省には及ばなかった。しかし、清朝末期から日本など諸外国へ次々と留学生を送り出し、一定規模の留学生グループを形成してきた。河南省の日本への留学生

は、初期には軍事、法政、教員養成を中心に学習し、後期には文科系に限らず、留学専攻も多様化していった。彼らは帰国後河南省の高等教育の発展を推進すると同時に、学校を設立し、教員養成課程を設置し、地方教育の発展に貢献した。政治分野では、彼らは積極的に同盟会に参加し、孫文の指揮の下で革命活動を行い、思想解放と政治革新に貢献した。また、工業の発展に尽力した留学生もあり、河南省の経済発展に貢献した。所謂、留学生達は、近代の社会とともに成長し、学んだ先進的な科学と文化知識を生かして社会に貢献し、時代の変化に合わせて様々な面で社会の進歩と発展を推し進めたのである。

注

- 1) 張之洞『勸学篇』（下）田中文求堂、1898年、6頁。
- 2) 『魯迅全集』6 「因太炎先生而想起の二三事」人民出版社、1982年、558頁。
- 3) 郁達夫「日本の文化生活」『郁達夫全集』第3巻 散文、浙江大学出版社、2007年、283頁。
- 4) 宋白華等『三葉集』安徽教育出版社、2006年、103頁。
- 5) 王自立、陳子善編『郁達夫研究 資料』知識産権出版社、2010年、48頁。
- 6) 長堀祐造等編訳『陳独秀文集 1—初期思想・文化言語論集』平凡社、2016年、57頁。
- 7) 内山完造『魯迅の思い出』社会思想社、1979年、169頁より引用。
- 8) 宮崎龍介・小野川秀美編『宮崎滔天全集 第4巻』平凡社、1973年、62頁。
- 9) 河南地方史誌編纂委員会、河南省檔案館《河南新誌》（上）、第7巻、中州古籍出版社、1990年、第414頁。
- 10) 「各省教育彙誌」『東方雜誌』1908年第5巻第3期、第93-94頁。
- 11) <http://www.yanchengdj.com/renwu/1171.html> 閲覧日：2023.8.8。
- 12) 荊陽県科技誌編者小組編、任修高主編『荊陽県科技誌』1985年、第6頁。
- 13) <http://ren.bytravel.cn/history/5/duyan10166932.html> 閲覧日：2023.8.8。

参考文献

- 実藤恵秀（1962）『中国人日本留学生史』東洋文庫。
- 大里浩秋・孫安石（2002）『中国人日本留学史研究の現段階』御茶の水書房。
- 徐志民（2020）近代日本の中国留日学生政策史』中国社会科学出版社。
- 金珽実（2020）「清末新政時期における河南の教育と日本語」『東アジア日本学研究』第3号、215-223頁。

A study of Henan students studying in Japan during the Late Qing Dynasty and the Republic of China

JIN, Tingshi

Abstract

Separated by a sea, China and Japan are inseparable neighbors politically and economically, and they are also closely linked in history. In the history of Sino-Japanese relations, the study of foreign students is discussed as part of cross-cultural or international exchanges. On the basis of the previous research, this study discusses the development of overseas students in Japan, Henan education reform, Henan students and their return to China. As Henan is located in the hinterland of the Central Plains, the news resources are limited, the society is full of unhealthy custom, and the scale of studying abroad is not as large as that of other provinces. However, since the end of the Qing Dynasty, foreign students have been sent to Japan and other countries, forming a certain scale of overseas students. In the initial stage, foreign students focus on military, legal and political affairs, and teacher training, but in the later stage, they are not limited to liberal arts, and their majors become diversified. After studying abroad and returning home, they not only promoted the development of higher education in Henan Province, but also set up schools and teacher training courses, which contributed to the development of local education. In the political field, they actively participated in the League meeting, carried out revolutionary activities under the command of Sun Yat-sen, and made contributions to ideological emancipation and political innovation. In addition, there are also foreign students who are committed to industrial development, which have contributed to the economic development of Henan Province. The so-called group of foreign students grew up together with the modern society and made contributions to the society by using the advanced scientific and cultural knowledge they had learned. With the changes of the times, it promoted the progress and development of the society in all aspects.

Keywords : Studying in Japan, Henan overseas students, number of students studying abroad, Active performance after returning to China

ベトナムにおける技能実習生送り出し機関の現状と改善点 —現地調査を中心に—

王 維亭（千葉大学）、タン・ティ・ミ・ビン（ハロン大学）

要旨

2022 年末時点において日本に在留している外国人技能実習生の大半はベトナム人が占めている。技能実習生の人数の増加に伴い、失踪や犯罪に関わる件数の増加が日本にとって一つの社会問題となりつつある。この問題を改善するため、本稿はベトナム国内の実習生送り出し機関の現状を調査し、改善できる点について探究した。現地調査を通じて送り出し機関での日本語教育に対する教育の質や訓練生及び技能実習生の勉強意欲の低さが、日本語のコミュニケーション能力に影響していることを明らかにした。さらに近年日本にくる技能実習生の募集が難しくなっている大きな原因の一つに、円安の影響でベトナムドン換算での金額が減少していることを示した。日本は技能実習制度を積極的に改善する動きが見えるが、技能実習生が成長しつつ、中長期的に活躍できる制度（キャリアパス）の構築などは、未だに不十分であることを本稿で指摘した。

キーワード： 技能実習生、日本語教育、キャリアアップ、訓練生募集

はじめに

日本出入国在留管理庁のデータによると、2022 年末時点で日本に中長期在留する外国人は 3,075,213 人であり、初めて 300 万人を超えた。その内訳は、永住者が 863,936 人、技能実習生が 324,940 人、技術・人文知識・国際業務が 311,961 人となり、日本総人口の約 2.5%を占めている。1993 年の技能実習制度成立当時から技能実習生（研修生）の数は年々増加している。特に 2022 年末時点でベトナムから来日している技能実習生は 176,346 人となり、技能実習生全体の 54.3%と半数以上を占めている。

法務省のデータによれば、2019 年の一年間に 6,105 人ものベトナム人技能実習生が失踪しており、技能実習生の失踪者全体の 69.4%を占め、第 2 位の中国人（1,330 人）を大きく引き離している。さらに 2022 年のデータでは、失踪者総人数 9,006 人のうち 6,016 人がベトナム人技能実習生である。これまで日本では技能実習生に関する問題を受け入れ国である日本の国内問題として捉え解決しようとしてきたが、受け入れ国側の問題を受け入れ国のみで解決しようとしても限界があり、送り出し国の現状を確認及び整理する必要がある。

る。本稿は、今までの技能実習生に関する研究に不足している部分を実践的な視点から補完するものである。現地での調査を通じて訪日前の技能実習生が、送り出し機関で受けた教育内容に対して不足している点を確認した上で、その改善方法を検討する。

1. 現在技能実習制度に存在している問題

今まで多くの先行研究（永吉 2020、宮島 2022）が来日後の技能実習生に対して①日本語能力の問題、②キャリア形成の問題、③安い労働力として雇われている問題をメインとして取り上げている。第一に、日本語能力の問題に対しタン（2022）は、多くの場合、技能実習期間中に日本語を勉強する時間が無いために、技能実習生の日本語能力は徐々に下がっていく。そのため技能を十分学ぶことができていない。日本語をあまり話せないため、将来について不安を抱え、ベトナムに帰国してもベトナム社会に貢献できない、結局日本から何も勉強することができない。実際、多数の技能実習生が、来日後に受け入れ企業に配属されてから、日本語を勉強する機会が少なく、訪日前の日本語能力のままで仕事と生活を送っているという状況が多い、と指摘していた。

第二に、技能実習生の帰国後のキャリア形成の問題である。帰国後のキャリア形成の視点からみると澤田（2020）は、100 人程度の元技能実習生にインタビューを行った。その結果からみると技能実習を行った職種と帰国後の職には直接の関係があまりない。日本語教師や通訳などをしている技能実習生もいるが、それはあくまでも技能実習生個々の日本語のレベルによるものであると指摘している。岩下（2022）は帰国後の元ベトナム技能実習生の調査を通して、技能実習時の日本語習得に加え、労働に対する価値観や規範意識の醸成が労働現場で役に立っていることがあるが、職種固有の技能が役に立った事例は少ない、と指摘している。

第三に、安い労働力として利用されている問題がある。技能実習生に労働者性が認められていなかったため、低賃金であり、転職の自由はなく、労働基本権が認められていないという問題がある。さらに技能実習生にとっては、現在の円安の影響で実際のベトナムドンでの手取り金額が減少していることも問題になっていると予想される。それも失踪に関わる大きな原因と考えられる。

技能実習生を受け入れる地方や業種によって大きな違いがあるため、一括で議論することは難しいが本稿は、上記の問題意識を念頭に置き、ベトナムでの調査を通じ、技能実習生送り出し機関の現状と問題点を確認し、その改善策を探究する。

2. インタビュー調査

日本で失踪したり犯罪に関わる技能実習生の数が多くなる中、ベトナムの技能実習生送り出し機関での教育内容は、技能実習生の来日後の仕事と日常生活の需要に十分対応しているかどうか、改善する余地があるかを明らかにするため、筆者は 2022 年 8 月から 9 月に

かけてベトナムのハノイ市にて、技能実習生送り出し機関 A 社・B 社の 2 社及び日本語教育機関 C 社 1 社の計 3 社を訪問し、職員及び技能実習訓練生に半構造化面接でのインタビューを実施した。インタビュー内容が多いため、その内容を抜粋して紹介する。政府認可の 3 社に各半日から二日間滞在し、教育内容、訓練生の様子などを取材した。訓練生にインタビューをすることで彼らの現状を確認することもできた。

2.1 【A 社】のインタビュー内容

担当者：グエンさん（男、30 代、日本事業部部長、日本留学経験あり）

A 社は 2009 年に設立、各業種累計 500 名以上の技能実習生を日本に派遣した。従業員は 18 名。グエンさんはベトナムで高校卒業後に日本に留学し、2011 年ベトナムに帰国、2012 年に A 社に入社した。

A 社の日本語教育について、毎日朝 8 時から 10 時 50 分まで、3 コマ（1 コマ 50 分）、午後は 13 時から 15 時 50 分まで 3 コマ（1 コマ 50 分）、一日 5 時間である。筆者が見学したクラスには、訓練学校に入学したばかりの 10 人の訓練生がいる。日本語教師は 31 歳の女性、彼女は 2019 年にこの訓練センターに就職した。日本語学校 2 年間と専門学校 2 年間の 4 年間の日本留学経験がある。「もともと教えることが大好きなので、日本からベトナムに戻ってきってから日系企業での就職は考えていなかった。ちょうどこの訓練学校が日本語講師を募集しているから応募した。教えるにいが、とても楽しんでいる。学生に自分の日本での経験や日本の習慣なども教えたい。例えば時間をちゃんと守ることを教えました。日本人はちゃんと時間を守るから、約束や、仕事に遅刻しないことが大事と思っているから。」と話した。

A 社の訓練センターは広島、新潟の工場に技能実習生を送り出している。最初の送り出し先は広島と新潟に 3、4 社しかなかったが、徐々に口コミで広がっている。現在広島に 20 社程度、新潟には 30 社程度技能実習生を送り出している。グエンさん自身は 2〜3 ヶ月に 1 度日本に行き、実習生や受け入れ先と会談し、問題発見及び解決などに力を入れている。「我が社は失踪した実習生がいない」と自負している。

グエンさんは「会社は技能実習生とのコミュニケーションをなにより大切にしている。僕は毎回日本に行く時に、ほぼ彼らへのお土産でスーツケースがいっぱいになる。日本に行った後の技能実習生の状況を把握するために、受け入れ先の会社の担当者と常に連絡をとっている、技能実習生の家族とも連絡を取り合って、何か問題がある時にすぐ解決できるように心がけている。家族から聞いた状況が一番正しいかなと思っていて、もし何かトラブルがあるなら、すぐ解決できるようにしている。」と話した。また「送り出す場合は、訓練 6 ヶ月以内の者は日本に送り出さない。急ぎでも出さない。ちゃんと教育しないと急いで出す場合はいいことがない。ちゃんと時間をかけて、日本の勉強や、日本文化の話、会社の話をちゃんとしてから送り出している。」と話した。

2.2 【B社】のインタビュー内容

担当者：ファンさん（男、30代、日本事業部課長、元技能実習生）

グエンさん（男、30代、教育部長、日本語学科卒業、留学経験なし）

B社は2014年9月に設立、各業種累計1100名以上の技能実習生を日本に派遣し、従業員は35人いる。日本語教育について、教育部長のグエンさんが「日本語クラスは毎日午前8時10分から9時40分、10時5分から11時35分まで、午後1時半から4時まで合計5時間30分の勉強時間になる。国際交流基金の先生が日本語の教え方について指導をしている。介護実習生は試験があるので、教科書で出てくる単語の4分の3は覚えてほしい。一般の実習生は4分の1でも大丈夫。介護業以外の業種は6ヶ月の勉強期間になるが、介護業の技能実習生は大体10ヶ月の勉強期間になる。」と話した。

日本語の教員について、グエンさんは「当社の日本語の先生はみな社員である。その中には大学で日本語を専攻した人や日本から帰国した人がいる。訓練生によって日本語勉強能力に差があるため、1か月ごとにテストをして出来が悪い場合は他のクラスに移す。聴解にも力を入れている。日本に行って最初の1か月は慣れない。介護実習生にはN3をとる人もいる。N3をとれば大丈夫だが、一番困るのが聴解だ。教科書の日本語と実際の日本語とは違う。」と話した。

ファンさんによると、B社は2019年10月に初めての介護実習生を送り出した。現在、介護実習生を100人以上抱えている。介護は人と人との関係の仕事であるため、受け入れ先の会社とよく連絡を取り合い、トラブルがあったらすぐ解決できるように尽力する。これまでに失踪した人はいない。日本語教育についてファンさんは「日本入国後に日本語が上達しない場合、夜のオンライン授業を月・水・金に行く。毎回1.5から2時間。監理団体や受け入れ先企業がそうした日本語の追加学習の費用を払ってくれる場合もある。」さらに「実は3年の実習期間は足りないと思う。1年目は日本語と仕事を覚えるのに費やして、2年目から3年目も若手として働くじゃないですか。やっと4年目から熟練工になるのに、帰国することになるから、日本にとっても損だよ。」と話した。

「介護実習生の給料は他の実習生と同じ程度になる。ベトナムには医療学校があり、その学生もほとんど女性である。だけど介護職の募集はなかなか難しい。本人負担は他の実習生と変わらないが、勉強期間が長いし、また仕事内容、例えばおむつ交換や食事サポートなどの仕事内容も忌避される。ベトナムには老人ホームはまだ少ない。介護職を、実習生の親がやらせたくないということもある。勉強の途中で日本行きを辞退するケースもある。また、円安の影響で、日本の給料をアップしないと魅力を維持することができないと思う。皆台湾、ドイツ、オーストラリアに行っちゃいます。向こうの給料が日本より高いからだ。」とも話してくれた。

ファンさんの日本語能力は非常に高い。その理由を彼は「ずっと勉強し続けたから。2014年に技能実習生として愛知県にある金属プレス加工会社に行った。事前に訓練センターで

日本語を勉強したけど、日本に行っても日本語が分からなかったの、会社の人に教えてもらったり、休憩時間にも勉強した。YouTube などでも勉強したよ。」と言う。勉強する意欲が大事であることが明らかである。

B 社は他社と違い、技能実習生が訪日する前に自分の家族に対する感情、家族の大切さを感じさせるマインドセット授業を取り入れている。筆者が見学した授業では、訓練生たちが 2 チームに分かれて、目隠しをして同じチームの人に手を握って誘導してもらい、紙コップを踏まないように歩いていく。ゲームのあと、他者の助けは大事であるが、他者から良いアドバイスもあれば悪いアドバイスもあるということがわかるように練習をしていた。グループワークが終わってから次にタイのビデオを見る。聴覚障害者の父と高校生の娘の物語で、娘が学校でいじめられて自殺未遂をしてしまうという話である。その後に感想を述べ合う。このような授業で親の愛の大切さなどを教えている。つまり、日本での仕事や生活の中で苦しいこと、難しいこと、トラブルにあった時に、家族や友人のことを思い出して、その大切さを思い出そうという訓練である。マインドセットの授業は週 1 回あり、1 か月余り続く。ファンさんの話によると、このような訓練は技能実習生の失踪や犯罪を防ぐためであると言う。

2.3 【C 社】のインタビュー内容

担当者：ザーさん（女、30 代、日本留学経験あり）

C 社は日本語教育を主たる事業として 2006 年に創立され、以来、日本語教育一筋に業務を行っている。教育対象は、日本に行く技能実習生が 90%、エンジニアや日系企業スタッフが 10%を占めている。C 社は送り出し機関ではなく、日本語教育や企業文化などを教えている訓練センターである。各会社の需要や依頼に基づく日本語授業も行っている。4 カ月、6 カ月、8 カ月から 10 カ月の三コースがあり、4 カ月のコースは N5～N4 程度のレベル、6 カ月のコースは N4～N3 程度、8 カ月から 10 カ月のコースは N3 程度のレベルに達する。それ以外に日本企業の 5S やごみの分別といった日本の生活知識も月に 4-5 回教えている。

担当者ザーさんは「送り出し機関が弊社の日本語教育を利用する理由として二つある。第一に、その機関が自ら教育訓練機能を持っていない場合がある。第二に、教育機能は持っているが、よりハイレベルな日本語を教えてほしい時に我が社に委託する。農業や建設の実習生の場合には、それほど高いレベルの日本語を学ばなくてもいいので自社で教えるが、製造業などより高度な日本語を求められる場合や、また受け入れる企業から教育費が出るような場合、当社に委託するケースがある。」と言う。日本語教育に関して、C 社は毎日 6 時間、8 時半から 10 時、10 時半から 12 時、午後は 13 時 15 分から 14 時 45 分、15 時から 16 時 30 分までとなる。日本語教育の質を保つために、教員は日本語学科卒業者、あるいは日本語教育の研修を受けている者を採用している。

さらに、ザーさんが「うちの売りは訓練センターが大学のキャンパスの中にあることです。」と言う。「なぜここに設置したのか？」の質問に対して、彼女は「それはしっかり教育するためである。教育には環境が必要だ。街中では気が紛れてしまう。実習生の働き先は工業関係が多いが、大学の中では例えば溶接やフライス加工、縫製などの実習もできる。大学で短期コースをやっていてそれに参加できるから。」と言う。

最近の気になる問題点に関しての質問にザーさんは「最近、都会の若者たちは日本に働きに行きたがらない。貧困地域の人はまだ行きたい。少数民族地域だとベトナム語を流暢に話せない人もいる。最近では円安により日本より韓国・台湾を先に挙げている人もいる。」と話す。応募してくる人数が減少していることが分かった。

3. インタビュー調査から見た現状

現地調査を通して、技能実習生送り出し機関2社と訓練センター1社に共通していることを3点まとめることができた。

- ①管理者は皆日本経験者（元留学生、元技能実習生）である。日本での働き先の状況や日本の生活に関してある程度の理解ができている。
- ②管理者は年2〜3回日本へ出張し企業訪問を行っており、技能実習生の様子をみて、問題があったら早めに解決するように心がけている。来日後の技能実習生に対してできるだけのケアをしている。そのためか現時点では各社で失踪、犯罪の前例はない。
- ③待遇や仕事内容に加えて円安の影響で日本行きの技能実習生の募集が難しくなっている。3社の担当者とも今後の募集に関して心配している。

日本語教育について、制度上では技能実習生に最低320時間の日本語学習が義務付けられている。インタビューした3社とも毎日5時間以上の勉強時間を設定しているが、訓練生によりレベルのばらつきが大きく日本語能力が低いままの者もいる。この点に対してベトナム国内の送り出し機関でまず改善しなければならない。例えば、日本語教育の時間をさらに増やす、特に今まで多く指摘されていた会話の難しさに対応するため、会話クラスの時間を多めに設置するなどの対策があれば、技能実習生達の来日後の言葉上のストレスは軽減できるのではないだろうか。B社のファンさんのように、来日後にも週一回か二回は日本語を勉強する機会を作るなどの工夫をすることで、日本語のコミュニケーション力は上達すると考えられる。さらに、会社の同僚である日本人との交流機会を増やすことにより会社の仕事内容だけでなく、日本での生活についても理解を深めることが期待できる。

キャリアの継続に関して、今回の調査では、元技能実習生が帰国後に送り出し機関で働いていることは確認できているが、まだ人数は少ない。現状では、技能実習制度の目的「技術移転」とは無関係に日本の人手不足産業の担い手として技能実習生が使われている。そのため現時点では帰国後のキャリア形成と技能実習内容の連続性が乏しい。例を挙げると、日本において介護は成長産業であるが、介護の仕事に対する需要がベトナム等で近い将来

に大きく高まるとは考えにくい。介護業で勤めた技能実習生が、ベトナムに戻った後に介護職に就くことは極めて少ないと予想できる。逆に、日本では今後、介護業において外国人が基幹労働力として重要になっていく可能性は高い。この矛盾が日本の外国人労働力受け入れ方針の本格的転換の必要性を示しており、より正面から非熟練外国人労働者を受け入れ、日本でキャリアアップを図るという正規の受け入れが必要となる。

A 社と B 社の担当者はともに自社の技能実習生の精神的なケアを大事にしているため、今まで失踪歴や犯罪歴がない、と良い結果を出している。C 社は自社の技能実習生ではないが、担当者は定期的に訪日して、委託された各社の技能実習生の状況を確認していることも問題改善にも繋がっていることが分かった。今回調査した 3 社とも状況が良好であることがわかったが、調査対象社の数が少ないため全ての状況を説明することはできていない。異なる状況の送り出し機関もあると予想されるため、今後は状況が良好ではない調査対象への調査も行い、さらに掘り下げていきたい。

おわりに

日本では技能実習生が起こした問題の原因は単一ではなく、低賃金や技能実習期間中の退職、転籍などの正規労働者としての権利が守られていないこと、会社や地域住民からの無理解や差別など複合的な原因が存在している、と言われている。このような様々な問題に対する解決策に関して、近年、日本は積極的な態度を示している。2022 年 11 月に開催された「技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する有識者会議」では、技能実習制度の目的と実態をふまえた制度のあり方、外国人が成長しつつ、中長期的に活躍できる制度（キャリアパス）の構築、受け入れ見込み数の設定などのあり方、転籍のあり方、外国人の日本語能力の向上に向けた取り込みなどが議論された（出入国在留管理庁）。このように、日本国内の制度の改善・更新を行うことにより、技能実習生（特定技能を含む）に関するトラブル減少にある程度効果はあるであろう。

しかし、本稿が調査を行った送り出し機関 2 社と訓練センター 1 社では、失踪や犯罪に関わる実習生が出ていないこともまた事実である。3 社ともベトナム国内での訓練生への教育にとどまらず、来日した技能実習生へのアフターフォローに力を入れていることが特徴である。上記のように日本国内での制度の改善・更新は当然必要ではあるが、ベトナム国内の送り出し機関での教育及び来日後のアフターフォロー対応についても更に改善が必要である。

参考文献

澤田晃宏(2020)『ルポ 技能実習生』ちくま新書。

塚田典子(2021)『日本の介護現場における外国人労働者—日本語教育、キャリア形成、家族・社会保障の充実に向けて』株式会社明石書店。

熊谷嘉隆監修(2022)『人口減少・超高齢社会と外国人の包摂—外国人労働者・日本語教育・民俗文化の継承』株式会社明石書店。

永吉久久子(2020)『移民と日本社会』中公新書。

宮島喬(2022)『「移民国家」としての日本—共生への展望』岩波新書。

タン・ティ・ミ・ビン(2022)「ベトナムにおける日本技能実習生の日本語教育の現状」千葉大学令和4年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）研究者育成事業 国際研究活動支援プログラム 『外国人労働者受け入れのあり方—日本の政策とその課題』報告書、19頁。

岩下康子(2022)「人材育成に基づく技能実習制度の在り方—帰国後ベトナム人技能実習生の調査を通して」移民政策研究 Vol. 14『日本における移民の社会統合という課題』移民政策学会編、126頁。

法務省 https://www.moj.go.jp/EN/hakusyotokei_index.html（最終検索日 2023 年 10 月 9 日）

出入国在留管理庁

https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00033.html（最終検索日 2023 年 10 月 8 日）

厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/（最終検索日 2023 年 10 月 8 日）

Current Situations and Points for Improvement of Technical Intern Trainee Agents in Vietnam: Focusing on the Field Survey

WANG Weiting, THAN THI My Binh

Abstract

The majority of foreign technical intern trainees residing in Japan at the end of 2022 were Vietnamese. With the increase in the number of technical intern trainees, the increase in the number of disappearances of trainees and crimes is becoming a social problem for Japan. In order to improve this problem, this paper investigates the current situation of trainee sending organizations in Vietnam and explores areas where improvements can be made. Through the field survey, we found that the quality of Japanese language education at sending institutions and the low motivation of trainees and technical intern trainees to learn Japanese affect their Japanese communication skills. This paper also indicated that one of the major reasons why it has become more difficult to recruit technical intern trainees to Japan in recent years is the decrease in the value of the Vietnamese Dong due to the depreciation of the yen. Although Japan appears to be actively improving its technical internship system, this paper pointed out that the career path system that allows technical intern trainees to grow and be active over the medium to long term is still insufficient.

Keywords : Technical intern trainee, Japanese language education, Career development, Trainee recruitment

日本語教育におけるダイバシティ・マネジメント —母語話者教師と非母語話者教師の割合が 教育効果に与える影響—

力丸 美和（九州大学）

要旨

本研究は、日本語教育を対象として、日本語母語話者教師（以下、NT: Native Teacher）と非母語話者教師（以下、NNT: Non Native Teacher）の割合が教育効果に及ぼすのかを明らかにし、ダイバシティ・マネジメントに関する指針を得ることを目的とする。近年、各国の教育機関では構成員の多様化が進み、ダイバシティ・マネジメントが課題となっている。一方、企業における構成員の多様性と組織的なパフォーマンスの関係については多くの先行研究がみられるものの、教育を対象とした同様の研究はほとんど行われてこなかったため、そもそも教育では、どのような多様性が、どの程度存在することが教育効果にポジティブな影響を及ぼすのかが未だ明らかにされていない。国際交流基金（JF: The Japan Foundation）の公開データを用いて調査分析を行うことで、教師の適切な人材配置を行うための指針等を導出し、日本語教育における効果的なダイバシティ・マネジメントに寄与しようとするものである。

NTとNNTの割合が学習者の日本語能力にどのような影響を与えるかを明らかにするために、大規模調査のデータを用いた統計分析を行なった。その結果、NTの数がN5受験者数に影響を与え、NNTの数がN1、N2、N3、N4の受験者数に影響を与えることがわかった。

キーワード： ダイバシティ・マネジメント、日本語教育、教師、協働、パフォーマンス

はじめに

本研究は、日本語教育を対象として、日本語母語話者教師（以下、NT: Native Teacher）と非母語話者教師（以下、NNT: Non Native Teacher）の割合が教育効果に及ぼすのかを明らかにし、ダイバシティ・マネジメントに関する指針を得ることを目的とする。近年、各国の教育機関では構成員の多様化が進み、ダイバシティ・マネジメントが課題となっている。一方、企業における構成員の多様性と組織的なパフォーマンスの関係については多くの先行研究がみられるものの、教育を対象とした同様の研究はほとんど行われてこなかったため、そもそも教育では、どのような多様性が、どの程度存在することが

教育効果にポジティブな影響を及ぼすのかが未だ明らかにされていない。国際交流基金（JF: The Japan Foundation）の公開データを用いて調査分析を行うことで、教師の適切な人材配置を行うための指針等を導出し、日本語教育における効果的なダイバシティ・マネジメントに寄与しようとするものである。

1. 先行研究

Phillipson(1992)は、第二言語としての学習という過程を乗り越えた経験を有し、担当する学習者の言語的および文化的なニーズを理解している非母語話者のほうが、母語話者より教師としてふさわしいと述べている。岡崎（2001）は、日本人教師と中国人教師では、日本語・外国語の学習・教育に関して、また教育の対象となる中国人学習者について、考え方や認識のあり方で大きく異なる部分があることを指摘している。力丸（2016）は、日本人教師と中国人教師の日本語教育における特性を比較し、それぞれが日本語学習者の日本語力向上に与える影響を明らかにするために、中国人日本語学習者 56 名を対象に質問票調査を行った。その結果、中国人日本語学習者が日本人教師と中国人教師は、自身の日本語能力の向上に異なる影響を及ぼすと捉えていることが明らかとなった。このように先行研究では、NT と NNT が学習者に与える影響、教育についての考え方や認識が異なり、学習者も NT と NNT の特性が異なると認識していることが示されている。これらの特性を活かすことが、学習者の日本語力の向上につながると考えられるが、教師の文化的多様性の程度が、実際に学習者側の語学能力の向上に及ぼす影響については、明らかにされていない。

海外ではジェンダー・ダイバシティのみならず多国籍ダイバシティや文化的多様性に着目した研究は少なからず行われている。それらの研究では、しばしばダイバシティと組織業績の間に逆 U 字型の非線型関係が見出されている。例えば、Richard et al. (2004)は、高水準のリスクテイクを特徴とする企業では、経営グループの異質性と生産性の間に逆 U 字の関係が見られることを明らかにした。Kang et al. (2021)は、発明者の国籍の多様性が、発明の品質指標に対して逆 U 字型の効果をもたらすことを示した。Ashraf et al. (2013)は、遺伝的多様性に着目し、それが一人当たりの所得と逆 U 字型の関係を示すことを指摘した。Mir-Babayev et al. (2017)は、文化的多様性とイノベーションが逆 U 字型の関係にあることを示した。

本稿では、日本語教育機関における文化的多様性と教育のパフォーマンスの関係にどのようなパターンが見出されるのかを、一つの焦点として分析を行う。

2. 本研究の課題と調査分析の方法

前節で述べた学術的な背景から、本研究におけるリサーチ・クエスチョンを以下の通り設定する。

RQ：日本語教育における教師数、NT 数、NNT 数は、学習者の日本語力向上に、どのような影響を及ぼすか

先述のように、企業を対象とした先行研究では、組織の文化的多様性と業績の間に、しばしば非線型（逆U字）の関係が見出されてきたが、日本語教育において、いかなるパターンが見出されるのかを明らかにする。さらに、これらの学術的な「問い」に関する検討結果を踏まえて、NT と NNT の適切な人材配置を行うための実務的な指針を導出する。

本研究では、日本語教育機関における教師、NT、NNT の割合が、学習者の日本語力向上にどのような影響を及ぼすかを明らかにするために、国際交流基金が公開しているデータを用いて、各国の日本語教師数、NT 数、NNT 数と各国の日本語能力試験受験数の関連性を分析する。日本語能力試験（JLPT: Japanese-Language Proficiency Test）は、2020 年以降は、パンデミックにより実施国が減ったものの、2019 年は 87 の国・地域で実施されており、受験者は 1,168,535 人で、日本語能力を測る試験としては最大規模である。日本語能力試験は国ごとの得点や合格率の公表を行っていないため、本稿では日本語能力試験の受験者数を教育効果として分析を行うこととした。

日本語能力試験は、前述のとおり日本語能力を測る試験としては最大規模であり、本調査は、日本語能力試験および国際交流基金が実施している海外日本語教育調査のデータをもとに調査分析を行った。

仮説：各国における日本語教師数、NT 数、NNT 数が、各国の日本語学習者の日本語能力の向上に影響を与える

上記の仮説を検証するため、国際交流基金が公開している 76 か国の日本語能力試験の受験者数をパフォーマンス（日本語能力の向上）として、線型回帰分析を行った。2018 年と 2015 年の国民 10 万人あたりの日本語教師 (NT、NNT) 数、NT 数、NNT 数を独立変数とし、2018 年、2019 年、2020 年の国民 10 万人あたりの受験者数と 2015 年、2016 年、2017 年の国民 10 万人あたりの受験者数を従属変数とした。尚、JLPT が実施されなかった年がある国・地域の存在を考慮し、受験者数は 3 年分の受験者数の平均値をデータとして採用した。結果の詳細は次節において述べる。

3. 分析結果

表1は、国民10万人あたりの日本語教師数を独立変数、国民10万人あたりの日本語能力試験受験者数を従属変数として、回帰分析を行なった結果である。2018年の10万人あたりの教師数を独立変数、2018年、2019年、2020年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N1、N2、N3、N4、N5、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）全てが1%未

満水準で有意であり、教師数が受験者数を有意に予測している。2015年の10万人あたりの教師数を独立変数、2015年、2016年、2017年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N1、N2、N3、N4、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）が1%未満水準で有意であり、教師数が受験者数を有意に予測している。

	2018 年 教師数/10 万人					2015 年 教師数/10 万人				
	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率
N1 受験者	.526	.033	.877	15.716	<.001	.611	.037	.885	16.357	<.001
N2 受験者	.594	.036	.887	16.524	<.001	.518	.041	.826	12.606	<.001
N3 受験者	.573	.049	.804	11.618	<.001	.464	.049	.74	9.462	<.001
N4 受験者	.357	.076	.477	4.673	<.001	.231	.055	.441	4.229	<.001
N5 受験者	.313	.091	.371	3.441	<.001	.33	.12	.305	2.756	.007
全レベル	2.363	.222	.778	10.643	<.001	2.154	.218	.754	9.862	<.001

注1：独立変数 教師数/10 万人、従属変数 受験者数/10 万人

注2：Bは偏回帰係数、 β は標準化偏回帰係数を示す

表1 日本語教師数が日本語能力試験の受験者数に与える影響

表2は、国民10万人あたりのNT数を独立変数、国民10万人あたりの受験者数を従属変数として、回帰分析を行なった結果である。

	2018 年 NT 数/10 万人					2015 年 NT 数/10 万人				
	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率
N1 受験者	-.168	.106	-.073	-1.583	.118	-.041	.114	-.017	-.357	.722
N2 受験者	.111	.133	.043	.834	.407	.139	.146	.063	.957	.342
N3 受験者	.067	.19	.024	.352	.726	.269	.181	.121	1.488	.141
N4 受験者	.688	.306	.239	2.247	.028	.398	.202	.215	1.967	.053
N5 受験者	1.753	.324	.541	5.408	<.001	3.232	.272	.844	11.883	<.001
全レベル	2.451	.897	.21	2.732	.008	3.997	.781	.395	5.117	<.001

注1：独立変数 NT 数/10 万人、従属変数 受験者数/10 万人

注2：Bは偏回帰係数、 β は標準化偏回帰係数を示す

表2 日本語母語話者教師数が日本語能力試験の受験者数に与える影響

2018年の10万人あたりのNT数を独立変数、2018年、2019年、2020年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N5が1%未満水準で有意であり、教師数が受験者数

を有意に予測している。2015年の10万人あたりのNT数を独立変数、2015年、2016年、2017年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N5と全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）が1%未満水準で有意であり、NT数が受験者数を有意に予測している。

表3は、国民10万人あたりのNNT数を独立変数、国民10万人あたりの受験者数を従属変数として、回帰分析を行なった結果である。2018年の10万人あたりのNNT数を独立変数、2018年、2019年、2020年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N1、N2、N3、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）が1%未満水準で有意、N4が5%未満水準で有意であり、NNT数が受験者数を有意に予測している。2015年の10万人あたりのNT数を独立変数、2015年、2016年、2017年の10万人あたりの受験者数を従属変数とした結果を見ると、N1、N2、N3、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）が1%未満水準で有意、N4が5%未満水準で有意であり、NNT数が受験者数を有意に予測している。

	2018 年 NNT 数/10 万人					2015 年 NNT 数/10 万人				
	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率	B	標準 誤差	β	t 値	有意 確率
N1 受験者	.634	.031	.945	20.505	<.001	.728	.037	.929	19.866	<.001
N2 受験者	.669	.039	.893	17.257	<.001	.585	.047	.823	12.526	<.001
N3 受験者	.652	.055	.817	11.788	<.001	.499	.058	.701	8.598	<.001
N4 受験者	.305	.089	.364	3.417	.001	.201	.065	.339	3.102	.003
N5 受験者	.088	.095	.093	.928	.357	-.189	.087	-.154	-2.164	.034
全レベル	2.349	.262	.69	8.976	<.001	1.824	.25	.563	7.284	<.001

注1：独立変数 NNT 数/10 万人、従属変数 受験者数/10 万人

注2：B は偏回帰係数、 β は標準化偏回帰係数を示す

表3 非母語話者教師数が日本語能力試験の受験者数に与える影響

4. 結果の考察

統計分析の結果、NNT数がJLPT N1、N2、N3、N4の受験者数に影響を与えていることが明らかとなった。その理由として、NNTが学習者により高いレベルの受験を推奨していることが推察される。また、日本語能力という技能を生かして業務に従事しているNNTがJLPT合格者であるため、学習者達はNNTの姿をとおして、高レベルのJLPT受験の必要性を認識しているためであると考えられる。一方、NT数が最もレベルが低いN5受験者数に影響を与えている原因として、NTと接することで初級学習者が日本や日本語に関心を持ち、N5を受験する動機になっていると考えられる。

近年、オンラインにおける動画教材などが教師に変わるものと考えられる風潮もあるが、本調査の結果から、日本語教師やNNT、NTの存在がJLPT受験の後押しとなっていることを

鑑みると、引き続き教師の役割は非常に重要であることがわかる。海外への日本語専門家の派遣や、NNT を対象に研修を行っている国際交流基金は、派遣や研修という事業への投資に対して、JLPT 受験者の増加というリターンを得ているといえよう。

おわりに

NTとNNTの割合が学習者の日本語能力にどのような影響を与えるかを明らかにするために調査分析を行なった。その結果、教師数がN1、N2、N3、N4、N5、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）の受験者数に影響を与えていることがわかった。また、NT数がN5受験者数に影響を与え、NNT数がN1、N2、N3、N4、全レベル（N1、N2、N3、N4、N5の合計）の受験者数に影響を与えることがわかった。本調査では、教育効果を受験者数で測定したが、教師数、NT数、NNT数が教育効果に及ぼす影響を測定するためには、大規模試験の結果のデータを用いることが望ましいため、試験の結果のデータの取得が今後の課題である。また、先行研究においては、多様性とパフォーマンスの間に逆U字の関係が見られたが、日本語教育における文化的多様性の最適な程度については、未だ解明されていないため、この点についても、引き続き分析が必要である。

本稿での分析結果は、大規模調査のデータを用いた、一方面からの分析に過ぎない。今後は各国の個別のケースを深掘りし、教師数以外にも学習者の日本語力向上に与える要因の分析を行うための枠組みを作成することも課題としたい。

参考文献

- 岡崎智己（2001）「母語話者教師と非母語話者教師の BELIEFS 比較—日本と中国の日本語教師の場合」『日本語教育』（110）、110-119 頁。
- 国際交流基金（2017）「2015 年度「海外日本語教育機関調査」結果」
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>（閲覧日：2023 年 8 月 10 日）。
- 国際交流基金（2020）「2018 年度「海外日本語教育機関調査」結果」
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html>（閲覧日：2023 年 8 月 10 日）。
- 国際交流基金、日本語国際教育支援協会「過去の試験のデータ」
<https://www.jlpt.jp/statistics/archive.html>（閲覧日：2023 年 8 月 10 日）。
- 力丸美和（2016）「日本語教育における日本人教師と中国人教師の特性比較—中国人日本語学習者への質問票調査結果より」日本語教育学会国際研究大会、*Bali International Convention Centre*。
- Ashraf, Q., & Galor, O. (2013) “Genetic Diversity and the Origins of Cultural Fragmentation,” *American Economic Review*, 103(3), pp.528-533.
- Kang, B., & Nabeshima, K. (2021) “National Origin Diversity and Innovation Performance: The Case of Japan.

Scientometrics,” 126 (6), pp.5333-5351.

Mir-Babayev, R., Gulaliyev, M., Shikhaliyeva, S., Azizova, R., & Ok, N. (2017) “The Impact of Cultural Diversity on Innovation Performance: Evidence from Construction Industry of Azerbaijan,” *Economics & Sociology*, 10(1), pp.78-93.

Phillipson, R. (1992) *Linguistic Imperialism*. Oxford: Oxford University Press.

Richard, O. C., Barnett, T., Dwyer, S., & Chadwick, K. (2004) “Cultural Diversity in Management, Firm Performance, and the Moderating role of Entrepreneurial Orientation Dimensions,” *Academy of Management Journal*, 47(2), pp.255-266.

Diversity Management in Japanese Language Education : The Effect of the Ratio of Native Teachers to Non-Native Teachers on Teaching Effectiveness

RIKIMARU, Miwa

Abstract

The purpose of this study is to clarify how the ratio of Native Teachers (NT) to Non-Native Teachers (NNT) affects the effectiveness of Japanese language education and to provide guidelines for diversity management. In recent years, educational institutions in many countries have been facing the issue of diversity management due to the increasing diversity of their members. While there have been many previous studies on the relationship between diversity and organizational performance in companies, there have been few similar studies on diversity in education. This study aims to contribute to effective diversity management in Japanese language education by conducting a survey and analysis using publicly available data from the Japan Foundation (JF) to derive guidelines for appropriate teacher staffing.

To clarify how the ratio of NTs to NNTs affects learners' Japanese language proficiency, I conducted a statistical analysis using data from a large-scale survey. The results showed that the number of NTs affects the number of N5 examinees, while the number of NNTs affects the number of N1, N2, N3, and N4 examinees.

Keywords : Diversity Management, Japanese Language Education, Teachers, Collaboration, Performance

「朝日新聞」における記事からみる日本人家族の介護意識の変遷 —1980年～2019年のデータベースを中心に—

李 東輝（大連外国語大学）・饒 勝男（大連外国語大学大学院生）

要旨

本研究は『朝日新聞』データベースに掲載された介護意識に関する記事から34の事例を抽出し、それらの事例を基にして家族の介護意識の変化を考察したものである。考察を通して日本における1980年～2019年までの家族介護の変化が明らかになった。

第一に、介護者の構成の変化である。1980年代には女性が主な介護者であったが、1990年代には男性の介護者も出てきて、2000年代になると男性介護者の割合が増加している。また、被介護者との関係をみると、嫁による介護は少なくなり、息子や娘など血縁関係がある人、親密関係にある夫による介護が増えている。

第二に、介護規範と介護意識が大きく変化した。1980年代には、女性介護、特に嫁介護規範が強く、介護は恩返し、あるいは義務であるという意識が強く存在した。しかし、1990年代には、特に女性介護者による介護への不満、介護放棄などの消極的な事例が増え、介護継続意欲が弱まる傾向が見られ、介護は恩返し、あるいは義務であるという介護意識も弱くなりつつある。2000年代には、社会介護サービスの利用意欲が向上し、家族の手で介護を行う介護意識が低下するのに対して、社会介護への期待が高まっている。2010年代には、社会介護サービスを利用する意識が強くなるとともに、介護より自分の体を優先する意識が強くなった。

キーワード： 家族介護、嫁介護規範、介護意識、介護サービス

はじめに

日本の厚生労働省は、2023年9月1日時点の住民基本台帳をもとに、国内に住む100歳以上の高齢者の数は全国で9万2139人であることを発表した。また、1947～1949年までに生まれた、いわゆる「団塊世代」が75歳以上の後期高齢者となる2025年を機に、介護ニーズが更に拡大することが予測される。2018年厚生労働省の「高齢社会に関する意識調査」（全国の40歳以上の男女を対象）の結果により、自分の介護が必要となった場合に、どこでどのような介護を受けたいかの希望について、「自宅で家族中心に介護を受けたい」（18.6%）と「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」

(17.5%)と回答した者の割合の合計は全体で36.1%となっている。つまり、自宅で家族による介護を期待している人がまだ少なくない。

1. 先行研究の概要と本研究の目的・研究方法

1.1 先行研究の概要

先行研究では、介護について、①介護負担感が重く、社会介護への期待が高まっている（国武和子ら，2001；木子莉瑛ら，2001；井口高志，2010）、②配偶者の介護意識が高く、息子や嫁の伝統的な介護意識が強い（佐伯和子ら，1997）、③嫁への介護期待が強かったが、娘への介護の期待が高まっている（中西泰子，2007、渡辺千枝子，2008）などと論述している。

また、介護の充実感については、嫁が一番低く、娘よりも特に低い（森英里奈ら，2016）。一定期間の介護継続後に、介護者が夫の場合、介護継続への不安感が高まり、介護者が娘の場合、介護への充足感と高齢者への親近感が高まったが、介護者が息子の場合、介護開始時と一定期間の介護継続後で変化がみられなかった（北本さゆりら，2020）。そのほかに、女性は施設介護や社会的介護を希望する人が多く、男性は配偶者を自分で介護することを望み、家族を頼るなどの介護意識が顕著であると指摘されている（宮上多加子，2001、大和礼子，2008、水島洋平，2010、石橋郁子ら，2011）。

1.2 本研究の目的と研究方法

先行研究をみると、介護意識に関する研究成果が多く蓄積されているが、通時的な視点から家族介護者の介護意識に関する研究はまだ少ない。本研究では、『朝日新聞』データベースの1980年～2019年までの全分野欄で「介護意識」、「家族介護」および「家族介護者」などのキーワードで検索を行い、そのデータベースに掲載された関連的事例の中で介護意識に関する情報が備えている34事例を抽出し、抽出した家族介護者に焦点を置いて、1980年から2019年まで家族の介護意識はどのように変化してきたのかを考察する。なお、以下の論考はあくまでも『朝日新聞』の記事を基にした結果である。

2. 「朝日新聞」の事例からみる家族介護者の介護意識

2.1 分析対象者の属性

表1に示すように、分析対象者の性別をみると、女性介護者は25名（74.0%）で、男性介護者は9名（26.0%）である。要介護者との関係について、「娘」が15人で一番多く、次いで「息子の嫁」が6人、その次が「夫」の5人である。要介護者を介護する期間は1年から10年までと幅広い。最も多いのは「5年～10年未満」（13人）で、第二位は「1

年～5年未満」（11人）である。「1年未満」の割合は3人で1割に及ばない。無職者は16人で、有職者は11人、不詳は7人である。

表 1 分析対象者の基本属性 (N=34)

項目	項目別	ケース	%	項目	項目別	ケース	%
性別	男性	9人	26.0	上位の三位の 介護期間	5～10年未満	13人	38.0
	女性	25人	74.0		1～5年未満	11人	32.0
					1年未満	3人	9.0
上位三位 の続柄	娘	15人	44.0	職業の有無	ある	11人	32.0
	息子の嫁	9人	26.0		ない	16人	47.0
	夫	5人	15.0		不詳	7人	21.0

2.2 年代別にみられる家族の介護意識

2.2.1 1980年～1989年：根強く存在している女性介護及び介護優先意識

分析対象者の中で、1980年代の介護者は5人で、全て女性であり、20代と30代がそれぞれ1人で、40代が3人である。被介護者との続柄からみると、「嫁」が3人で、娘は2人である。介護期間は「1年～5年未満」が2人で一番多く、その次は「1年未満」と「5年～10年未満」及び「不詳」がそれぞれ1人である。平均介護期間は3.7年であった。職業の有無については、有職者と無職者がどちらも2人で、不詳は1人である。対象者の中で、介護をしている時介護サービスをほとんど利用していない。つまり、この年代の介護は嫁の割合が半数以上であった。

また、下記の事例をみると、この年代には家庭介護が主な介護モデルであり、家庭介護者が「介護は当たり前のことである」と考え、積極的に介護行動を取り、自分の仕事より家族の介護を優先すべきであるという介護意識があることがうかがえた。

例(1)のA子さん(女性, 44歳)は共働き時に、義母に子をみてもらったので、自分の仕事を辞めて、寝たきりの義母(84歳)を介護している。仕事と介護の選択肢に向き合う時、介護を選択した。「共働き時代に、子の面倒をみてもらった。せめてもの恩返し」とAさんは言った。(「老い」の重荷女性にズシリ 1985年1月9日 朝刊 p.23)

例(2)の小町こよしさん(女性, 38歳)は十三年間働いた助産婦をやめて義母(79歳)を介護している。介護で仕事をやめたことについて後悔しているかどうかと聞いたところ、例(2)は「子供もまだ小さく、通勤時間も長くて、いろんな条件が重なったんですが、……しかしながら、やめてみて、おばあちゃんの様子が予想以上に悪かったと気がつき、やめてよかった。」(老親の介護 細腕に負担一女と老い 1985年9月16日 朝刊 p.16)

2.2.2 1990年～1999年：女性介護意識の義務性の揺らぎ

今回抽出した事例の中で、1990年代の介護者は11人で、その内、女性は10人、男性は1人であった。年齢別にみると、40代が4人、50代と60代がそれぞれ3人であった。被

介護者との関係をみると、「娘」が7人で一番多く、次は「息子の嫁」（2人）、「妻」と「息子」はそれぞれ1人であった。介護期間は「1年～10年未満」と幅広く、「1年～5年未満」と「5年～10年未満」がそれぞれ4人で一番多く、次は「1年未満」が2人で、「20年以上」が1人である。平均介護期間は5.2年であった。有職者が7人で、無職者が3人で、不詳は1人であった。社会介護サービスを利用している人は3人であった。

朝日新聞の報道記事から介護者の介護意識を推察すると、家庭での介護は義務であるという介護意識が弱くなってきた。介護負担の増加につれ、介護への不満、介護放棄などの消極的感情が強くなり、女性による介護への不満、さらに反抗意識が強くなっている傾向がうかがえる。

例（3）の東美春さん（女性, 49歳）は両親と同居していた妹の結婚によって、一年前に退職して寝たきりの母の介護に専念している。……非常に疲れるが、身体の疲れより、親の態度のほうに東美春は我慢できない。彼女は「つらいのは、私がやって当たり前のような態度と言葉が時々だが出ること。親子でも、ありがたいの気持ちは、ほしいと思う」と述べている。（人背負わず介護続けたい 1999年2月9日 朝刊 p.5）

また、例（4）の徳永厚良さん（男性, 62歳）の話から同じような感情が読み取れる。例（4）は寝たきりの母を介護したことがあるものの、十三年間病床に寝ていた母の介護は九分九厘、妻がやっていた。長い歳月の介護疲れでやつれる妻を見ては、夫たる徳永の良心に突き刺さって、「本来、親の扶養の義務は実子の私にある。権利、義務が車の両輪となっている民法では、夫の親の遺産は嫁には相続権が無いことから、介護の義務も嫁には課していない。」と話している。（老人介護 投稿特集 1994年7月12日 夕刊 p.7）

そのほかに、例（5）の佐渡友順子さん（女性, 51歳）は、高齢両親の介護のため、自分の自由時間が犠牲にされてしまった。介護について彼女は以下のように話した。

「親をみとって偉いわねえ」といった感情論ではなく、介護者やボランティアが労働者として評価される日がくることを願ってやまない。（在宅介護も労働です ひととき 1995年10月17日 朝刊 p.19）

例（6）のマチルダさん（女性, 62歳）は両親をみていた。脳溢血で三年前に半身不随になった母（87歳）と、がんで一年前に倒れた父（93歳）を介護していた。介護負担について、「私ももう年なのに、三年間休みを全くとっていない。私の人生はないんです」。もだえ苦しんだ末の結論は「あきらめること。完ぺきな介護も自分の人生も」と述べている。（女たちが泣いている 1994年12月8日 朝刊 p.21）

例（7）のヘンドリックスさん（女性, 65歳）は脳卒中の夫（65歳）の介護を八年間続けている。介護中、介護疲れで三度心臓発作を起こし、限界を感じるようになった。「もう限界。これは人生じゃありません。男はエゴイストよ。自分さえよければいい。私の病気のことも見ても見ぬふりをして。ああ、もうやれないわ！」と泣き出した。（女たちが泣いている 1994年12月8日 朝刊 p.21）

平成7年(1995)の『国民生活基礎調査』によると、女性介護者の割合は84.0%で、男性介護者の割合は16.0%であった。女性は家庭介護の主要な担い手である。介護期間の延長など介護負担の増加により、女性は介護の義務に不満が生じ、反抗意識が強くなっていると推察できる。その上、嫁による介護より娘による介護という特徴が顕著になった。

2.2.3 2000年～2009年：家族の手による介護意識の低下

今回抽出した事例の中で、この時期の対象者は8人、女性と男性はそれぞれ4人である。年齢層は40代から80代までで、そのうち40代の人が一番多く3人である。それに続いて、50代と60代の人それぞれ2人で、80代の人1人である。被介護者との続柄をみると、一番多いのは「夫」(4人)で、次は「娘」と「息子の嫁」であり、それぞれ2人である。介護期間は「5年～10年未満」が一番多く4人で、次は「1年～5年未満」が2人で、「10年～15年未満」と「15年～20年未満」がそれぞれ1人である。平均介護期間は7.6年であった。この時期には社会介護サービスを利用している人が6人で、利用しない人(2人)より多くなっている。

この時期になると、夫の介護の特徴が顕著である。実は、2000年代の『基礎調査』の結果によると、男性介護者の割合が30.0%前後をいったりきたりしていた。介護者全体の中で約3割の男性介護者は早くから社会に注目され、メディア報告にもしばしば登場し、男性介護者に関する報道記事が多くなっている。しかしながら、約7割を占めている女性が主要な介護者である現実是不変である。

また、嫁規範はまだ残っているが、社会福祉サービスの発展により、家族の介護者が積極的に利用している。ホームヘルパー派遣世帯数をみると、1981年は87,488世帯、1989年は125,080世帯、1990年に14,271世帯となり、1999年に513,476世帯までに増加した(新井康友, 2004)。介護保険制度が実施された後の介護サービス利用者の割合をみると、2000年は23.4%で、2009年は17.6%であった(中井良育, 2014)。社会福祉の整備と長寿化の進行にともない、2000年代には、社会介護サービスの利用率は1980、1990年代と比較して大幅に増えている。

そのほかに、新聞の記事から家族の介護意識を推測してみると、介護者は介護負担感が重くなり、介護の限界が感じられている。そのため、介護継続意欲が低下しつつあり、家族以外の介護サービスの利用意欲が高くなる傾向がうかがえた。

例(8)の東山保江さん(女性, 53歳)は義父母を介護していたことがあった。そのため、ストレス性の高血圧、肝機能低下、腰痛を引き起こした。社会サービスを利用したが、義妹ができる限り家での介護を行うことを要望するため、放棄した。長男の嫁としてずっと親を看ていた。家庭介護は二十四時間態勢である……「できる限り家での介護を」という義妹の要望もあった……ホームヘルパー制度の利用は時間的に無理だった。義父のいら立ちが罵声として飛んでくる。「たった一日の自由時間が欲しい」と何度思ったことか。「介

護保険制度が施行されて介護者に余裕が出来るものと喜んでいました……初めて利用する施設でしたが、「送迎します」とのことで一安心。（疲れる介護に心遣い欲しい 2001 年 5 月 1 日 朝刊 p.10）

また、例（9）の大阪府門真市の主婦（女性, 55 歳）も自らの境遇を振り返った。彼女は認知症の母（88 歳）の介護を六年間続ける。母はいつも夜中に大声で騒ぎ、オムツを外してベッドを汚し、徘徊も続いた。介護でストレスがたまり、心中を考えることもあった。介護限界でショートステイとデイサービスを利用することになった。（認知症対策、急務 2006 年 6 月 23 日 朝刊 p.2）

上述した事例に見られるように、家族による介護は大きな身体的・精神的負担があり、社会支援が差し迫った要望になっている。外部サービスを利用しながら家庭で介護する介護モデルを選択する者が多くなっている背景には、家庭介護者の外部介護サービスを利用する意欲が高く、家族の手による介護の志向が弱くなっていることがある。その反面、社会介護意識が強くなっていることが推測できる。

2.4 2010 年～2019 年：介護優先から自己優先へ

今回抽出した事例の中で、この時期の考察対象者は 10 人である。そのうち、女性は 6 人、男性は 4 人である。年齢層をみると、50 代が一番多く 6 人で、次は 60 代の 3 人で、40 代が 1 人である。要介護者との関係について、多い順からみると、「娘」が 4 人、「息子」が 3 人、「息子の嫁」が 2 人、「妻」が 1 人である。すなわち、「朝日新聞」の記事をみると、介護を担っている人は「娘」と「息子」が増えている。また、介護期間は「5 年～10 年未満」の人が一番多く 4 人で、次は「1 年～5 年未満」が 3 人で、「10 年～15 年未満」と「15 年～20 年未満」及び「20 年以上」はそれぞれが 1 人で、平均介護期間は 7.3 年であった。社会介護サービスの利用状況をみると、10 人の中で 8 人が社会介護サービスを利用している。

例（10）の西野和子さん（女性, 69 歳）は義母（97 歳）の介護を十五年在宅で続けていた。今年春、長年に渡る介護の疲れと溜まっているストレスのため、くも膜下出血で倒れてしまった。仕方がなく、義母を老人施設に預かってもらうことになった。介護について、西野さんは下記のように述べている。

「親の介護は誠実にやれば疲労困憊しますし、やらなければ自分で自分を責めます。介護者も生身の人間、自分の人生の限りある時間を何年も介護に奪われるのは本当につらいことです。」（介護 社会全体の受け皿充実願う 2010 年 9 月 26 日 朝刊 p.16）

下記の例（11）の垣花昌弘さん（男性, 58 歳）は三年前から、認知症と診断された妻をデイケアしながら介護している。月～土曜日の朝 9 時から午後 3 時半まで、デイケアを利用する。「自分が一番リラックスできる状態じゃないと、介護なんてできない。ストレスを少しでも減らすことで、やさしく接することができるんです」。（「完璧」やめよう 男

の介護3割、支援が急務 2011年12月2日 朝刊 p.30)

上述した事例のように、この年代は娘介護だけでなく、息子介護の割合も大きくなっている。つまり、以前の嫁による介護より、気心の知れた肉親に介護を頼みたいという介護意識が強くなる傾向が見られる。また、社会福祉サービスおよび制度の整備によって、様々な介護サービスが家庭介護に入り、介護の不可欠な部分になっている。この時代は、社会介護サービスの利用意欲が高く、介護優先より自己優先という介護意識が顕著にみえる。

おわりに

『朝日新聞』のデータを見る限り、日本における1980年～2019年までの家族介護の実態と介護意識の変化が下記のようにまとめられる。

第一に、介護者の構成の変化である。1980年代には女性が主な介護者であるが、1990年代には男性の介護者が出てきた。2000年代になると、男性介護者の割合が増加しつつある。また、被介護者との関係をみると、嫁による介護は少なくなり、娘や息子など血縁関係がある人、親密関係にある夫による介護が増えている。

第二に、介護規範と介護意識の変化である。1980年代には、女性介護、特に嫁介護規範が強く、介護は恩返しあるいは義務であるという介護意識が強く存在していた。1990年代には、特に女性介護者は介護への不満、さらに介護放棄などの消極的介護事例が増え、介護継続意欲が弱まる傾向がみられ、介護は恩返しあるいは義務であるという介護意識も弱くなりつつある。2000年代には、社会介護サービスの利用意欲が向上し、家族の手で介護を行う介護意識が低下するのに対して、社会介護への期待が高まっている。2010年代には、社会介護サービスを利用する意識が強くなるとともに、介護より自分の体を優先する意識が強くなった。

参考文献

- 井口高志（2010）「支援・ケアの社会学と家族研究:ケアの「社会化」をめぐる研究を中心に」『家族社会学研究』22(2)、165-176頁。
- 石橋郁子・井上理絵・松居紀九子・西井啓子（2011）「男性有職者の家族介護に関する意識調査」『富山短期大学紀要』（46）、85-98頁。
- 木子莉瑛・木原信市・梅木彰子・澤村美穂・下永田いつみ（2001）「中高年における家族の介護意識調査」『熊本大学教育実践研究』（18）、29-35頁。
- 北本さゆり・黒田研二（2020）「高齢の女性を介護する介護者の心理状態とその経時的変化:息子・娘・夫の比較」『人間健康学研究』（13）、69-81頁。
- 国武和子・古川秀敏・野口房子（2001）「高齢在宅療養者を介護する介護者の意識」『県立長崎シーボルト大学看護栄養学部紀要』、7-19頁。
- 新井康友（2004）「ホームヘルプ事業の実際と課題一供給主体多元化の問題を軸に一」『立命館産業社会

論集』40(1)、73-86頁

中井良育（2014）「介護保険制度における介護サービス未利用者についての考察」『同志社政策科学院生
集』、39-56頁。

宮上多加子（2001）「高齢者介護に対する認識：〈男女共同参画社会〉に関する県民意識調査〉結果からの
分析」『高知女子大学紀要, 社会福祉学部編』50、63-72頁。

森英里奈・上杉裕子（2016）「在宅における家族介護者の現状と課題」『日本保健医療行動科学会雑誌』
31(1)、57-63頁。

中西泰子（2007）「若者の老親扶養志向にみるジェンダー：「娘」の意識に注目して」『家族社会学研究』
19(2)、45-57頁。

梶原弘平・横山正博（2007）「認知症高齢者を介護する家族の介護継続意向の要因に関する研究」『日本
認知症ケア学会誌』6(1)、38-46頁。

大和礼子（2012）「介護する意識とされる意識：男女差が大きいのはどちらの意識か」『関西大学社会学
部紀要』39(3)、103-121。

佐伯和子・崎原盛造（1999）「老親を介護する子どもの介護関係についての意識：沖縄の一農村において」
『札幌医科大学保健医療学部紀要』(2)、9-16頁。

渡辺千枝子（2008）「認知症高齢者を介護する嫁の介護意識の変容」『日本看護研究学会雑誌』31(4)、
75-85頁。

山本則子・石垣和子・国吉緑・河原宣子・長谷川喜代美・林邦彦・杉下知子（2002）「高齢者の家族にお
ける介護の肯定的認識と生活の質（QOL）、生きがい感および介護継続意思との関連：続柄別の検討」
『日本公衛誌』49(7)、660-671頁。

厚生労働省『国民生活基礎調査』<https://www.mhlw.go.jp/www1/toukei/ksk/htm/ksk051.htm>

Changes in the Care Awareness of Japanese Families as Seen from Asahi Shimbun Paper: Focus on the Database from 1980 to 2019

LI, DONGHUI RAO, SHENGAN

Abstract

This study extracted 34 instances from the Asahi Shimbun database related to care awareness, using these cases to examine the changes in familial caregiving consciousness. Through this examination, the transformation of familial caregiving in Japan from 1980 to 2019 became evident.

Firstly, there were alterations in the composition of caregivers. In the 1980s, females were the primary caregivers, but by the 1990s, male caregivers also began to emerge. In the 2000s, the proportion of male caregivers continued to increase. Moreover, when considering the relationship with the care recipients, caregiving by daughters-in-law decreased, while caregiving by individuals

with blood relations such as daughters, and by spouses with close relationships, increased.

Secondly, caregiving norms and consciousness underwent significant changes. In the 1980s, there was a strong norm of female caregiving, particularly daughter-in-law caregiving, with a prevalent consciousness that caregiving was a form of reciprocity or obligation. In the 1990s, caregivers, especially female caregivers, expressed dissatisfaction with caregiving, and there was a growing trend of passive caregiving incidents, such as caregiving abandonment, leading to a weakened motivation to continue caregiving. This trend also resulted in a decrease in the perception of caregiving as an act of reciprocity or obligation. In the 2000s, there was an increased willingness to use social care services, leading to a decline in the consciousness of caregiving within the family, juxtaposed with heightened expectations towards social caregiving. In the 2010s, the consciousness of utilizing social caregiving services became more pronounced, alongside a stronger emphasis on prioritizing one's own well-being over caregiving.

Keywords : family nursing, wife nursing norms, nursing awareness, nursing service

福岡方言に関する意識調査

橋本 恵子（福岡工業大学短期大学部）

要旨

本稿では、福岡市の短期大学生を対象に実施した「福岡方言に関する意識調査」の分析結果について考察した。その結果、64.3%の学生が「福岡方言が好き」、28.6%が「誇りを持っている」、58.9%が「福岡方言に劣等感を持ったことがない」と回答しており、方言コンプレックスを感じていないことが明らかとなった。生育地域方言以外の方言を使うことがある学生は26.8%で、その内の78.9%が関西弁を使用していた。使用場面は、友達との会話内が中心で、ツッコミを入れる時との回答が目立った。さらに、他の地域の人が福岡方言を使うのを聞き、「好ましくない」と感じる学生は1.8%と少数であった。

自由記述欄については、計量テキスト分析の手法を用いて、内容分析を行った。その結果、福岡方言の印象に関する頻出語は、「方言」「福岡」「可愛い」「思う」「人」「使う」「親近」「他県」「聞く」「話す」であった。抽出語全体の共起ネットワークを確認した結果、①福岡方言に対する親近感・可愛らしさ、②他県の人から聞く福岡方言に対する印象の良さ・嬉しさ、③音の響き等について言及されていることが分かった。性別毎の抽出語の対応分析では、男子学生は、「可愛い」「親近」「印象」等の語を挙げており、女子学生は、「話す」「音」「人」等の語を挙げていることが明らかとなった。なお、分析は、KH Coder を用いて行った。

キーワード： 福岡方言、意識調査、計量テキスト分析、内容分析

はじめに

福岡出身の芸能人やお笑いタレント等の活躍により、近年、全国的にも福岡方言が注目されている。好感度の高い方言として、京都と福岡の方言が挙げられることも多い。先行研究（田中2016）では、近畿、九州の方言意識（生育地方言が「好き」）が他の地域と比較して高いことが指摘されている。

メディアやSNS等の影響で、共通語化が進み、若年層における方言使用率が下がっているとの指摘がある一方で、テレビドラマにおいて方言が使用されたり、小学校で「方言と共通語」についての授業が実践されたりすることで、地域に根差した方言に対する理解促進が図られている状況も見受けられる。今後、表現研究において、方言は重要なテーマとな

と考えられ、若者の方言愛、方言意識の研究が必要である。

本稿では、福岡市の短期大学生を対象に実施した「福岡方言に関する意識調査」の分析結果について考察した。

1. 福岡方言について

1.1 福岡弁と博多弁

元々、福岡方言は、福岡弁と博多弁に区別されていた。福岡弁は福岡部（福岡城の城下町）の武家の方言であり、博多弁は博多部の商人の方言であった。しかし、現在では、福岡弁は博多弁に吸収され、福岡方言とは、主に博多弁を指すようになっている。ただし、福岡方言といっても、福岡市等の筑前方言、福岡県東部の豊前方言、福岡県南部の筑後方言の3地域で、それぞれの方言には微妙な違いが認められる。

1.2 福岡県内で使用される主な方言

福岡市（筑前方言）では、「～よ」の意味で、語尾に「～ばい」「～たい」を使用するが、旧豊前では、「～ちゃ」を使用する。また、「とても」を意味する方言は、地域により、「でたん」「ばり」等と異なっている。学生に限らず、福岡方言であることに気づかず、共通語だと思って公的場面で方言を使用しているケースも見受けられる。例えば、「～している」の意味で、「会議があっている」「取りに行ってる」や、「背負う」の意味で「からう」、「掃く」の意味で「はわく」、「しまう、片づける」の意味で、「なおす」等が挙げられる。

2. 調査内容及び方法

福岡方言に関する若者の意識を明らかにするため、次のようなアンケート調査を実施した。質問項目は次の通りである。

- ① 福岡方言は好きですか、嫌いですか。
- ② 福岡方言を誇りに思っていますか。
- ③ 共通語に対して、福岡方言に劣等感を持ったことがありますか。
- ④ 生育地域方言以外の方言を使うことがありますか。
- ⑤ ④の質問で「ある」と答えた人は次の質問に答えて下さい。

生育地域方言以外の方言を使うことがある人は、どの地域の方言を使いますか（複数回答可）。

⑥ ④の質問で「ある」と答えた人は次の質問に答えて下さい。

生育地域方言以外の方言は、どのような場面で、どのような理由で使いますか（自由記述）。

⑦ 他の地域の人が福岡方言を使っているのを聞いてどのように感じますか。

⑧ 福岡方言について、印象等、感じることを、思うことを自由に記入して下さい（自由記述）。

なお、⑧の福岡方言に関する印象を自由記述した項目の分析は、計量テキスト分析やテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである KH Coder を用いて行った。計量テキスト分析とは、アンケート自由記述やインタビュー記録のようなテキスト型ないし文章型のデータを計量的に分析する方法である。この方法は社会科学の分野で歴史がある内容分析（content analysis）の考え方にもとづいている（樋口 2019：18）。

調査実施日、調査対象者等は次の通りである。

調査方法：Web 調査

実施日：2023 年 1 月 11 日（水）～1 月 17 日（火）

場所：福岡工業大学短期大学部

科目名：日本語表現法（一般教養科目、1 年生選択科目）

対象者：福岡工業大学短期大学部情報メディア学科、日本人学生 1 年生 56 名、福岡県出身者（男子 41 名、女子 15 名）

3. 集計結果

3.1 集計結果と考察

集計結果は、図 1～図 6 の通りである。64.3%の学生が「福岡方言が好き」、28.6%が「誇りを持っている」、58.9%が「標準語に対して福岡方言に劣等感を持ったことがない」と回答しており、方言コンプレックスを余り感じていないことが読み取れる。生育地域方言以外の方言を使うことがある学生は 26.8%で、使うことがない学生は 28.8%と回答結果に殆ど差がないのに対して、「わからない」と回答した学生が 44.6%と多い。これは、自分が普段使用している言葉が、方言なのかどうかについての意識が薄いことが理由であると推察される。「福岡方言を誇りに思っていますか」という質問に対し、「どちらでもない」と回答している学生が 60.7%と多いことも、同様の理由によるものと考えられる。なお、「福岡方言が好き」で「劣等感を持ったことがない」にも関わらず、「誇りに思っている」と回答した学生が 26.8%と少ない。これは、「好き」「劣等感を持っていない」ことが、直接的に「誇り」に繋がるものではないことを示していると推察される。つまり、福岡方

言を使用し、愛着を持つてはいるものの、必ずしも「優越感」を持っている訳ではなく、「誇りを持つ」「自慢するような気持ち」に直結していないことを示唆していると考えられる。

また、生育地域方言以外の方言を使うことがある学生の内、78.9%が関西弁（してまう、わからへん、いけへん等）を使用し、他の選択肢（東北弁：めんこい等、高知弁：いかんぜよ等）を選択した学生はいなかった。「その他」を選んだ学生は21.1%で、具体的には「鹿児島弁、北海道弁、岐阜弁、博多弁」を使用するとの回答であった。

「どのような場面で他の地域の方言を使用するか」という設問に対する回答は表1の通りである。主に、友達との会話で、ツッコミを入れる時（相手がぼけた時の返しとしてのツッコミも含む）に使用するとの回答が目立った。また、会話の相手が話す方言につられて、自分もその方言を使用するとの回答も挙がっている。

さらに、他の地域の人が福岡方言を使うのを聞いて、「好ましくない」と感じる学生は1.8%と少数で、23.2%の学生が「好ましい」と感じ、75.0%の学生は、「どちらでもない」と回答しており、違和感を持っていないことが確認できた。

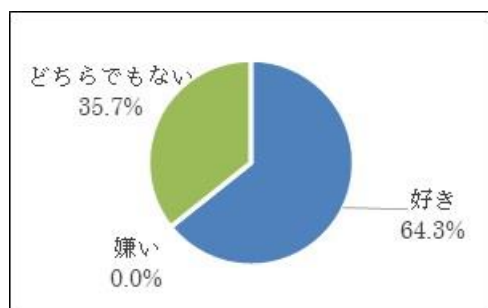


図1 福岡方言は好きか

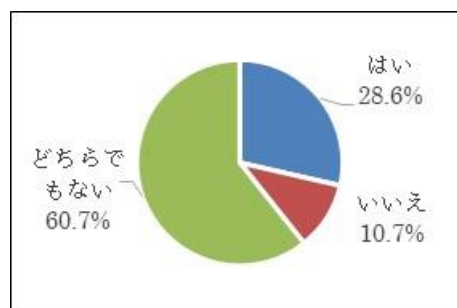


図2 福岡方言に誇りを持っているか

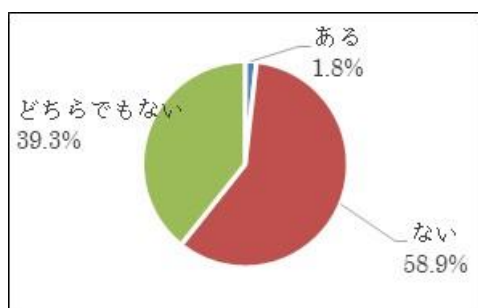


図3 標準語に対して、福岡方言に劣等感を持ったことがあるか

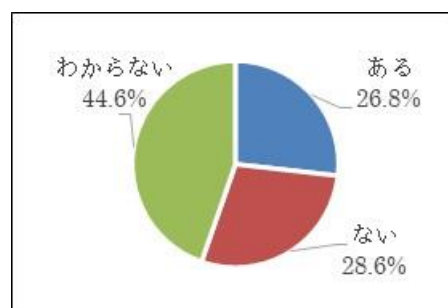


図4 生育地域方言以外の方言を使うことがあるか

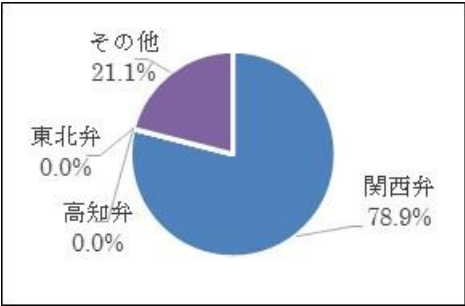


図5 どの地域の方言を使うか

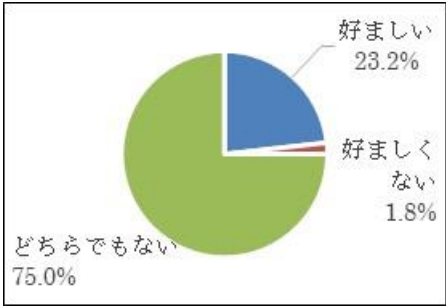


図6 他の地域の人が福岡方言を使っているのを聞いてどう感じるか

表1 どのような場面で他の地域の方言を使用するか

回答（自由記述）	性別
日常生活。	女
家族、親戚。	男
つつこむときや尋ねるとき。	男
相手がボケたときに使う。	男
友達と話しているとき。	男
博多弁と同じような使い方をしている。例えば関西弁の「してまう」であれば、何かをしてしまうときに使う。	女
好きな人に影響されて。	男
自然と出る。	男
その地域出身の人と話していると、方言がうつるため。	男
日常的に。人からうつったから。	女
その方言の人と話しているとき。	男
友人との会話。	女
友達にツッコミなどをするとときに「なんでやねん」と言う等。	男

3.2 自由記述欄の計量テキスト分析

3.2.1 頻出語

福岡方言に対する印象に関する頻出語は表2の通りであった。紙幅の関係から、出現数4以上のものを示した。

表2 福岡方言の印象

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
方言	17	使う	6
福岡	13	親近	5
可愛い	10	他県	4
思う	9	聞く	4
人	7	話す	4

3.2.2 共起ネットワークと対応分析

図7は抽出語の共起ネットワークである。共起ネットワークは、よく一緒に使用されていた語が線で結ばれるもので、内容分析の分野で古くから活用されている手法である。共起の強さはJaccard係数¹⁾で測られている。まずは、予断を交えずデータの全体像を探るため、抽出語全体の共起ネットワークを確認した。その結果、①福岡方言に対する親近感・可愛らしさ、②他県の人から聞く福岡方言に対する印象の良さ・嬉しさ、③音の響き等について言及されていることが確認できた。

図8は、性別毎の抽出語の対応分析²⁾結果である。男子学生は、「可愛い」「親近」「印象」等の語を挙げていた。「博多弁を使っている女性は可愛い」「印象が良い」「他県からも印象が良いと聞く」「福岡方言を話す相手に親近感が湧く」のように使用されていた。女子学生は、「話す」「音」「人」等の語を挙げていた。「標準語を話す友達と話している時は可愛いと言われ嬉しかった思い出がある」「“か” “と” “ばい”の音が多いように感じる」「地元民以外の人に方言強いねと言われることに疑問を持っている」「福岡の方言ではなく標準語だと思っていたものも意外と福岡の方言で他県の人に通じないことがあって驚いた」のように使用されていた。

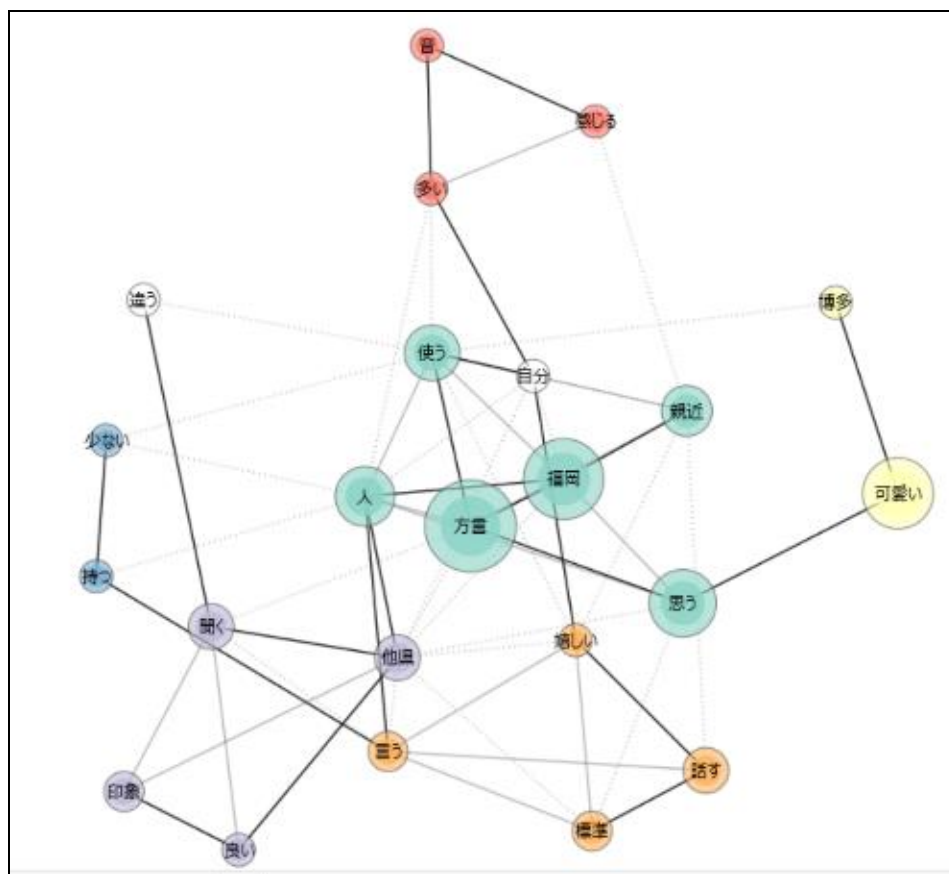


図7 抽出語の共起ネットワーク

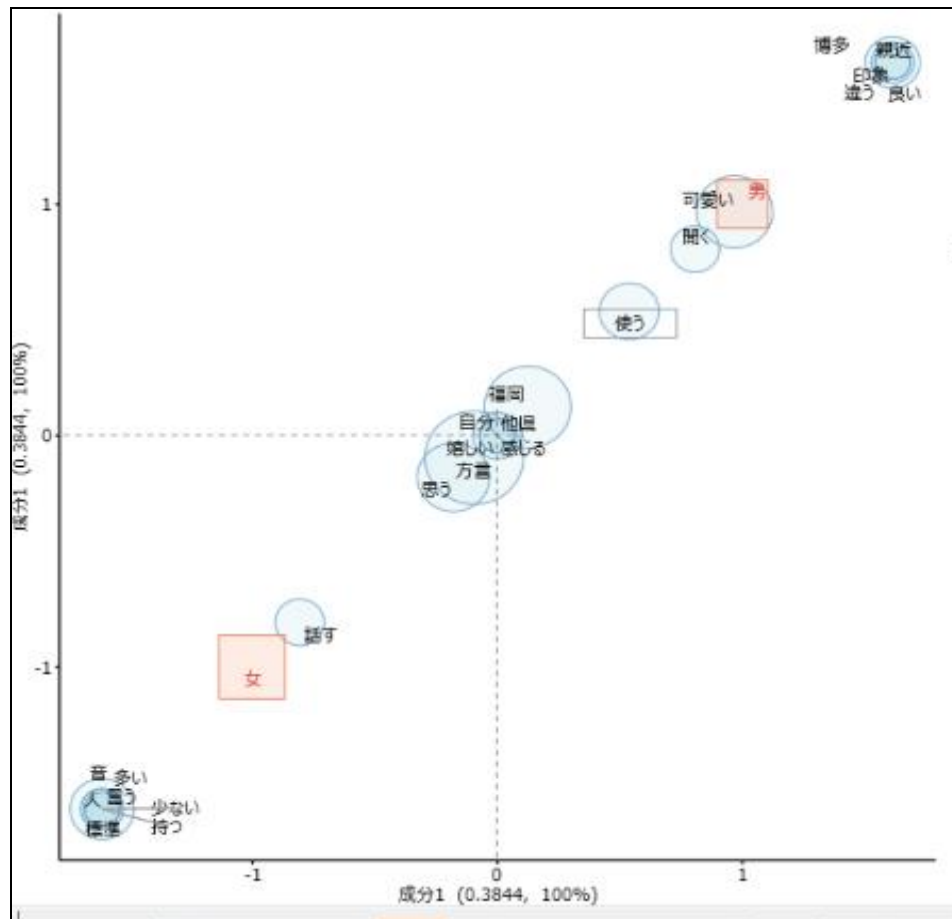


図8 性別毎の対応分析

おわりに

本稿では、福岡市の短期大学生を対象に実施した「福岡方言に関する意識調査」の分析結果について考察した。その結果、福岡方言に対する好印象、親近感、可愛らしさ等が挙げられており、方言コンプレックスを感じていないことが分かった。

今後の課題として、福岡のネオ方言（新方言）に関するアンケート調査の分析を試みる予定である。また、アンケート対象者の属性を広げることについても検討したい。

注

- 1) Jaccard 係数は、語と語の関連性（共起性）の強さを表す指標である。1 に近ければ近いほど関連性が強く、0 に近ければ近いほど関連性が弱くなる。
- 2) 対応分析では、原点 (0, 0) に平均的なものが集まる。そのため、原点から見てどの方向に布置されているか、また、原点付近よりも端の方に、特徴語が布置されることに注目して分析する。

参考文献

- 九州大学文学部言語学研究室（1983）「福岡市若年層のことば 都市化と方言使用」『九大言語学研究室報告 別冊』。
- 近藤紗耶（2010）「若年層の方言使用と方言意識—愛知県豊明市の中学生を対象として」『東京女子大学言語文化研究』東京女子大学言語文化研究会、33-49 頁。
- 真田信治・陣内正敬・井上史雄・日高貢一郎・大野眞男（2007）『方言の機能』岩波書店
- 真田信治編（2011）『方言学』朝倉書店。
- 陣内正敬（1985）「方言意識と方言使用の世代差」『文學研究』九州大学文学部、123-145 頁。
- 陣内正敬（1998）『日本語の現在—揺れる言葉の正体を探る』アルク。
- 田中ゆかり・林直樹・前田忠彦・相澤正夫（2016）「1 万人調査からみた最新の方言・共通語意—「2015 年全国方言意識 Web 調査」の報告」『国立国語研究所論集』117-145 頁。
- 中村萬里（2005）『即訳! ふくおか方言集』西日本新聞社。
- 樋口耕一（2019）「計量テキスト分析における対応分析の活用—同時布置の仕組みと読み取り方を中心に」『コンピュータ&エデュケーション VOL. 47』、18 頁。
- 樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】KH Coder オフィシャルブック』ナカニシヤ出版。

An Attitude Survey on Fukuoka Dialect

HASHIMOTO, Keiko

Abstract

This paper examines the analysis results of “An Attitude Survey on Fukuoka Dialect” targeting junior college students in Fukuoka City. According to the survey results, 64.3% of the students “love Fukuoka dialect,” 28.6% “are proud of Fukuoka dialect,” and 58.9% “never felt inferior about Fukuoka dialect,” indicating that the students do not have inferiority complex regarding the dialect. On the other hand, 26.8% of the surveyed students sometimes use non-native dialects, with 78.9% of them using Kansai dialect. Many of these students use Kansai dialect in conversations with friends, especially when they make quips. As for Fukuoka dialect spoken by persons from areas other than Fukuoka, only 1.8% of the students “have an unfavorable impression.”

Regarding the free descriptions, a content analysis was conducted using the quantitative text analysis method. According to the analysis results, the most frequently used words to describe impressions of Fukuoka dialects are: “dialect,” “Fukuoka,” “cute,” “think,” “person,” “use,” “familiar,” “other prefecture,” “listen,” and “speak.” Also, the results of the co-occurrence network analysis that includes all the words extracted indicate that these words are mentioned in topics such

as 1) feeling of familiarity for and the cuteness of Fukuoka dialect, 2) favorable impression of Fukuoka dialect expressed by persons from other prefectures and joy of knowing such response, and 3) sound of the dialect. The results of correspondence analysis of the extracted words by sex indicate that male students often use words such as “cute,” “familiar,” and “impression,” whereas female students mention words such as “speak,” “sound,” and “person.” The analyses were conducted using KH Coder.

Keywords : Fukuoka dialect, awareness survey, quantitative text analysis, content analysis

学会役員

<顧問>

山泉進(明治大学・名誉教授)

李漢燮(高麗大学・名誉教授)

<会長・理事>

金龍哲(東京福祉大学・教授)

<副会長・理事>

安達義弘(日韓言語文化交流センター・
副代表)

李東哲(山東外事職業大学・教授)

権寧俊(新潟県立大学・教授)

崔光准(新羅大学・名誉教授)

杉村泰(名古屋大学・教授)

鄭亨奎(日本大学・特任教授)

李東軍(蘇州大学・教授)

<常任理事>

岩野卓司(明治大学・教授)

崔肅京(富士大学・教授)

李慶国(追手門学院大学・教授)

金珽実(商丘師範学院・副教授)

金光林(新潟産業大学・教授)

<一般理事>

阿莉塔(浙江大学・副教授)

安勇花(延边大学・副教授)

白曉光(西安外国語大学・副教授)

宮脇弘幸(宮城学院女子大学・客員研究
員)

李光赫(大連理工大学・副教授)

娜荷芽(内蒙古大学・教授)

任星(厦門大学・副教授)

施暉(蘇州大学・教授)

王宗傑(浙江越秀外国語大学・教授)

徐瑛(延边大学・副教授)

朴銀姫(延边大学・教授)

中川良雄(京都外国語大学・特任教授)

堀江薫(新潟県立大学・名誉教授)

飯嶋美知子(北海道情報大学・准教授)

李昌玟(韓国外国語大学校・教授)

宮崎聖子(福岡女子大学・教授)

熊木勉(天理大学・教授)

伊月知子(愛媛大学・准教授)

張韶岩(中国海洋大学・教授)

崔玉花(延边大学・副教授)

李東輝(大連外国語大学・教授)

薛鳴(愛知大学・教授)

李先瑞(寧波理工大学・教授)

仲矢信介(東京国際大学・准教授)

加藤三保子(豊橋技術科学大学・特任教
授)

<事務局>

事務局長

金珽実(商丘師範学院・副教授/神奈川大
学・海外招聘客員教授)

副事務局長

力丸美和(九州大学・助教)

学会動向

◆「第5回東アジア日本学研究国際シンポジウム」が韓国で共同開催

本学会 2023 年度学術大会「第5回東アジア日本学研究国際シンポジウム」は 2023 年 9 月 23 日（土）、「韓中日の日本研究の現状と展望（한중일일본연구의현황과전망）」という大会テーマで、韓国日本語学会との共催でソウルにある東国大学校で開催されました。シンポジウムでは共同開催発表者数のおよそ半数を占める 55 名の会員が参加、43 組が研究発表を行いました（対面は 20 組 23 名、オンラインは 23 組 25 名）。同大会は 2022 年 8 月、韓国日本語学会と学術交流協定締結後初めての共同イベントで、今後の更なる学術交流が期待されます。

◆2023 年度学会総会がオンラインで開催

本学会 2023 年度総会は 2024 年 1 月 29 日、金龍哲会長の司会によりオンラインで開催されました。総会は(1)年間活動報告、(2)会計報告、(3)次期会長選挙、(4)次年度大会開催及び開催地関連広報、(5)その他の議題で行われました。(1)の年間活動報告では各委員からの報告があり、(2)の会計報告は監査の朴占玉会員によって行われ、参加会員全員の承認を得ました。また、(3)の次期会長選挙では、李東哲現副会長が理事会により単一候補として推薦され、総会満場一致で承認されました。また、次年度の学会大会は寧波理工大学で開催されることが決まりました。

◆学会誌第12号への投稿募集

2024 年 9 月発行予定の『東アジア日本学研究』第 12 号への投稿を募集中です。会員の皆様の積極的な投稿を期待します。締め切りは 4 月 1 日（月）の北京時間 24 : 00 です。

東アジア日本学研究学会副会長

李東哲

会員消息

◆新入会員（4名）

靳夢瑩（九州大学大学院、大学院生）、邢璐（新羅大学校大学院、大学院生）、石澤瑋（衢州学院、講師）、朱一平（大連外国語大学、講師）

◆会員の所属・職位変更

荒まゆみ 尚美学園大学、助教 → アジア国際語学センター、教務副主任
于心 成都東軟学院、助教 → 成都東軟学院、副教授
張智超 成都東軟学院、専任講師 → 成都東軟学院、副教授
李凌飛 蘇州大学外国語学院、専任講師 → 蘇州城市学院城市文化与伝播学院、専任講師

◆学位取得

朴占玉（韓国・新羅大学、文学博士、2024年2月）
論文テーマ 『「万葉集」の研究—女流歌人の出自と歌を中心に—』
李凌飛（蘇州大学、文学博士、2023年7月）＊追加
論文テーマ 『中日大学生のあいさつ行動についての対照研究』

◆書籍出版

李東哲『日本語と日本語教育研究Ⅱ』韓国文化社、2023年12月

※上記の情報は2023年10月1日以降、2024年3月31日までの変動事項です。

東アジア日本学研究学会副会長

李東哲

東アジア日本学研究学会会則

<名称>

第1条 本会は、東アジア日本学研究学会(The Society of Japanese Studies in East Asia)と称する。

<目的>

第2条 本会は、東アジア地域における日本学の学際的研究をととして、また、それぞれの研究者が研究成果を発表し交換し合うことをととして、学問の進歩及び当該地域の平和的發展に寄与することを目的とする。

<事業>

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 東アジア地域における日本学を中心とした学際的研究・調査
2. 学会、研究会、講演会及びシンポジウムの開催
(学会における共通言語は、原則として日本語とする)
3. 機関誌及び図書等の刊行
4. 内外の学術団体、研究者との連絡及び学術上の交流
5. その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業

<会員>

第4条 本会の会員は、個人会員、賛助会員とする。

1. 個人会員は、東アジア地域の研究に関心を持ち、かつ本会の目的に賛同する個人
2. 賛助会員は、本会の目的に賛同し、本会の事業に協力する法人・団体または個人

第5条 本会には、名誉会員および顧問をおくことができる。名誉会員および顧問は、理事会が推薦し、会員総会の承認を受ける。

<入会・退会>

第6条 本会に入会を希望する者は、理事会に申請し、その承認を得るものとする。

ただし、大学院生は、指導教員の推薦を得ることとする。

第7条 本会を退会しようとする者は、退会を事務局に通告すれば退会することができる。
会費を2年間滞納した者は、理事会において承認のうえ、退会とみなす。

<会費>

第8条 会員の会費は、次のように定める。

一般会員	5,000 円
学 生	3,000 円
賛助会員	50,000（1口） 円

<役員>

第9条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 若干名
3. 理事 30名以内（理事のうち若干名を常任理事とする）
4. 事務局長 1名
5. 会計監事 2名
6. その他理事会が必要と認めた役員

第10条 役員の任期は、就任から2年とする。ただし、再任は妨げない。

<役員の職務>

第11条 本会の役員の職務は次のとおりとする。

1. 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に不都合が生じた時はこれを代理する。
3. 理事は、理事会を組織し、会務を審議執行する。理事会の議事は、出席者の過半数により決定する。
4. 事務局長は、会長の指示に基づいて、事務を執り行う。
5. 会計監事は、会計を監査する。

<役員の選出>

第12条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 会長は、会員総会において選出する。
2. 副会長・理事は会長が任命する。
3. 会計監事は、会員総会において選出する。
4. その他の役員は、理事会が委嘱する。

<学会誌編集委員会>

第13条 本会は、理事会のもとに学会誌編集委員会をおく。

1. 学会誌編集委員会は、学会誌の出版計画を立案し、これを理事会に提案する。
2. 委員は、個人会員の中から理事会が推薦し、会長が任命する。
3. 委員の任期は、就任から2年とする。ただし、再任は妨げない。

4. 学会誌編集委員会に委員長を置き、委員の中から互選する。
5. 委員長は、学会誌編集委員会の事務を掌理する。

<会員総会>

第 14 条 本会は、毎年 1 回会員総会を開催する。

第 15 条 会員総会では、次の事項を審議決定する。

1. 事業報告及び決算
2. 事業計画及び予算
3. 会長及び会計監事の選出
4. 会則の変更
5. その他の必要な事項

第 16 条 臨時会員総会は、理事会が必要と認めたとき、または会員の 2 分の 1 以上の要望があるときに開催する。

第 17 条 会員総会の議決は、出席会員の過半数をもって決する。

<会計>

第 18 条 本会の運営は、会費及びその他の収入で賄う。

1. 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、3 月 31 日に終わる。
2. 本会の決算は、会計監事の監査を受けなければならない。

<雑則>

第 19 条 本会の所在地は、〒818-0125 福岡県太宰府市五条 2 丁目 8-8-205 とする。

<付則>

1. 本会の設立は、2018 年 9 月 1 日とする。
2. 本会則は、2018 年 9 月 1 日から実施する。
3. 本会の運営に必要な事項は理事会が定める。

『東アジア日本学研究』投稿要領

- 1) 『東アジア日本学研究』は、東アジアにおける日本学研究に関する論文・研究ノート・書評などにより構成される。
- 2) 1年に2号（春季号・秋季号）の刊行を原則とする。
 - ・春季号はシンポジウムの論文集とする。毎号シンポジウム終了後3週間以内を目安にその都度締め切りを設ける。
 - ・秋季号はシンポジウムの発表以外の内容も含む学術論文集とする。投稿期間は毎号3月1日から4月1日までとする。
(例：2020年度年会費分の春季号は翌2021年3月、秋季号は翌2021年9月に発行予定)
- 3) 『東アジア日本学研究』に投稿できるのは以下の者および編集委員会で承認した者とする。
 - ・春季号
筆頭著者：会員およびシンポジウムで発表した非会員
共著者：上記の者のほか、シンポジウムで発表していない非会員も可
 - ・秋季号
筆頭著者：会員のみ
共著者：会員のほか、非会員も可
- 4) 投稿者が会員の場合、投稿する当該年度までの会費を投稿前に全て納入しなければならない。投稿者が非会員の場合は、投稿料として会員の年会費相当額を、投稿本数分事務局に納入することとする。（いずれの場合も、筆頭著者だけでなく共著者も同様とする。）
- 5) 投稿者が学生会員の場合は、投稿時に投稿原稿、投稿票とともに、指導教員等による投稿承諾書（100字以内で様式は任意。指導教員等の署名または捺印が必須）を提出しなければならない。ただし、編集委員会が投稿を依頼した者については、これを適用しない
- 6) 投稿原稿は未発表のものでなければならない。投稿者は投稿原稿の不採用が決定される前に当該原稿を他の場所で公刊してはならない。
- 7) 本誌の春季号と秋季号は両方同時に投稿することができる。ただし、両者の内容は異なるものとする。また、一人が一回に投稿できる本数は以下の通りとする。
 - ・筆頭著者2本以上…不可
 - ・筆頭著者1本のみ…可
 - ・筆頭著者1本、第二著者以下1本…可
 - ・筆頭著者1本、第二著者以下2本以上…不可
 - ・筆頭著者0本、第二著者以下2本まで…可
 - ・筆頭著者0本、第二著者以下3本以上…不可
- 8) 『東アジア日本学研究』に掲載された全ての原稿の著作権は東アジア日本学研究学会に帰

- 属する。
- 9) 原著者が『東アジア日本学研究』に掲載された文章の全部または大部にわたって複製利用しようとする場合には、事前に編集委員長に申請しなければならない。編集委員会は特段の不都合がない限りはこれを受理し、複製利用を許可する。
 - 10) 『東アジア日本学研究』に掲載された全ての原稿は、東アジア日本学研究学会のホームページにおいてPDFファイルにて公開する。
 - 11) 投稿者は、東アジア日本学研究学会ホームページに掲載の「執筆要領」の内容を踏まえ、これに準拠した完成原稿と投稿票を提出する。投稿票は別添の所定の様式で提出すること。
 - 12) 「完成原稿と論文要旨」「投稿票」「投稿承諾書」は、E-mail の添付ファイルとして送付する。ファイル形式は原則として MS-Word とする。ファイル名はそれぞれ次のようにすること。

	ファイル名	例
完成原稿と論文要旨	1. 論文・要旨（氏名）	1. 論文・要旨（山田太郎）
投稿票	2. 投稿票（氏名）	2. 投稿票（山田太郎）
投稿承諾書	3. 投稿承諾書（氏名）	3. 投稿承諾書（山田太郎）

- 採用が決定された原稿の提出方法は編集委員会から再度通知する。
- 13) 投稿された原稿は、査読者2名による審査結果をもとに、編集委員会が採否を決定する。
 - 14) 採用された場合、投稿者は英文要旨を提出する。英文要旨は、提出前に必ずネイティブチェックを受けること。
 - 15) 原稿の投稿先および問い合わせ先は次のとおりとする。
- 東アジア日本学研究学会事務局 E-mail: eaja20172@163.com

2018年9月30日 制定
2019年9月20日 改正
2021年4月20日 改正
2023年1月20日 改正

投 稿 票		
投稿日：20 年 月 日		
氏名		
所属・職位	(例) ○○大学・助手、講師、副教授、教授、大学院生	
メールアドレス		
電話番号		
論文タイトル		
種類（該当を残す）	春季号 / 秋季号	論文・研究ノート・書評
分野（該当を残す。 複数回答可）	1. 語学・言語教育 2. 文学 3. 文化 4. 歴史 5. 哲学・思想 6. 経済 7. 政治 8. その他	
連絡事項 事務局または編集委員会に連絡したいことがあれば書いてください。特になければ記載不要です。		

『東アジア日本学研究』執筆要領

1) 利用言語

原稿は日本語を使用し、横書きで作成する。

2) 原稿枚数

原稿の枚数は40字×35行を1枚と換算して、春季号論文は5～7枚(注・図表・参考文献を含む)、秋季号論文は10～15枚(注・図表・参考文献を含む)とする。

3) 見出し番号の表記

本文内の各節章の見出しにつける番号は1.、2.、3. …とし、その下の款項には1.1、1.2、1.3…を用いる。さらにその下の項には1.1.1、1.1.2、1.1.3…を用いる。最初に「はじめに」、最後に「おわりに」を置いてもよい(番号は付けない)。

4) 句読点の表記

句読点は全角の「、」「。」を用いる。

5) 括弧の表記

括弧は原則として全角とする(欧語表記および注記を示す記号に用いる片括弧を除く)。

6) 数字の表記

数字は、熟語など特別な場合を除き半角のアラビア数字を用いる。4桁表記以上となる場合は、コンマ(,)を用いる。また、「兆、億、万」などの漢数字を用いてもよい。

7) 年号の表記

年号は原則として西暦を用いる。必要に応じて、西暦の後に元号などを丸括弧に入れて併用してもよい。

8) 度量衡の単位は、原則として記号(m kg など)を用いる。

9) 図や表には番号とタイトルを記入する。

10) 注は以下のように該当部分の右肩に入れ、論文末にまとめて並べる。

～と考える¹⁾。

11) 参考文献の表記

本文と注記で用いた全ての文献を「参考文献」として本文の最後に一括して表示する。

参考文献の表記は以下のとおりとする。

(日中韓語の書籍) 編著者名(発行年)『書名—副題』出版社。(MS 明朝 9P)

(日中韓語の雑誌論文) 著者名(発行年)「論文名—副題」『雑誌名』巻数(号数)、〇—〇頁。

(日中韓語の書籍中の論文) 著者名(発行年)「論文名—副題」(編者名『書名—副題』出版社)、〇—〇頁。

(日中韓訳書) 編著者名(発行年)『書名—副題』(訳者名、原著は〇年発行)出版社。

(欧文の書籍) 編著者名(発行年) 書名: 副題, 発行地: 出版社。

(欧文の雑誌論文) 著者名(発行年) “論文名: 副題,” 雑誌名, 巻数(号数), pp. 〇—〇。

(欧文の書籍中の論文) 著者名(発行年) “論文名: 副題,” 編者名 ed., 書名: 副題, 発行地: 出版社, pp.

〇—〇。

『東アジア日本学研究』査読要領

【査読スケジュール】

・投稿締切日

（春季号）シンポジウム終了後3週間以内とする。

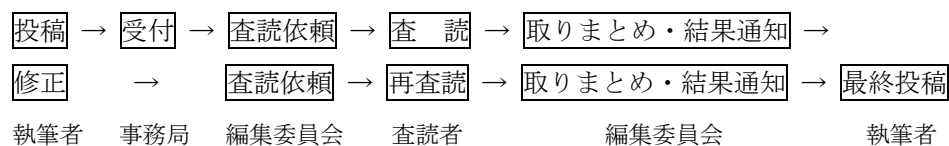
（秋季号）毎号4月1日（北京時間24:00）とする。

・投稿先：東アジア日本学研究学会事務局 E-mail: eaja2017@163.com

・査読の流れ

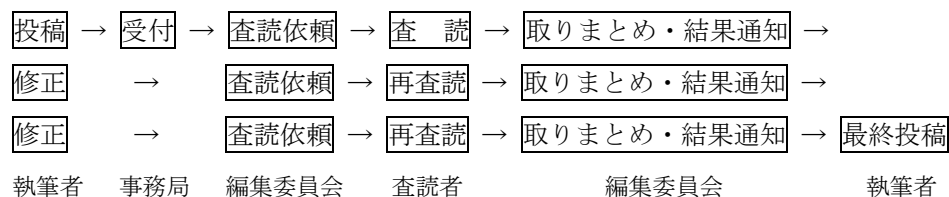
（春季号）査読は2回までとする。

（2回目の総合評価が「再査読」の場合は結果的に「不採用」となる。）



（秋季号）査読は3回までとする。

（3回目の総合評価が「再査読」の場合は結果的に「不採用」となる。）



【査読者の構成】

- 1) 論文1編について2名の査読者が査読する。
- 2) 査読者は編集委員会によって原則として会員の中から選任する。会員の中に適任者がいない場合は外部審査員を依頼することができる。審査料は全て無料とする。
- 3) 春季号の場合は、自己の投稿論文でなければ査読可能とする。秋季号の場合は、投稿者は当該号の査読は行わないこととする。

【査読】

- 4) 査読は投稿者・査読者間、査読者間ともに匿名で行うこととする。
- 5) 判定は、「採用」「条件採用」「再投稿」「不採用」の4段階とする。
 - ・「採用」は誤植程度の修正しか必要でない場合とする。
 - ・「条件採用」は査読者から指摘された問題が1週間程度で修正でき、当該号での採用が見込める場合とする。
 - ・「再投稿」は査読者から指摘された問題が2週間程度で修正でき、当該号での採用が見込める場合とする。

・「不採用」は当該号での採用のレベルに達していない場合とする。

- 6) 査読者は所定の「査読票」に査読結果とコメントを記入する。
- 7) 論文の中に投稿者が特定される情報が書かれていることが査読の過程で明らかになった場合でも、原則として査読を継続する。但し、投稿者と査読者が指導教員と指導生の関係、同じ機関に属する等の場合には、査読者の交代を行う。
- 8) 査読にあたり二重投稿等の疑義等が生じた場合、投稿者宛てコメントには記載せず、編集委員会宛てコメントに記載する。

【査読結果のとりまとめ】

- 9) 査読者は「査読票」を編集委員長に送付する。
- 10) 編集委員会では、以下の総合判定ガイドラインに基づいて採否を決める。基本的にこれを順守するが、このガイドラインに従わない方がよいと判断される場合には、編集委員会で審議する。

＜総合判定ガイドライン＞

(◎採用、○条件採用、△再投稿、×不採用)

採用 : ◎◎ (6点)

条件採用 : ◎○ (5点)、○○、◎△ (4点)

再投稿 : ◎×、○△ (3点)、○×、△△ (2点)、△× (1点)

不採用 : ×× (0点)

- 11) 総合判定の確定後、編集委員長は結果を事務局に送付する。
- 12) 事務局は、総合判定結果と査読者のコメントを投稿者に送付する。

【再投稿・最終投稿】

- 13) 「採用」の場合は、微修正の確認を編集委員会で行う。
- 14) 「条件採用」と「再投稿」の場合は、初回の2名の査読者で再度査読する。
- 15) 春季号の査読は2回まで、秋季号の査読は3回までとし、査読結果に基づいて編集委員会で最終判定を行う。
- 16) 編集委員会は最終判定結果を事務局に送付し、それを事務局から投稿者に送付する。

【その他】

- 17) 「不採用」に関する投稿者からの反論には原則として応じない。
- 18) 校正は字句等の修正のみ認める。問題が生じた場合には編集委員長が確認する。

編集後記

編集委員長 杉村泰（名古屋大学教授）

本号には21本の投稿がありました。各論文とも2名の査読者による審査が行われ、採用13本、不採用2本、不受理3本、辞退3本という結果になりました。今回は書式や日本語に不備のある投稿が目立ちました。内容だけでなく書式や日本語もしっかり見直して投稿して下さい。

副編集委員長 加藤三保子（豊橋技術科学大学特任教授）

本誌で日本語非母語話者による日本語研究の論文に出会うたび、日本人として大変良い刺激を受けています。非母語話者ならではの独創的な視点から母語話者は多くの気づきをもらい、日本語の奥深さを考える好機となっています。

編集委員 加藤恵梨（愛知教育大学准教授）

今回も「東アジア日本学研究」という名にふさわしく、東アジアの各地域の言語や文化等に関する優れた研究がみられ、査読を通して大変勉強になりました。次回も会員のみなさまのご論考を拝読できるのを楽しみにしております。ご投稿をお待ちしております。

編集委員 金光林（新潟産業大学教授）

今回も査読を通していい勉強になりました。『東アジア日本学研究』誌にたくさんの論文が投稿されており、本学会の発展につながると思います。しかし、投稿論文の書式、日本語の表現問題が指摘されるので、投稿者はこの方面のさらなる工夫が必要だと思います。

編集委員 吉川佳英子（愛知工業大学教授）

今年も様々な力作が寄せられました。オリジナリティあふれる研究成果が多く、それらを讀ませていただくのはたいへん有意義でした。なお、投稿する際は、原稿の「見直し」を忘れないようにしましょう。

編集委員 李東軍（蘇州大学教授）

今回も査読を通していい勉強になりました。とりわけ東アジアの文化や文学などの研究成果の投稿に触れ、よい刺激を受けました。これからも、素晴らしい投稿が寄せられますよう、期待しております。それが我が研究会のさらなる発展につながると思います。

事務局（学会誌担当） 力丸美和（九州大学助教）

本号は、韓国ソウルにおける国際シンポジウムの発表内容が、論文という完成された形になっているものが多く、大変感慨深く感じました。2024年の国際シンポジウムにも多くの方にご参加いただき、論文を投稿していただければと思います。

【本号の査読者】（50音順）

安勇花（延辺大学副教授）、李昌玟（韓国外国語大学校教授）、加藤恵梨（愛知教育大学准教授）、加藤三保子（豊橋技術科学大学特任教授）、金光林（新潟産業大学教授）、金斑実（商丘師範学院副教授）、金龍哲（東京福祉大学教授）、権裕羅（秋田大学助教）、池孝民（商丘師範学院講師）、中川良雄（京都外国語大学特任教授）、ニー ウエイ（常葉大学准教授）、白曉光（西安外国語大学副教授）、朴敬玉（帝京大学准教授）、南明世（国際医療福祉大学助教）、宮崎聖子（福岡女子大学教授）、吉川佳英子（愛知工業大学教授）、李東軍（蘇州大学教授）、李東哲（山東外事職業大学教授）

東アジア日本学研究 第11号
Japanese Studies in East Asia No.11

2024年3月20日発行

東アジア日本学研究学会

The Society of Japanese Studies in East Asia

学会事務局 E-mail: eaja2017@163.com（一般）

eaja20172@163.com（学会誌専用）

住所：〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町 2020-1

東京福祉大学教育学部内

ホームページ <https://www.east-asia.info/>ISSN 2434-513X
